

1. 2015年1月の便り 年の初めに



和鉄の故郷 記紀神話の淡路島 紀淡海峡の夜明け



和鉄の故郷と 記紀神話の淡路島 紀淡海峡の夜明け
「未」の周年を迎えました
今年も笑顔の一年になりますよう
激動の時代に「まあええか 元気出してゆこう」と心は行ったり来たりです

娘・美和作

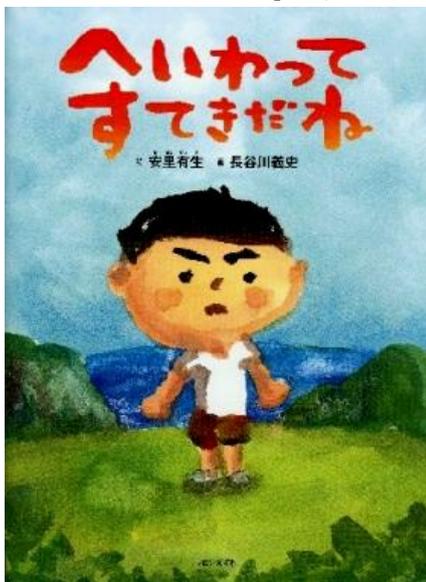


娘・美和 作

激動の時代 「未」の周年を迎えました いつも気にかけていただき感謝です
「まあええか 元気出してゆこう」と心は行ったり来たり
今年も笑顔の一年になりますよう よろしくお願ひ致します

2015年 1月1日 from Kobe by Mutsu Nakanishi

『へいわってすてきだね』 詩 安里有生 絵 長谷川義史



へいわって なにかな。
ほくは、かんがえたよ。
おともだちとなかよし。
かそくが、げんき。
えがおであそぶ。
ねこがわらう。
おなかがいっぱい。
やぎがのんびりあるいてる。
けんかしてもすぐなかなおり。
ちょうめいそうがたくさんはえ、
よなくにうまが、ヒヒーンとなく。
みなには、フェリーがとまっていた。
うみには、かめやかじきがおよいでる。
やさしいところがじになる。
へいわっていいね。へいわってうれしいね。
みんなのころから、
へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい
「ドドーン、ドカーン。」
ばくだんがおちてくるこわいおと。
おなかがすいて、くるしむことも。
かそくがしんでしまって なくひとたち。

ああ、ほくは、へいわなときにうまれてよかったよ。
このへいわが、ずっとつづいてほしい。
みんなのえがおがずっと、つづいてほしい。

へいわなかそく、
へいわながっこう、
へいわなよなくにじま、
へいわなおきなわ、
へいわなせかい、
へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように
ほくも、ほくのできることからがんばるよ。

2. 今 一番気になっている言葉です

◆ ヒューマンを特徴づける「利他の精神」

「利他」なんていうと「何をええ恰好して・・・」と言われそうで、口にできなかつた言葉ですが、人間が人間たるゆえんが、この「他人を思う心」。

この精神があつてこそ 地球上で人間が生き延びてきた。それを真面目に考える時だ。

以前にも紹介しましたが、今急激な情報社会の中で、そんな余裕すら失われつつある時代に見える。そんなことを思いめぐらす年の初めである。

ヒューマンを特徴づける「利他的精神」がこんなところにも

人間が人間たる由縁は「他を思いやる心」を持っていること。現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、文明を発展させて 今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合せていたからだという。そんな「心やさしき」縄文人は 世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。激しい競争社会が展開させる現在 今一度 この人類史の現実をみつめ直す必要がある。

ややもすれば 自己責任を強要する現代社会への警鐘 こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

天声人語

おもしろい実験をネットで見
た。2本の高速道路が合流する
場合、どうすればすんなりと車
線変更できるかを探っている。
「渋滞学」の生みの親として知
られる東大の西成浩裕教授が説
明役だ▼車の代わりに人間が二つの道を
歩く。合流する直前まで互いが見えない
状況ですぐに車線変更しようとする
と、ぶつかりそうになったり、詰まったりす
る。危ない。そこで合流地点から一定の
距離を車線変更禁止とする。するとその
間、互いを見合い、譲り合いながら車線
を変えられるようになる▼われ先に走る
よりは、まわりとコミュニケーションを
取りながら運転するほうが、結果的に速
くなる。車間距離を十分に取ることもど
とともに、道路の流れをよくするための
知恵である▼この実験は「利他的精神実
験」と銘打たれている。西成教授が強調
するのは、他のドライバーへの思いやり
だ。目先のプラスばかりを追わず、長期
的視野を持つ。情けは人のためならず。
損して得とれ、とも。頭ではわかってい
ても、なかなか実行できないところが凡
夫の悲しさか▼きのう、Uターンラッシ
ュに巻き込まれた方も多いに違いない。
きょうも混雑が続くだろう。渋滞のスト
レスを長時間受け続けるつらさはいかば
かりか。どこにも出かかずじっとしてい
た身には、お気持ちを拝察することしか
できない▼大型連休が終わる。朝の駅の
雑踏が戻ってくる。遅い流れにいら立
って、ともすると前に出たがるのを自
戒することにする。急がば回れ、だ。

2014・5・6

2014. 5. 6. 朝日新聞 天声人語より

私がなにを思ってきたか それがいまの私をつくっている
あなたがなにを考えてきたか それがいまのあなたそのもの
世界はみんなのところで決まる 世界はみんなのところで変わる
谷川俊太郎 「こころの色」より

現在の急激な情報化社会進展の中で、格差・差別・貧困がもたらす争いも急増し、武器など力を背景にそれを突破することはもはや困難で、解決の糸口さえ見つからぬ状況になってきた。

これを突破できる唯一の知恵はこの ヒューマンがこの多難な地球上で生きながら得る原動力だった「利他的精神」。それを提唱する人が数多くいる。もっとも 日本で正面だつていうのは、宗教家か教育者と相手にもされないが……。一方 2020年東京オリンピックをビジネスチャンスととらえ、それこそ「おもてなし」を声高に言う輩が多い。でも そのほとんどは その中身を理解せず、薄っぺらなマニュアル本よろしく、形だけのポーズでこれを利用する。そこには 利他の精神が根底にある「おもてなし」の心を全く理解せず、旧態依然とした力・金権体質が見え隠れする。言葉と言葉の中にある本質理解 その乖離が日本ではIT社会の進展とともに、益々広がっている。

今 これに歯止めがかからぬと 日本はまたぞろ世界の孤児になりかねない。

そんな監視役を担えるのは 経験豊富でしかも 日本の高度成長と貧困時代を経験してきた高齢層にしかない。

年寄は静かにリタイヤなんて 言って居れぬ時代。今こそ 年寄がものを言わねばならない。

谷川俊太郎さんの詩が グサッと胸に突き刺さる。

年寄はまだ退場してはならぬ。俺流の中に自分の生きてきた道で培った判断力を行使せねば……。

俺流というと すぐに自己流とごかいされそうですが、もちろん仲間・家族がいての俺流である。

◆ ジョージ カーリンの「いつまでも若くいるコツ」

今年は「未年」 私の周り年 高齢者の仲間入り。

行動半径も小さくなりつつある今、どんな生き方が一番なのだろうか？

相変わらずの勝手気ままな風来坊生活に みんなどうしているのだろうか？ と。

久しぶりにジョージ カーリンの「いつまでも若くいるコツ」の動画を引っ張り出して、笑ってしまった。バックに流れるBGMが美しく、高齢者にとって、彼が言う「示唆に富んだ楽天性」が楽しくて、時折引っ張り出しては、眺めています。

「こんだけ 楽天的に楽しく暮らせたなら本当に楽しいやろうなあ・・・」と。

でも 随所に 利己的にならずに 仲間と暮らす知恵がある。ちょっとづつでも胸張って 前向いてと。年寄には厳しい時代 こんな楽天性や仲間に助けを求めるのも必要か

ジョージ カーリン氏からのメッセージ

「老いを嘆くことはない。100才になったら 赤ちゃんに戻れるんだから……
そして 忘れてはいけない。

人生とは、自分が息を吸う数ではなく 息を吐く瞬間で測定するものです。

充実した毎日を生きましょう!!

」と

《 いつまでも若くいるコツ 》 by ジョージ カーリン

1. 年齢、体重、身長など、どうでもいい数字は気にしないこと こんな事は医者任せましょう。そのために医療費を払っているのですから。
2. 元気な友達とだけ付き合うこと 愚痴しか言わない人といると、こちらの気持ちも暗くなります。
3. 生涯学習あるのみ コンピュータ、工芸、ガーデニング、ハム無線、なんでもよいので学ぶ姿勢を持ちましょう。脳を怠けさせない事。怠けた心には、衰えという悪が宿ります。
4. 単純な事を楽しみましょう
5. 沢山、長く、大きな声で、お腹が痛くなるくらい笑いましょう
6. 悲しみ、耐えて、そしてまた進む 涙も出るでしょう。しかし生涯付き合ってくれるのは、自分自身です。命ある限り、自分の人生を歩みましょう。
7. 好きなものに囲まれて暮らしましょう 家族、ペット、思い出の品、音楽、植物、趣味、何でもいいですから好きなものに囲まれて暮らしましょう。家は自分の居心地の良い場所なのですから。
8. 体を大切に！ 今健康ならそれを維持し、悪いなら、改善に努めそれが無理なら、助けを求めましょう。
9. 後悔しないこと ショッピング、隣町、外国、とにかく後悔する気持ちを忘れさせてくれる場所に出かけましょう。
10. どんな時でも、大切な人に「愛している」と伝えましょう

そして忘れてはいけない事： 人生とは、自分が息を吸う数ではなく息を吐く瞬間で測定するものです。充実した毎日を生きましょう!!

今できることを 精一杯 無理せずゆっくりと
好奇心さえあれば・・・と前向いて
お互い笑顔で 前向き思考 元気で乗り切って行きましょう

2015年1月1日 From Kobe
Mutsu Nakanishi



寒さに震える朝 でも春の芽も 2月の便り

1. 《節分の鬼》 鬼にされたたら衆ほか和鉄の道掲載リスト
2. 大阪 うどん屋のかぜ薬「うどんや風一夜薬」

1. 《節分の鬼》 鬼にされたたら衆ほか和鉄の道掲載リスト

《 節分の鬼 》 に思いをはせています 寒さに負けず 元気で今を

「鬼」伝承やことわざに縄文からの「日本人の奥深い心情」を見る「福は内 鬼も内」

- ◎ 節分の鬼 「仲間としての鬼」-鬼にされた たたら製鉄集団-

<http://www.infokkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1402oni00.htm>

- ◎ 「日本各地の鬼伝説」 和鉄の道・Iron Road 掲載リスト

<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/13iron01list.pdf>

2015年が始まりましたが、年初から 嫌な事件が起きたり、くらい暗い話ばかり。

明るい平和な時代が一日も早く来ることをねがっています。

2. 大阪 うどん屋のかぜ薬「うどんや風一夜薬」

「大阪人は 風邪をひくと 熱いうどん、切り傷とヤケドにはアロエ。どの家もそうです」

毎日 寒さが厳しく、インフルエンザや風邪がはやっています。体調管理にはご留意ください

先日 TVを見ていたら、「大阪人は 風邪をひくと 熱いうどんを食べ、切り傷とヤケドにはアロエ。どの家もそうだ」と出演している大勢のしている大阪人たちで大盛り上がり。

大阪人は幼い頃 誰も風邪をひくと、学校が休め、熱いうどんをうどん屋から運んでもらって、それが楽しみだった経験がある。「ほんまかいな?」と家内が言うのですが、ほんまです。私にもそんな経験がある。

番組ではその後「うどんをおかずにして、食べる混ぜご飯。これも大阪の定番」とこれにも大盛り上がり。

私らの時代には「うどんと丼飯(白ごはん)」。

高校時代には 食堂でうどんを頼んで、弁当箱一杯の白飯をおかずで昼食にしていた仲間が沢山いた。

今でもうどんが出てくると「白飯」。うどんと一緒に食べる白飯は本当に一番。それも冷や飯が……。

大阪では焼きそばも白飯がつく。昼食の定番定食だ。

大阪では誰もそれを気にしないが、他の地では 目を丸くしてみられることが多い。

粉物の文化の地大阪では たこ焼きやお好み焼きが語られることが多いのですが、大阪人には「うどん」にも強い愛着と思いがあがる。そういえば 落語の時そばも その元は大阪落語の「時うどん」である。

大阪に「うどん屋の風邪薬うどんや風一夜薬」がある。

創業100年を超え、かつてはうどん屋に置かれていたかぜ薬。

うどんと一緒に体があたたまる「しょうが湯」

うどんたべてこの生姜湯飲んで一晩ぐっすり。

昔から大阪のうどん屋にあり、また住吉大社の縁日で売られていて 大阪や住吉さん界隈ではだれもが知っている。数年前に教えてもらって、背筋が寒い夜にはこれを飲むとポカポカ。通販もあるようですが、最近 神戸の東急ハンズの入口で旗を立てて売っているので、仲間に紹介すると「大阪では有名や」と知っていました。最近ささぬきうどんに押されっぱなしの大坂のうどんですが、大坂のアイデンティティの一つ。

私と同じ思いを「うどん」に持つ御仁が多くいるのを知って

嬉しくな って、寒さ厳しい2月 ちょっと紹介です。



【From Kobe 2015年3月の便り】

2015.3.5. by Mutsu Nakanishi

From Kobe2015

3.

◆ 弥生3月 神戸の春便り

◆ ぶつぶつ from Kobe

1. 新聞の紙面作りに疑問符？ 私の新聞感にあわなくなった
2. 造船大国復活うれしいニュース

梅の香りがほのに漂うひかる海
街ではイカナゴのくぎ煮のにおい 神戸の春の到来です



陽光にきらきら光る須磨の海 神戸に春の訪れを告げるイカナゴ漁の船・海苔船そして大型の航行船などが海峡を行く
待ちかねた春 神戸の春の到来 輝く海に 若者がサーフィンポートを漕ぎだしてゆく

須磨海浜公園 & 須磨網敷天満宮で 2015.2.27.



2月26日 神戸に春を告げる「いかなご漁」解禁 街にはくぎ煮のにおいが通りいちめん漂い、
いかなごを求める長い行列ができ 街のあちこちで 釘煮談義の笑顔 一気に街はなやいだ雰囲気
その日のイカナゴの値段と釘煮の炊き方が これから しばらくは街一番の情報交換の話題に
我が家でも早速大きな鍋で 今年の釘煮がスタート 新子の釜揚げ
こっちはコップを準備して「釘煮」と「釜揚げ」が、食卓に並ぶのを待つ
「春が来た」のうれしい一杯

玄関にはお雛様も飾って うれしい春迎え
相も変わらずの3月 春迎えですが、
孫たちもすすく うれしい3月の到来です。

2015.3.1. 神戸 by Mutsu Nakanishi



◆ ぶつぶつ from Kobe [1]

1. 新聞の紙面作りの姿勢に疑問符？ 私の新聞感にあわなくなった

20105.2.20. by Mutsu Nakanishi

朝日新聞が従軍慰安婦問題などの誤報問題を起こして以来 政治・報道そして世論から厳しい批判を浴びるようになって以来、紙面がどうもおかしい。もう 限界に。

テレビのニュース番組やスポーツ番組が総芸能化し、NHK までもが、その路線。

情報化社会とは 客観事実情報などくそくらえと云わんばかりの押しつけ情報がメインの社会なのか・・・

誰の目にも あからさまな政治の報道・情報への介入・操作は目を覆う。

それに引き換え 新聞だけは「プロの記者が冷静に事実を記事にし、新聞社の名のもと冷静判断された記事が紙面を飾る。 読者に正確に事実を伝え、読者に判断材料を与えてくれる」。とってきたのですが、どうも そんな新聞への思い入れは過去のものと思える事態になっているのだろうか・・・。

朝日新聞の例でみると

1. 紙面を開くと広告それも全面広告・半面広告の中に記事が埋もれ、しかも広告が記事と見まがうスタイルになっているから始末に悪い。社会面 スポーツ面などページをめくらないと記事が続かない。
「広告などまとめて どけてくれ!!」 読みにくい。
2. 紙面構成が広告に負けてしまったことで、クルクルと紙面構成が変わり、しかも 何らかの理由で記事の数が激減している。 この原因は色々類推されるが 読者には今もって説明はない。
紙面構成が変わらざるを得ないのか・・・
この1月 2月の朝日の三面記事・スポーツ欄のあまりにもひどい紙面構成。記事の作り方。
もう 限界だと。
3. 新聞に読者は何を期待するのか[1]
上記にも書いたが、定期購読者にとって、朝一番と新聞を広げて見るのはなにか・・・
今日一日 いろんなコミュニケーション・行動のため、自分に必要な知識を頭に入れるのが一番。
それは 社会・経済・政治・国際・スポーツ・芸能・教育・地域 等々 どの分野にとっても同じで、意見を聞きたいのでなく、広く抜けのない事実の数々が知りたいのである。
そんな中で 記事の数の激減・スタイルがころころ変わる記事内容や紙面構成は読者にとって致命的だ。
読みにくいことこの上ない。
4. 新聞に読者は何を期待するのか[2]
記事数の激減がどこへ行ったのかという広告と意見・解説記事 それも外の人が書く記事がほとんどである。
新聞社の長きにわたる報道姿勢を信用し、意見・解説を読む。 でも 最近の署名記事を見るとよく吟味されたというより、現場報道のコメントと同じような安易さ 仲間内??
また、朝日に限って言えば、何か使命感を背負っているといった感じを受ける意見・署名記事があまりにも多く、その分 記事の数 紙面構成を日替わりのムチャクチャなものにしていると。

事実情報と意見両方が必要であるが、その情報がどちらかに偏ったり、混合されては 読者にとって迷うばかりである。新聞社の信用が大きく揺らぐ根幹であろう。

苦しい新聞社経営の中で、批判をさらされる朝日新聞がどうも そんなドツポにはまり込んでいるように見える。悲壮感ただよう紙面づくりとも読み取れるのですが、「天声人語」など長年親しんできたコラムを失うのは寂しいが、一旦やめて、地域・社会報道の多い地方紙に一度切り替えることにした。

他紙から眺めてみることで 報道が今どんな立場に立たされているのかを眺めてみたいと思っている。

以上 ここ1年私が抱いてきた新聞報道の紙面構成・姿勢に抱いてきたもやもや。 独りよがりや間違いもあると思いますが、私のような目で 今 新聞の報道姿勢を見ている人いるのだろうか…

もうろくしたのかもしれぬと思いながら、でも なあ・・・と。

◆ ぶつぶつ from Kobe

2. 造船大国復活のうれしいニュース

重厚長大の技術が見直される時代になれば・・・・・・・・

1 月末国内造船大手の今治造船が 16 年ぶりに超大型ドックの新設を発表

6 年 10 カ月ぶり 1 月の造船の受注量が韓国・中国を抜いて世界一に



神戸 中小造船の現場が並ぶ兵庫の港の港で 2014.12.27.

昨年昨年 12 月末 中小造船ドックが立ち並ぶ兵庫の港界隈を歩いていて、現場作業の音が響き渡る中小のドックにドック健在を眼にし、立ち話をした溶接屋のおっちゃんからも、

「この界隈 仕事が増えて元気だよ」と聞いて、多少懐疑的ながらうれしくなっていました。

そして、2 月末 配信されてきたデジタル新聞記事には下記の文字が躍っていました。

造船大国日本復活を恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

1 月末、国内造船大手の今治造船が 16 年ぶりに超大型ドックの新設を発表。

さらに 1 月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き 1 位に返り咲いた。

日本が月間ベースの受注量で 1 位になったのは 2008 年 3 月以来 6 年 10 カ月ぶりのことだ。

産経ニュース 2015.2.26. 【経済インサイド】

「造船大国・日本」復活恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

日本の造船業が復活に向けて動き始めた。1 月末、国内造船大手の今治造船が 16 年ぶりに超大型ドックの新設を発表。さらに 1 月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き 1 位に返り咲いた。日本が月間ベースの受注量で 1 位になったのは 2008 年 3 月以来 6 年 10 カ月ぶりのことだ。「アベノミクス」による円安や造船各社の構造改革によって、受注・コスト競争力が高まり、ここにきて息を吹き返しつつある格好だ。これに警戒しているのが、日本に代わり造船大国になった韓国勢。韓国経済新聞によると、韓国の業界関係者は「円安と技術力、安倍晋三政権の支援を背に、日本企業が中国よりも速いスピードで韓国を追撃している」と述べ、高い技術を誇る日本勢の復活に 戦々恐々としている。



今治造船広島工場で建造されている約 1 万 4000 個積みの大型コンテナ船。来年にはさらに大きい 2 万個積みがつくれる超巨大ドックを新設する

高度成長時代の先端であったが、その後は斜陽の代表とみ向きもされなくなっていた 重厚長大産業。

その物作りの代表日本の造船業が息を吹き返しつつあると聞く。

「長かった造船業が復活の動きは本物なのだ」とうれしい。

物づくりの先端と云えば電子産業や自動車産業。そして 金融や情報など虚業ばかりに眼が行く昨今、厳しい合理化をめぐり抜け、「物づくりの業」を磨いてきた重厚長大の産業。

閉塞感から脱しきれぬ日本。 短期的な視点を乗り越え、新しい突破口に重厚長大の物づくりの視点となればと期待。



久しぶりの兵庫の港 2014.12.27.

<http://www.sankei.com/premium/news/150226/prm1502260003-n1.html>

「造船大国・日本」復活恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

日本の造船業が復活に向けて動き始めた。1月末、国内造船大手の今治造船が16年ぶりに超大型ドックの新設を発表。さらに1月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き1位に返り咲いた。日本が月間ベースの受注量で1位になったのは2008年3月以来6年10カ月ぶりのことだ。

「アベノミクス」による円安や造船各社の構造改革によって、受注・コスト競争力が高まり、ここにきて息を吹き返しつつある格好だ。これに警戒しているのが、日本に代わり造船大国になった韓国勢。韓国経済新聞によると、韓国の業界関係者は「円安と技術力、安倍晋三政権の支援を背に、日本企業が中国よりも速いスピードで韓国を追撃している」と述べ、高い技術を誇る日本勢の復活に戦々恐々として いる。



今治造船広島工場で建造されている約1万4000個積みの大型コンテナ船。来年にはさらに大きい2万個積みが建造できる超巨大ドックを新設する

16年ぶりの超大型ドック新設

今年1月29日、国内外の造船関係者は驚きの声を上げた。今治造船が台湾の海運会社から世界最大級となる約2万個積みの超大型コンテナ船11隻を受注したと発表。

さらに驚かせたのが、この全長約400メートル、幅約59メートルという超大型コンテナ船を建造するため、長さ約600メートル、幅80メートルの大型新造船建造ドック（香川県丸亀市）の新設を決めたからだ。

新ドックは月内にも着工し、2016年10月の完成を目指す。同社にとっては、新設するドックは2000年に完成した西条工場（愛媛県西条市）以来。投資額は約400億円を予定している。

同社の関係者は「超大型船の商談など世界中からの多様なニーズに柔軟に対応できる生産体制が構築できる。国際競争力に磨きをかけ、顧客の期待に応える船造りを目指す」と意欲満々だ。

この新ドック建設に敏感に反応したのが、韓国の造船メーカーだ。

特に今治が2万個積みを超える超大型コンテナ船を受注していることに相当の脅威を感じているようだ。韓国経済新聞によると、これまでウルトラマックス級と呼ばれる約1万8000個積み以上の超大型コンテナ船市場は、現代重工業、サムスン重工業、大宇造船海洋などが事実上独占してきた。しかし、そこに今治造船が割って入ることになる。

韓国経済新聞は、韓国の業界関係者のコメントとして「日本が2万個積みを建造すれば、韓国造船業の牙城が揺れる」と紹介している。中国勢も大型のコンテナ船の建造を多く手がけており、日本の動きを注視しているようだ。

6年10カ月ぶりの「首位返り咲き」

中央日報電子版は、グローバル造船海運市況分析機関である英クラークソンのまとめとして、

1月の世界に占める船舶受注シェアは日本が45.9%、韓国30.9%、中国17.6%だったと報じている。

6年10カ月ぶりに日本が1位になったのは、今治の2万個積みの超大型コンテナ船の大量受注が成長の一因として作用したとした。

そもそも1980年代は日本が世界の造船市場でトップランナーを走っていた。だが、安値受注などで中韓勢が猛烈に追い上げ、追い越した。ただ、熾烈（しれつ）な競争を繰り返す中、中国や韓国の新興メーカーは生産規模を大幅に拡大。この結果、造船市場は需要をはるかに上回る供給過剰になり、造船会社の採算は悪化した。そんな中、日本の造船メーカーが息を吹き返しつつあるのは、「アベノミクス」による円安で受注競争力が回復したことと、さらに数年にわたる構造調整、いわゆる統廃合でコスト競争力を高めたことが大きい。

もちろん品質が高く、納期をしっかりと守るといった日本企業の優れた面が支持されていることもある。

統廃合で競争力強化

統廃合の動きとしては2013年に、今治造船と三菱重工業がLNG船舶部門を切り離し、LNG船を専門に製造する「MILNGカンパニー」を設立。同年には、アイ・エイチ・アイマリンユナイテッドとユニバーサル造船が合併し、世界4位となるジャパンマリンユナイテッド（JMU）が誕生した。

さらに、昨年10月には、名村造船所が佐世保重工業を子会社化し、国内ではJMUに次ぐ規模になった。三菱重工業は、戦艦「武蔵」を建造した長崎造船所で手掛ける造船事業を、今年10月1日付で分社すると発表。

LNG船などを建造する全額出資会社と、船の部品となる船体ブロックを製造する事業会社を設立することを決めた。

こうした再編やコスト改善に向けた改革に加え、「円安で15%は（日本船の）船価が下がった」（市場関係者）ことも加わり、急速に競争力を高めている格好だ。このため、とくに液化天然ガス（LNG）船や超大型コンテナ船など高付加価値分野で日本と直接競合することになる韓国勢は焦りを隠せないでいるわけだ。

これまで、海外勢に差をつけられてきた日本勢だが、今治造船の大型ドック建設を機に、他の国内メーカーも追随するような動きが出てくれば、いよいよ韓国勢には脅威となる。

中央日報電子版によると、サムスン重工の関係者は「日本の造船業の最も大きな弱点は中小型の造船所が多く、今まで建造した船舶の最大サイズが（コンテナ船の場合）1万4000個積みだった」とした上で「超大型ドックの建設で2万個積の建造までが可能になれば、いつでも韓国に追いつく可能性がある」と、かつての「造船大国日本」の復活に神経をとがらせている。

インターネット 産経ニュース 経済インサイド 2015. 2. 26. より

<http://www.sankei.com/premium/news/150226/prm1502260003-n1.html>



神戸に春を告げる いかなぎ漁 解禁 2015.2.26.



明石林崎港



イカナゴ新子



イカナゴ釘煮

【2015年4月 From Kobe】

4月 新生の息吹 元気に 神戸の便り

- 1. 4月5日 イースター・復活日に寄せて 今頭に浮かぶこと
- 2. 無騒音・無振動杭打ち工法の新たな進展・展開にびっくり

TV番組「夢の扉+」3月22日 杭打ち革命



毎日眺める若草山・須磨アルプス 芽吹きで モノトーンから若草色へと変化を見せる 2015.3.26.



西神戸 神出 雌岡山梅林で 2015.3.16.

まだ 暖かかったり寒かったりですが、桜の便りも聞かれるようになり、野山では満開の梅に春の芽生え。モノトーンから若草色へとその姿を変化させている。街には新しい門出を迎えた人たちの歓声が響き、街行く人たちもなんとわなしに華やいで見える。「新生の息吹」がそこかしこ 嬉しい4月。新しい門出の若者たち そして再出発を志す人たちにエールを送りつつ、こっちも年寄りぶってはいられないと。

4月5日はイースター・復活日
 毎年 復活日が来るとキリストの受難に思いをよせ、思いもあらたに 新しい出発を誓う
 今年も「希望」の花言葉を持つアーモンドの花を白いユリ・イースターエッグと一緒に送ります



アーモンドの花
花言葉は「希望」「愛」「優しさ」



雌岡山梅林で見かけた風景

日本では「同行二人」とよく言われるが、クリスチャンの私は「神どもにいます」と自らを眺め、励ます。

共に生かされている私たち「ヒューマン」
 自らをふりかえり、わが身を感じ、
 家族・周りの人たち・地球の人たちに思いをはせ、
 希望の明日、そして世界平和を祈る

今年こそ 皆が分かち合える
 明るい平和な年になってほしいと願っています。

そんな思いを「アーモンドの花」に願いを込めて

2015年 イースター
 From Kobe by Mutsu Nakanishi



アーモンドの並木道 魚崎運河沿い「水辺の遊歩道・うおざき」 2015.3.26.

1. 4月5日 イースター・復活日に寄せて 今頭に浮かぶこと



今年も「希望」の花言葉を持つアーモンドの花を白いユリ・イースターエッグと一緒に送ります

毎年 復活日が来るとキリストの受難に思いをはせ、思いもあらたに 新しい出発を誓う

「同行二人」とよく言われるが、クリスチャンの私は「神ともにいまして」と自らを自省し、励ます。

共に生かされている私たち 「ヒューマン」
自らをふりかえり、わが身を感謝し、 家族・
周りの人たち・地球の人たちに思いをはせ、
希望の明日、そして世界平和を祈る

今年こそ 皆が分かち合える
明るい平和な年になってほしいと願っています。
そんな思いを「アーモンドの花」に願いを込めて



人が人たるゆえんは 他の動物と異なり、
唯一人のみが「相手の表情を読み取り、 相手をおもんばかる
ことができる」と。

人類誕生から約800万年 厳しい地球環境激変の中 何度
も遭遇した絶滅の危機を脱しえた原動力が「相手をおもんばかる
心」であり、そしてそこから得た数々の生き抜く知恵が人類
絶滅の窮地を救ってきた。

マネー経済の著しい展開の中で、20世紀は競争と格差の社会 そして戦争の世紀と言われ、21世紀になった今も、
さらなる IT 情報社会の高度発展の中で、競争と格差はさらなる争いを生み出し、「今ほど平和を考えねばならぬ時
はなし」と思う。

今日もラジオから「競争から共生へ 21世紀の舵を切ろう」との呼びかけ
が聞こえてくるが、政治・経済の話が入ると 一機に「現実ばなれしてい
る」と批判し、とりあわぬ人も多い。でも 私はそうは思えない。
今までにどれだけ、人・仲間・みんなに助けてもらったことか・・・と。

何でも手に入る高度情報社会の中で、言葉とは裏腹に その知恵を置き去り
にする言動が目立つ日本

今一度 この人間の知恵を今一度 行動の中心に置いて考えてみたい。

今年こそ 皆が分かち合える 明るい平和な年になってほしいもの。

「愛・信頼・希望 そして仲間」は今を元気に生きてゆく支え

ただ、ひたすらに 好奇心を失わず 前向いて と思っています。



へいわってなにかな。ぼくは、かんがえたよ。
ねこがわらう。おなががいっぱい。やぎのんびり
あるいてる。ちょうめいそうがたくさんはえ、
よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。
みんなのころから、へいわがうまれるんだね。
これからも、ずっとへいわがつづくように、
ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

安里有生/詩 長谷川義史/画



2015年 4月 イースターに寄せて

By Mutsu Nakanishi

2. 無騒音・無振動杭打ち工法の新たな進展・展開にびっくり

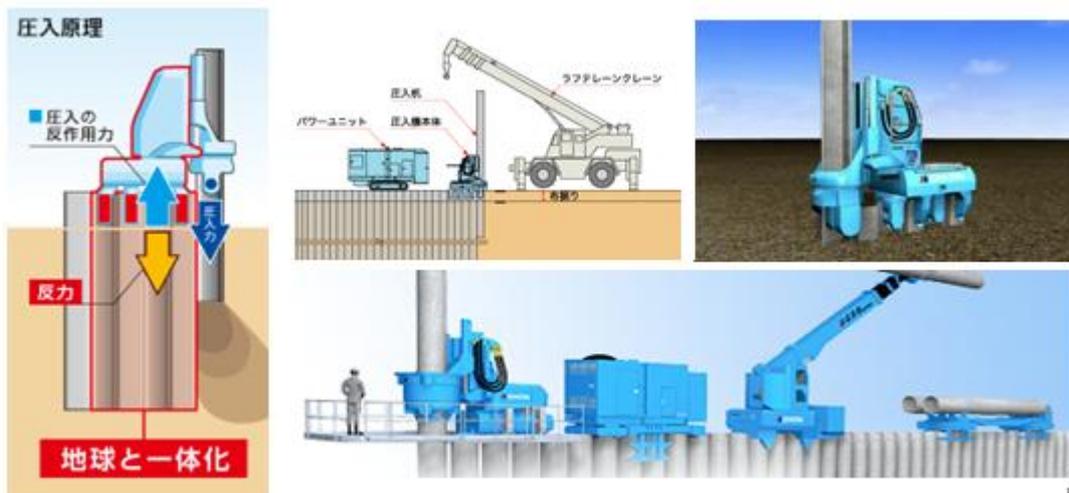
TV番組「夢の扉+」3月22日 杭打ち革命

「巨大津波でも、“絶対に壊れない” 堤防を作れ！」

色々な業界・ジャンルで「未来の夢」を目指す人やプロジェクトを紹介する番組「夢の扉+」
こんな技術があるのか… こんな発想があるのか…といつも見ている番組。

3月22日「杭打ち革命 『巨大津波でも、“絶対に壊れない” 堤防を作れ！』」が放送されていました。

画面を見て、「そういえば、街で見る杭打ちも無騒音・無振動になったなあ」とそんな工法の紹介かと思いつつ見始めたのですが、そうではなく、この無騒音・無振動の杭打ち工法の特徴・メリットを生かして、工法から構造物そのものまでも変革し、東日本大震災被災地の早期復興工事の切り札となるばかりか、社会インフラや街の再開発の新しい構造物の創造構築にまで、その用途の夢はひろがっているという。びっくりしました。



「すでに地中に押し込まれて地球と一体化した杭、その杭打ち装置を載せ、杭をしっかり掴んで反力とし、次の杭を静荷重で地中に押し込む」との原理で、地中に打ち込んだ杭を複数本を掴むことで「地球と一体化」したことになり、大きな力を出すことができる。そしてその力を利用することで、大きな静荷重で押し込み、杭を地中にお振動・騒音のない無公害杭打ができる。そして、これを実現できるコンパクトな無公害型の油圧式杭圧入引抜機を開発して、現場に投入し、圧入機本体と電源のほか、杭材を圧入機本体に建て込むためのクレーンが1台あれば施工できるという無騒音・無振動の連続杭打ち圧入工法を完成して実用化し、現実の工法として大きな成果をあげている。



無騒音無振動圧入法

連続して地中深くまで打ち込んだ杭(鋼管杭・矢板など)を立ち並べて壁を、コンパクトな作業空間でスピーディに、無騒音・無振動で作れる工法は場所・環境を選ばず頑強な構造物の形成にはもってこい。

構造基礎の荒っぽい杭打ちの工法からの視点変更で、夢の土木建築工法へ。そして さらに この工法でしかできぬ新しい構造物・社会インフラへ夢の用途が次々と膨らんでゆく。



襲われた巨大津波からも守れた鋼板杭列の壁

巨大津波に襲われた巨大なコンクリート堤防が、もろくも破壊された中、この地中深く打ち込まれた鋼管杭の壁が破壊されることなく、この津波の巨大エネルギーをがっちり受け止めるなど誰も考え得なかった。考えてみれば、「強度と靱性」を兼ね備えた「鋼」が大地の奥深くまでがっちり根を生やしているのである。そういえば 奈良と大阪の県境の大和川 亀の瀬の大地すべり地帯でも 巨大な杭(鉄筋コンクリート杭)が10 数年かけて何本も地中深く打ち込む作業が続いている。同様の耐震・耐津波性を有する構造が短期に連続して、環境をいとわずにできるとなると夢の技術。被災地復興の大きな助けになる。



こんな広い地下空間がこの杭工法でコンパクトに作り出せる



海の上でもコンパクトに杭列が作られている

また、鋼管杭の先端に刃のついたビットを取り付けた鋼管杭も鉄鋼会社と共同で開発され、それを使って、既存の硬いコンクリートや岩盤を貫入してゆく工法(ジャイロプレス)も既にできているという。

ジャイロプレス工法®
(NETIS登録番号: KT-060020-A)



(本来この圧入工法など 鉄鋼会社がやらねばならぬ 鋼管杭・矢板の用途開発と思ひ

GRBシステム
(ノンステージング工法 NETIS登録番号: KT-000106-V)



ながら見ていましたが、鉄鋼会社にいる時には 打ち込んだ矢板の上に打ち込み機を載せて移動させていくなど思いもよらず 土木工事には欠かせない杭打ち作業 塀に囲まれた工事現場で大きな音と振動を響かせた荒っぽい作業。それが今は 広い場所を囲むこともなく、コンパクトな場所で無騒音・無振動で次々と杭打ち作業がすすむ。コンパクトで高速施工の連続杭打ち作業が可能となったことで、従来の基礎としての用途から、耐震・耐津波の特徴をそのまま構造物として使う用途が広がるとともに、次々とそのメリットが引き出され、いまや土木建築の先端的工法・構造物の切り札となっているという。

今 遅々として進めぬ東日本被災地の復興工事の中で、地中深く打ち込まれた鋼管・鋼板矢板の連続杭の耐震性・耐津波性が鉄筋コンクリートの巨大構造よりも大きく優っていることが明らかになりつつあり、場所・環境を選ばぬスピーディな工事工法と相まって、大堤防・護岸や道路・橋梁工事の切り札にもなっているという。

土木工事の荒々しい杭打ちが、今や土木建築工事の先端技術に。

また、その素材 鋼管杭・鋼矢板を提供する鉄鋼業の中でも 花形からは遠い位置にある分野での技術。

それも、この工法・装置・用途拡大に取り組み、先頭に立って普及を図ってきたのが、高知の地場産業。

TV や新聞でもはやされる先端技術だけが、社会を変えてゆく先端技術でない。

前回 造船業の復活を紹介しましたが、重厚長大 鉄鋼の中でも一番先端性の遠いと見られてきた鋼管杭・矢板の分野にもかかわらず、社会インフラの先端を担っている。

とんと厚鋼板の鉄の話が聞けなくなっていたのですが、嬉しくなって ご紹介。

なお 本稿ご紹介会社 高知市 技研製作所 <http://www.giken.com/ja/>

本稿の写真など 上記 Giken home page などインターネットから採取。整理してから使わせていただきました

【 From Kobe 2015年5月 】新緑の五月

野も山も里も 草木燃え 一番自然を感じる時
真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで

From Kobe2015

5.

1. 真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで
2. 最近流布される情報や政権のアナウンスメントに違和感と疎外感
自分には一番納得できた 最近の新聞記事の紹介

1. 真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで



新緑の5月 野も山も里も 草木燃え 一番自然を感じる時

新緑の山を訪ねるのも スポーツに興じるのもよし また 街歩きも楽し

緑の中に身を置いて 真っ青な空を胸いっぱいに 身も心もリフレッシュ 思わず歌を口ずさむ



天候不順が続いた4月も下旬になって 真っ青な空が広がり、一気に野も山も新緑に。街も華やかに。気分も晴れ晴れ、何かせずにはおられない。ぶつぶつ 言ってばかりもおられない。戸外で楽しむ絶好の季節の到来。新緑の中に身を置いて リフレッシュ。うれしい春を楽しんでいます。気がかりは最近の世相についていけなくなったと感じること。

4月には地方選挙があり、景気も良くなり、何か時代が変わると政権は盛んにアドバルーンを上げていますか……。年寄の出る幕ではないが、平和憲法を守ることを国是としてきた日本。「憲法」というだけで、時代遅れなのでしょうか…。歯止めのない武力行使 それが本当に平和への道??? 何か腑に落ちない。原発も同じ。「理」のないものは「ダメなものダメ」自分の経験の中で研ぎ澄まされた感覚は何よりも「理」。そんな思いも頭をよぎる。気が付けば 日本がまた「アジアの孤児」にならぬよう 年寄だからこそ 自分と世間の距離感をいつもはからねば……と。最近の流れにつけぬ自分。自分にフィットする新聞記事を見つけると同志もいるのだと。最近うなづいた記事をいくつか この欄でご紹介。皆様にはフィットするでしょうか??

From Kobe 2015.5.1. by Mutsu Nakanishi

どう思われるでしょうか・・・

- 「 事実は無限にある。都合のいい事実だけをつなぎ合わせれば別の歴史も生まれる。
- 「 事実の断片と歴史の本筋をどうやって見分けるのか?? 何が一般的で 何が例外的なのか? それは幅広い史料[事象]にあたり、マクロとミクロの両方から抑える必要がある。 」

この言葉はまさに科学者・技術者の視点と同じであり、かつて取り組んだ問題解決取組の視点と全く同じで、スッと受け入れられる。

かつて「だまし絵」を見て「事実といっても その視点 心の持ちようで、眺めている事実は多面性を持っている」とハッと気付いて「自分の眼を磨かねば、問題解決はできぬ」と物の見方が大きく変わったことがある。そんなことを思いながら、記事を読みました。

この「強制連行」問題や「朝日新聞」問題などばかりでなく、今この社会で起こっているさまざまな問題に対して、この「真贋の眼」で史実を自分なりに淘汰しないと「都合のいい事実だけのつなぎ合わせ」になってしまう。また、意に反した社会への誘導が進行してしまう。

自分の視点で 社会を今ほど大きく揺り動かせる時代はない。無関心はまた こんなはずでは…の悔いを残す。

誰もが好きに簡単に情報を集めて つなぎ合わせて情報発信できる情報化 IT 社会。玉石混合の情報が無数に漂っている。 やらせの情報が公然と垣間見える時代 どれほど多数のそんな情報が流れていることか・・・ 自分にとって いやな情報でも眼をそむけては真贋の眼は磨けない。

また、まさに 別の歴史も独り歩きしていることを認識する必要がある。

この記事に記された歴史を見る眼 そして いたるところで都合のよい断片史実で作られた虚構の情報があふれている情報社会 ほんの数十年前にはなかった時代 今ほど真贋を見抜く自分の眼を磨かねば・・・。

日本人の一番得意な力である。 それを意識して・・・と。

2. 朝日天声人語氏の疑問 パソコンとにらめっこばかりの医者には患者の状態がわかるのでしょうか??

「医師は患者の生まれや育ち、生活の背景間で知る必要があり、 患者の数だけ治療法があるというのに 「パソコンとにらめっこばかりの医者には患者の状態がわかるのでしょうか?? 」と天声人語氏はいう。

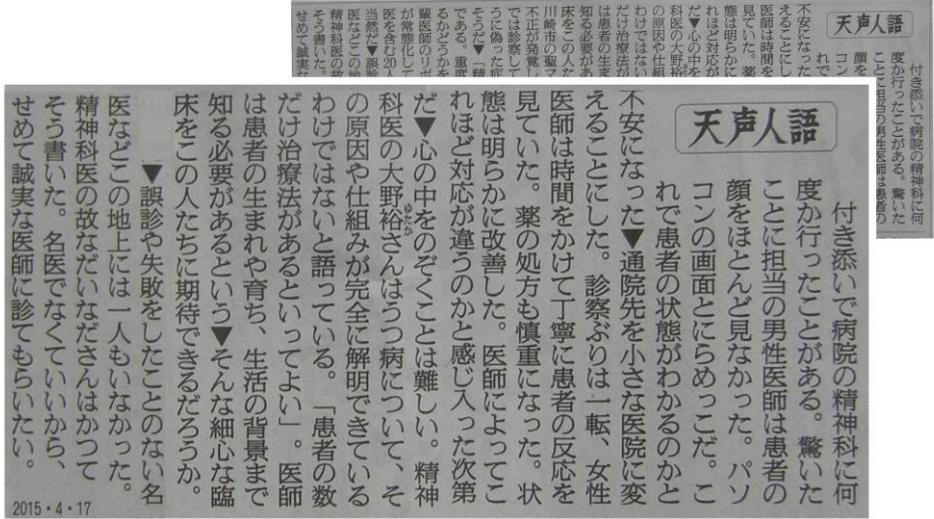
そういえば、パソコンに記されたマニュアルの薬を選ぶのに腐心する医者にびっくりしたことがあり、また それがスピーディーに治療してくれるいい評判の医者だという。「病気はマニュアルだけではなおせんぞ!!」と思いつつ、周囲を見渡すと そんな事例がいたる処で横行している。

想定外のことが起こっているのに「うまい手がある」とばかり、一事が万事 即物的

に想定と確率で、マニュアル通り推し進めることが最善判断だというのは、「想定外」の答を先に用意した言い逃れに映る。そんな風潮が日本に蔓延している。

忙しすぎる日本人 ちょっと立ち止まって考えてみよう。

さもなくば、よい知恵・判断もうかばず、どこかで 悔やみきれない「どか～ん!!」の道へ



朝日新聞 2015.4.17.「天声人語」より抜粋

3. 政権の牽制 外人記者の見方 日本の報道は萎縮していないか...

「政治が介入判断するのは当たり前」とみんな普通と思いこまされているが、国際社会では異常???です

朝日新聞掲載の記事。報道機関への政治の介入と報道機関側の報道萎縮の方向がますます露骨になっている。

今まで 闇であったのが、堂々とそれが正義でもあるかのように慢心して.....

かつての共産主義・軍国主義の時代への逆もどりと国際社会は懸念する。でも一般人はそれが普通と思ひ込まされていることに気付いていない。「一般人側の想定外」ではすまぬことにならねば良いかと。

日本の報道 萎縮していないか

政権の牽制 外人記者の見方

東京・有楽町の日本外国特派員協会。16日、テレビ朝日の「報道ステーション」で安倍政権の「圧力」に言及した元経産省副大臣・古賀茂明氏の記者会見で、数十人の外国人記者が集まった。古賀氏は、メディア側が政権とのあつれき回避し、自ら表現の範囲を狭くする狭い範囲を指し、「国民が本来の役割を知ることができなくなる恐れがある」と語った。

「『国民と全く同感だ』と話した。トランプはメディア幹部が政権幹部と飲食したり、ゴルフをしたりする光景は、考えられない」と話す。メディアには権力を批判的に論じる役割がある。役割を疑われる行為をする必要がない。ただ、メディアの役割は国によっても違う。例えば中国では多くのメディアが中国共産党傘下に置かれている。日本では約半数の男性特派員

Media Times
メディアタイムズ

「我々の役割は積極的に国民のために宣伝をする」と言い切る。それだけに、日本メディアには「政治家のスキャンダルや悪事もきちんと報じ、政府の意のままにはならない」と古賀氏は、メディア側が「メーデー」を持っていった。ところが、この1年ほどの間に、一部の新聞などから政権を批判する記事が減ったと感じるという指摘がある。

「『政府が右と言ったことを左と言ったわけにはいかない』などと発言する人がNHKの会長を務めたり、『菅大田殺しなかつた』と公言する言論をかけた事象は起きている。重要なのはメディアがどう対応するか、だと強調。日本の報道機関が圧力を受けているように見えることを懸念している」と語った。

17日には、自民党がテレビ朝日とNHKの幹部を呼び、番組内容について事情を聴く

権力批判が役割 ■ 圧力受け入れてる

英紙ガーディアン、自民党が昨年の衆院選報道でテレビ局に「公平中立」を求める文書を送ったことが気かりだという。これを報じる、報じるなどと言わなくても、脅しを持つをほのめかしている。ガーディアンは13年、米英情報機関による情報収集の実態をスクープし、政府から内部文書のデータ破壊を強要された。

マッカーシー記者は「民主主義国家でも、権力が報道に圧力をかける事象は起きている。重要なのはメディアがどう対応するか、だと強調。日本の報道機関が圧力を受けているように見えることを懸念している」と語った。

17日には、自民党がテレビ朝日とNHKの幹部を呼び、番組内容について事情を聴く

2015.4.17.朝日新聞朝刊より

4. アベノミックス等による数字に見る地域格差の増大 政権の言うトリクルダウンは瓦解 インターネット デジタル 毎日新聞 2015.4.17.より by Mutsu Nakanishi

平均所得:自治体3割が所得減 多くが「消滅可能性都市」

毎日新聞 2015年04月17日 06時00分 (最終更新 04月17日 11時30分)

総務省の統計に基づいて毎日新聞が算定した全国自治体の住民平均所得を見ると、アベノミクスで好況と言われる中、全1741市区町村の3割にあたる513自治体で、2013年の所得が前年より減少していた。このうち65%超の337自治体は、民間有識者会議の唱える「消滅可能性都市」と重なる。

関連記事

- ▶【数値で裏付け】アベノミクスで所得格差拡大
- ▶地域間格差の拡大 主因の一つに株式譲渡所得
- ▶【平均所得最低はどの市区町村?】人口減、地域再生遠く
- ▶【平均所得1508位】高知県北川村「知恵貸して」
- ▶【消滅可能性都市、活性度低い議会】
- ▶「アベノミクス」恩恵実感できず 内閣府調査

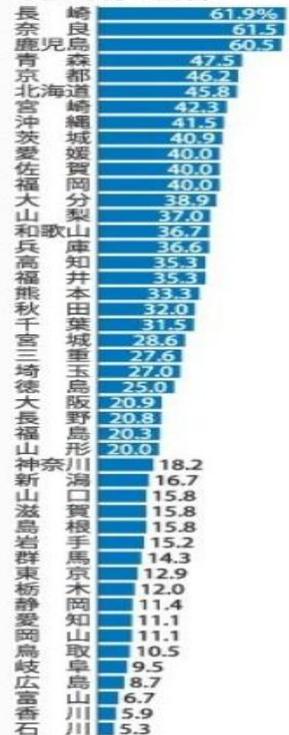
513自治体の平均額は287万1000円で、全国平均の327万4000円を上回ったのは、わずか20自治体だった。

全国平均に届かない下位自治体の多くで平均所得が減っており、富裕層の多い大都市部がより豊かになる一方、平均所得の低い自治体がいよいよ貧しくなっている。

都道府県ごとに所得減少自治体の割合を調べると、長崎61.9%（21自治体のうち13）▽奈良61.5%（39自治体のうち24）▽鹿児島60.5%（43自治体のうち26）---の順に高かった。

513自治体は人口減少や少子高齢化が進む農村部がほとんどだが、県庁所在地の佐賀市や政令市の福岡市など都市部も交じる。東京都も全62自治体のうち8自治体で平均所得が下がったが、いずれも農村部や島しょ部の市町村だった。【和田浩幸】

平均所得が減少した市区町村の割合

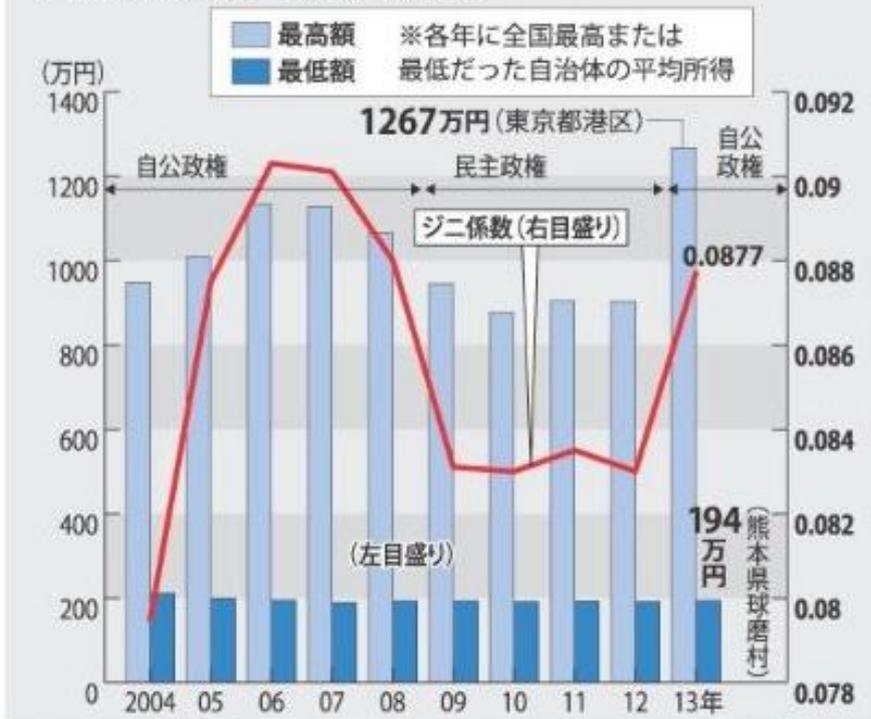


平均所得が減少した市区町村の割合

平均所得:地域間格差くつきり 安倍政権下で拡大

毎日新聞 2015年04月17日 06時00分 (最終更新 04月17日 11時23分)

平均所得とジニ係数の推移



平均所得とジニ係数の推移

2013年の平均所得額

(単位・千円)

ベスト10		ワースト10	
① 東京都港区	12667	① 熊本県球磨村	1939
② 東京都千代田区	8988	② 熊本県山江村	1990
③ 東京都渋谷区	7566	③ 北海道上砂川町	2000
④ 兵庫県芦屋市	6317	④ 秋田県東成瀬村	2012
⑤ 北海道猿払村	6265	⑤ 岩手県九戸村	2029
⑥ 東京都目黒区	6159	⑥ 沖縄県大宜味村	2046
⑦ 東京都中央区	5931	⑦ 高知県大豊町	2062
⑧ 東京都文京区	5808	⑧ 沖縄県国頭村	2066
⑨ 東京都世田谷区	5364	⑨ 秋田県藤里町	2074
⑩ 長野県軽井沢町	5138	⑩ 沖縄県今帰仁村	2084

2枚目/2枚中

2013年の平均所得額 (単位・千円)

梅雨前というのに 真夏のような暑さ 無理せず 元気に

1. 橋本大阪市長大阪都構想にノーを突きつけた 70 代のパワー まだまだ現役
2. 神戸 好奇心いっぱい さわやかな時節を楽しむ
3. 企業に責任を問えない日本 新聞でこんなことを知りました



6月になりましたが、梅雨時前というよりも 真夏のような暑さ。無理せず お互いに 元気にと 田植えの終わった水が張られた田に新緑の山が映え、美しい季節になりました。いかがでしょうか 6月の始まりというと毎年アジサイの花の写真をお送りするのですが、今年はクリンソウを。



初夏の風を吹き込む 可愛い花 クリンソウ

梅雨前のひととき 緑に包まれた湿地で 一株一株が真っ直ぐに自立し、
輪になって 幸福を積み重ね 派手さはないが 見る人をほっと一息 和ませる

真っ直ぐ伸びた茎の頂点近く数段に渡り、王冠リング状にピンクの花を咲かせることから、花言葉は「幸福を重ねる」。耳を澄ませば、立ち並ぶ花たちが声をそろえて「みんなで 今を真っ直ぐに」と最近 仲間からのメールや声に元気づけられることが多い。

「神戸のジャズ ストリートの生ライブに飛び入り参加 カントリー ロードを気分よく歌い みんなで盛り上がったよ。それが You Tube の動画で流れてる。是非 見てくれよ」
「おいおい プロにまじって なにすんねん。ようやるわ」と。

でも カンカン帽かぶって タンバリンもって 気持ちよく歌う姿に こっちも負けてられるか…と。

また、闘病中の仲間 訪ねるのもどうか…と控えている時に「お～い どうしてる」の声 元気な声にほっとする一方 うれしくなる。

「こっちも 久しぶりに 奥播磨千種のたたら見に 原チャリ飛ばしたよ」と。

新聞に掲載されたアスベスト被害者の会活動の写真の奥に仲間の顔が小さく写っている。頑張ってるなあ。6月には毎年高校時代の仲間が集まる会 落語の会 高校野球の予選 母校の戦い 闘病の仲間も気になる。話題は決まって また、かつての時代の話に夢中になり、あとは仲間の闘病をきづかい 介護の事等々 何とはなしに待ち遠しかった6月 闘病中の仲間も 無理せず 今を笑顔で

1. 橋本大阪市長の大阪都構想にノーを突きつけた 70 代のパワー まだまだ現役

5月17日の住民投票の結果、大阪市を廃止し、五つの特別区を新設する「大阪都構想」の協定書（制度案）は住民投票の結果、反対が賛成を約1万票ほど上回り 僅差ながら否決され、政令指定都市・大阪の存続が決まった。賛否を決したのは70歳代の投票行動と反対票。投票に行った年寄の多さが賛否を決したといえる。20～60代のほとんどが賛成優勢または拮抗だったというが、70歳以上は反対票が大きく上回ったという。

若い人たちの多いインターネットの書き込みなどの論調を見ると圧倒的に橋本支持

「二重行政 無駄を排する」橋本改革・都構想になんで反対するねん」とする反応が圧倒的である。

でも みんな即物的 同じことしか言えんのか・・・と言うほど その次の中味がない。

どう見ても 聞きかじり ノー天気と年寄には「ほんまに 任しといてええのやろか・・・」と映る。

一方 年寄たちは見ていた。論理とは別に橋本氏の改革行動を・・・

「自分流以外には聞く耳を持たぬ問答無世用の強引・性急な判断とやり方

常に二者択一の勝者の論理 そして 垣間見える身内への甘さ。」

賛成・反対は別にして、年寄は 選択を迫る二者択一の怖さ そして 明日は我が身の経験を知っている。

都構想・二重行政解消の改革が負けたというより、橋下市長の行動判断の強引さと安心できる改革への

不安感が年寄に渦巻いた結果だとみる。「賛否ではない。このまま突き進むと危ない」と。

それは 70歳以上 年寄の経験・皮膚感覚だろう。年寄誰しもが持つ自分の感が働いた。

年寄パワー炸裂 年寄が数多く投票に出かけ、即物的なスピード行政に待ったをかけた。

70歳代 まだまだ現役 力もある。大阪の年寄に元気を貰った。

くすぶってばかりは いられないと。

これからの大阪 どんな改革が始まるのか？ そっちの行動と手腕の主役は文字通り若者たちだ。

大阪の年寄たちに 年寄の生き方 こんな社会参画もできるのだと・・・。

大阪都構想の住民投票の結果を聞いて 2015.5.17. 夜

2. 神戸 好奇心いっぱい爽快な時節を楽しむ

● 神戸の春のカーニバル神戸祭 ジャズ ストリート ライブを楽しむ 2015.5.17.



● **田園一杯に広がるレンゲ畑** 西播磨佐用町三河のレンゲ畑 2015. 5. 20.

めっきり見られなくなったレンゲ畑を西播磨佐用町三河の田園で見つけました



最近は見られなくなったレンゲ畑を佐用と千種の間 三河の郷で見つけました
2015.5.20.

● **こんな明るい新緑の森の中で 一息** 奥播磨 千種町三室高原で 2015. 5. 20.

こんなに明るい緑の林 風がのんびりわたってゆく

傍らに座って ちょっと一服 川のせせらぎ 鳥の聲に耳を澄ます



千種河内 三室山 三室高原の森 2015.5.20.

3. 企業に責任を問えない日本 新聞でこんなことを知りました

最近の風潮として、政治家も企業家もトップとしての責任を回避する風潮が目立つ。
何かスピード・グローバルIT化が旗印になって 特に目立っている。
なぜだろうか…とと思っていましたが、新聞に掲載された刑法に組織罰を法制化すべきとの記事
に書かれていた企業罰の解説記事を読んで、「こんなことだったんだ」とはっと気付きました。

日本の刑法では組織の刑事責任を問うことはできず、組織事故でも個人の責任を問うしかないという。
福知山線脱線事故について JR 西日本の組織としてのリーダー責任を問う裁判の判決では
「組織として求められる安全対策という点から見れば、JR 西日本の当時の ATS の
設置のあり方などは期待される水準に及ばず、問題があったと言わざるを得ない」
と指摘しながらも、組織の責任者としての社長の責任は問えない」とした。

あれだけの大事故を起こし、数々の組織ぐるみとしての問題がグリヤーになっているにもかかわらず
組織の長としての責任は問えず、また個人としての責任についても立証できずに無罪の判決。
なんと納得がゆかぬ結果であるが、日本の刑法では組織の長の責任は問えない仕組みなんだと
言われると仕方ないのか…と。そして はたと思い当たる節がある。

これを逆手に取っての事なのか?

勉強しない社長が「想定外」「予知できなかった」を繰り返す最近の企業家の言動に
「組織罰に問われないことを承知し、企業トップの無責任さを益々増長させているのではないかと」
同じ構図は 政治の世界ではもっと常識化していて、行動ではなく文言で済まされてしまうことが多い。

企業・組織の長たるもの もっと厳しいレベルの高い意識をもって 組織の責任を果たしてもらわねばと思いつつ、その根底に、日本では「企業責任」そのものを問う仕組みがないことを初めて知りました。
だから いくら社長の責任だといっても馬耳東風 相手には勝負が見えているのだと。

欧米では厳しい企業罰の規定があると聞く。長い歴史がある刑法であるが、組織罰の規定は必要かとも。
でも、新聞の解説では、私の言う「知らない 予想外」などとの言い逃れは刑事罰以前の組織の長の資質
の問題だという。それを許す社会に目をむけねば…と。

東電問題 原発問題 関電の料金値上げ はたまた 集団自衛権問題に 憲法問題等々
なかなか筋の通った話が聞けない日本。

こんなところにも 組織リーダーの責任や資質に疑問符が付く。

もう 親方日の丸 頂点同調ではやってゆけぬ日本になってしまっている。

「知らない 予想外だった」との一言で切り抜けてしまう姿に何度となく割り切れなさを感じるのですが、
どうでしょうか……

2015. 5. 31. 企業罰の解説記事を読んでいて

by Mutsu Nakanishi

何とはなしに待ち遠しかった 6 月

梅雨前というのに 真夏のような暑さですが 無理せず 今を笑顔で

2015.6.1. from Kobe by Mutsu Nakanishi

From Kobe 2015. 7月

1. 7月2日は歳時記の「半夏生・はんげしょう」 梅雨の末期 大雨の警戒を忘れずに
2. 八戸市民が世界へ青森・八戸の縄文を発信する 市民映画「ライアの祈り」

1. 7月2日は歳時記の「半夏生・はんげしょう」

梅雨の末期 大雨の警戒を忘れずに

明石では 半夏生にはタコを食べようと盛んにPR

また、郷の山裾で この頃花をつけ、花の近くの葉 数枚が葉の表を白くする不思議な草花「半夏生・半化粧」

「半夏生」の言葉の由来 歳時記の言葉と花 どちらが先なのでしょう
「半夏生」 歳時記では 毎年 夏至から数えて11日目頃を言う。

梅雨の末期で、多湿で不順な頃とされ、農家ではこの日までに田植えを済ませるといふ。地域によるが、この日にタコを食べる習慣があり、元々は田に植えた苗が、タコの足のようになりしっかりと根付くようにとの願いを込めたもの。タコの産地 明石では最近この風習を広めようと土用丑のウナギに倣って 半夏生にはタコを食べようとPRしている。

また、この頃 葉の表の一部が白く化粧する「半夏生・ハンゲショウ」という野草もある。

山口県美祿に居る時に教えてもらった梅雨明けまじかに咲く草花で、そのとき 花の近くの2,3枚の葉だけが白くなり、なんとも不思議な草花と。山裾のの道を歩いていると時折見かけることがあり、この時期をすぎると全体が緑の葉に戻る。また、梅雨末期には大雨にみまわれることがあり、「半夏生雨」の言葉もあると聞く。

歳時記に記された「半夏生」・そして半夏生の花は田植えを終える目安 気候の変わり目として、農作業の大切な日であり、また 我々にとっても 突然の大雨への注意をせねばと。 そんな 梅雨明け待ちのこの頃。梅雨明けが待ち遠しい。



2. 八戸市民が世界へ青森・八戸の縄文を発信する 市民映画「ライアの祈り」

北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を目指す
是川縄文遺跡 や 国宝合掌土偶 の出土地 青森八戸



映画「ライアの祈り」—それは、人生に臆病になっていたひとりの女性が、“人間本来の生き方”のエッセンスに満ちた縄文時代に触れて自身の幸せのカタチを見出し、八戸の街を舞台に一步踏み出していく姿を描く、優しさ溢れる感動作。

桃子は八戸の眼鏡店に勤務する明るく姉御肌のアラフォー女性。だが彼女の心の奥にはどうしても抜けない棘があった。実は彼女は、不幸な離婚を経験し、心に深い傷を負って、人生を前に進ませる勇気が持てずにいたのだ。

そんな彼女は、ある時、縄文時代の遺跡発掘に情熱を傾ける男性、クマゴロウと出会う。

それをきっかけに、遥かな昔、この場所で生きた命があったことに想いを馳せた彼女は悠久の時を経て自身へと繋がる絆

を体感するのだった。果たして、桃子が見つげ出す幸せのカタチとは？

八戸市 「ライアの祈り」のページより <http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/27,82184,91,278,html>

縄文の時代は一万数千年　こんなに長く続いた時代は世界的にもほかになし。次に長いのは江戸時代の600年

この平和の原動力は何か・・・　人として今一番大事なことは何か・・・

その象徴として描かれる　八戸風張遺跡の国宝合掌土偶　ライアの祈り

北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を目指す八戸市民が世界へ縄文遺跡の素晴らしさを発信する映画。
主人公二人が訪ねる八戸の市街地や是川縄文遺跡・御所野縄文遺跡（岩手県二戸）そして　縄文遺跡の発掘作業の素晴らしい
映像と共に　二人の恋愛・心の交流を通じて、「平和　そして人として一番大事なもの」が描かれる。

言葉としては表現なされてはいませんが、和鉄の道で何度か取り上げてきた下記が発信され続けられた。

人間が幾たびとなく生き延びてきた原動力　「ヒューマン」「心優しき縄文」

東日本大震災を経験した八戸が素晴らしい北東北・八戸の風景や縄文の映像

そして、主人公を通じて語る縄文の平和への思い。それらがひしひしと伝わってくる。

かつて、岩手県民が作った映画　東北蝦夷の雄「アテルイ」に続く青森八戸市民の縄文への思いが映画につづられている。

主人公に何度も語らせる縄文の解説が多少説教ぼくて耳につきましたが、それが主題だから仕方がないのかも・・・

全く悪人が登場しない心地良い映画でもある。

なお、この映画のタイトル「ライアの祈り」の「ライア」とは古いギリシャの竖琴で、縄文の豊かな生活の場であった森の中
を竖琴の輪郭のようにうねって水が流れ下る水場・木の実のさらし場をイメージしているという。

（映画の原作「ライアの祈り」の中では　小説の進行と同時並行で描かれる夢の中の縄文の少女の名前となっている）

何度か和鉄の道でも紹介した日本人の心のふるさと「心優しき縄文人」の映画。

今憲法・集団自衛権問題など「平和をどう考え、実践すべきか」が一人一人に問われている今、

「持続的な平和な社会の原動力は何か　人として今一番大事なことは何か　」を考える一助になれば・・・と。

また、一足先に明治の産業遺産として製鉄関連の遺跡群が世界遺産に登録されるようですが、

ぜひともこの北海道・北東北の縄文遺跡群のユネスコ世界遺産登録を願っています。

次ページに本映画のストーリーを映画の公式ページから転記させていただきました。

機会があれば、ぜひ映画を。また原作の小説「ライアの祈り」も・・・

2015. 6. 23.　映画　ライアの祈りを観賞して

by Mutsu Nakanishi



≪ 「関連の和鉄の道・縄文」 by Mutsu Nakanishi ≫

1. 【鉄の雑記帳】 日本人の心のふるさと「心優しき縄文人」の知恵
「利他的精神」について　朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・　2014.6.1.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/14iron05.pdf>
2. 「ヒューマン　なぜヒトは人間になれたのか」視聴・購読メモ
<http://www.infokkna.com/ironroad/2012htm/iron8/1204human.pdf>
3. 青森・八戸　縄文の郷「是川」　縄文文化を代表する是川遺跡・風張遺跡を訪ねる　2008.10.30.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/8iron13.pdf>
4. ストーンサークルを囲む土屋根の竪穴式住居群　御所野縄文遺跡探訪　2008.10.30.
縄文の森に600を越える土屋根の竪穴式住居群　縄文の村がそっくりそのまま残っていた
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/ironjyomon.htm>
5. 車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜を　普代から久慈・八戸へ　砂鉄浜の　有家海岸　&　種差海岸
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/14iron11.pdf>

◎ 和鉄の道 Iron Road 「縄文」掲載リスト

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/ironjyomon.htm>

映画「ライアの祈り」 ストーリー

Story 永久のロマンを旅して見つけたものは、《幸せ》でした。

桃子(鈴木杏樹)は、明るく姉御肌のアラフォー女性。メガネ販売店の八戸店で店長を務めている。それまで住んでいた実家のある弘前から転勤を機に八戸に越してきたばかりだが、既に店の後輩の桜達から頼られ慕われる存在となっていた。だが彼女の心の奥には、どうしても抜けない棘があった。実は彼女は、不幸な離婚を経験し、心に深い傷を負って、人生を前に進ませる勇気が持てずにいたのだ。

そんなある日、桃子は、若い桜(武田梨奈)に誘い出され、しぶしぶ街コン風地酒パーティに参加する。「人数合わせ要員でバツイチ」とおどけて名乗った桃子の前に遅れて現れたのは、40代後半の無精髷の男、佐久間五朗(宇梶剛士)。あだ名はクマゴロウ。桃子は、彼を見た瞬間、遠い記憶が一瞬蘇ったような感じに襲われ、驚き戸惑う。彼女が感じたのは、子供の頃から時々見ていた不思議な夢の中の、太古の森を通る風の感触だったのだ。

クマゴロウは、遺跡発掘一筋の考古学研究者だった。一万年以上の間、平和に続いたという縄文時代に対する彼の畏敬の念は深く、語り出したら止まらない。その夜、いつになく飲み過ぎて、無骨で不器用なクマゴロウにからんでしまった桃子は、翌日、じわじわと記憶が戻ると、自身の失態に頭を抱えた。だがクマゴロウは、酔った桃子の支離滅裂な言葉——「八戸が弘前よりいいとこだって言うなら、私を納得させてよ！」——を律儀に受け止め、数日後、本当に八戸の街を案内してくれるのだった。

陸奥湊駅前朝市や蕪島神社など八戸の様々な場所を巡る二人。地元の人達に愛されているクマゴロウは、どこに行っても声を掛けられている。だが彼が縄文時代の話をはじめると、桃子の脳裏にまたもや深い森のイメージが浮かぶのだった。不思議そうなクマゴロウに、桃子は子供の頃から見ている太古の森の夢のことや、クマゴロウと出会った瞬間に感じた風の感触を語る。すると彼は、縄文時代の夢ではないかと羨ましがり、自身の職場である是川縄文館に桃子を連れて行ってしてくれた。クマゴロウが桃子に見せたのは、八戸から出土した国宝の合掌土偶だった。

「縄文時代の人達って、生きるために必要なもの全部を持っていたんじゃないかしら」
何気なくそう言った桃子に、まさにその通りとばかり、クマゴロウは嬉しい驚きを見せた。そして縄文時代の代弁者として、何か表現してみることを勧めるのだった。

数日後、クマゴロウに教えてもらいながら、是川遺跡で発掘作業を体験した桃子は、土器の欠片を発見し、同じこの場所で生きた人々の命を感じ、さらには、その土地と繋がった不思議な感覚に捕らわれるのだった。

桃子は、夢の風景をイラストに描き始めた。縄文時代の衣装をまとい、弓を手にした少女の姿や風が抜ける深い森……。何枚か描き上がったものをクマゴロウに見せると、彼は、感動で涙ぐむ。彼がつけてくれた少女の名は、ライア——古代ギリシャの豎琴。

だが“縄文時代”が繋いだ心豊かな時間をクマゴロウと共有ながらも、桃子は、本気で恋することに臆病なままだった。何かと桃子を慕ってくる桜にだけは、誰にも言えなかった離婚の原因と心の痛みを打ち明けていた。それは、クマゴロウとの未来に踏み出すことをためらわせている原因でもあった。

そんなある日、クマゴロウは、縄文晩期の日本と交流があった可能性のあるベトナムへと調査に飛ぶ。手首には、桃子が編んで「お守り」としてつけてくれたミサンガをつけて。ベトナムの島に赴いたクマゴロウは、皆が共に笑って暮らせることが願いだという部族長の姿に、縄文時代のシンプルで心豊かな生き方に通じるものを感じ、感動する。彼は、部族長に問う。「人間として一番大切なことは何ですか」

だがその答えは、皮肉にも桃子の心の傷を思い出させるものになってしまう……。

果たして桃子は、クマゴロウとともに、太古からの風の中に幸せを見つけ出し、前へと踏み出すことができるのだろうか。

【 From Kobe 8月 】

【1】 ひまわりの夏 2015

【2】 戦争に道を開く安全保障法案が 国民的課題に 国の大きな転換点
今 声を上げねば !! 平和を今 自分の頭で考えよう

From Kobe2015

8.



ひまわりの夏 2015

真っ青な空にモクモクと入道雲

頭や肌を刺す酷暑にも一斉に太陽を見つめる 黄色い元気な顔・顔・顔

ひまわりの夏 到来 お変わりありませんか…

今年も西播磨佐用のひまわり畑 元気なひまわりに出会ってきました
自宅の庭でも ひまわりに朝顔も咲きだして、
早朝の空気を吸い込みながら、朝顔の数を数えるのもこの時期の楽しみ
まだまだ 元気 好奇心もある 前向いて 元気出してと…

また、毎年8月は 終戦・原爆・原弐 そして 墓参

それぞれが生き様の記憶を次々と呼び起こし、戦争と平和 暮らしと家族
そして仲間にも思いをはせる

この夏 特に気になる平和の危機 違憲 戦争に道を開く安全保障関連法案を廃案に
憲法九条を守ろう 社会の流れが大きく変わる節目を迎えています。

年寄と言えども参画せねばと…

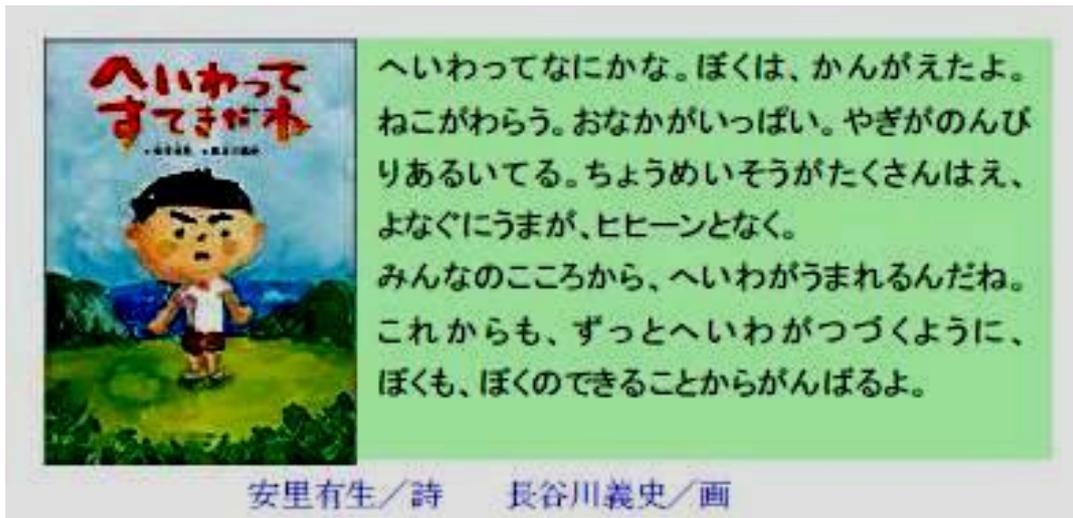
仲間の元気を活かに 母校の高校野球の声援にも毎年変わらぬ夏の楽しみ
孫たちに振り回されることも多いのですが、それもうれしい ひまわりの夏
お互い無理せず元気に この夏を乗り切りましょう

2015.8.1. 神戸より Mutsu Nakanishi



From Kobe 8月【2】 自分の頭で考えよう 「平和のために 守ろう 憲法9条」

戦争に道を開く安全保障法案が 国民的課題に 国の大きな転換点 今 声を上げねば !!
政治家の言葉ほど危ういものはなし 自分の身は自分で守る 自分の頭で考えよう



抑止力なくして日本は守れないとお題目のようによく言われるが、本当でしょうか……
だって 戦後70年 憲法九条を国是とし、平和憲法の下で 繁栄を勝ち取ってきた事実がある
よわよわしくみえるが、事実はこの。これほど強い力はない
惑わされず 自分の頭で考えよう
自ら平和を考える力 京大有志が発した平和宣言が話題になっている 耳を傾けていただきたい

みんなの力で 戦争を止めよう！ 京大発 平和宣言

戦争は、防衛を名目に始まる。
戦争は、兵器産業に富をもたらす。
戦争は、すぐに制御が効かなくなる。

戦争は、始めるよりも終わるほうが難しい。
戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。
戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。

精神は、操作の対象物ではない。
生命は、誰かの持ち駒ではない。

海は、基地に押しつぶされてはならない。
空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。

血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、
知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。

学問は、戦争の武器ではない。
学問は、商売の道具ではない。
学問は、権力の下僕ではない。

生きる場所と考える自由を守り、創るために、
私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。

自由と平和のための京大有志の会

【From Kobe 2015年9月】 《9月 夏から秋へ》

From Kobe2015

9.

なんとなく 無気力になっていた夏も もう終わりがんばらねばと……

1. もう 待ったなし !! 要ロードマップ そんな時代が迫っている

地球温暖化防止から改善へ 炭酸ガスの固定化技術展開



まもなく刈入れを迎える実りの秋 西神戸で

9月になって 秋晴れの青空を仰ぎ見たいのですが、未だになし。一日の中をとっても急激な気候変化が続き、TVでは 各地でピンポイントの豪雨や竜巻の襲来 そして 台風等々。でも 日差しは過酷で直射を受けると頭がくらくら。昨年より今年の方が厳しいのかなあ…と。野菜などの価格も急上昇である。やっぱり 地球温暖化の影響が牙をむき出し、我が身に影響がではじめたのでしょうか……。地球温暖化防止を 他人事にしていたら えらいことになるなあと……。

1. もう 待ったなし !! 要ロードマップ そんな時代が迫っている

地球温暖化防止から改善へ 炭酸ガスの固定化技術展開

地球温暖化・環境権を政争やビジネスのネタにしているような流れにしている ほんとうによいのだろうか……

日本では 原発問題から、火力発電所が次々と建設され、環境にやさしい火力発電所の技術力をPRする一方 原発との選択を天秤にかける。何かおかしい。

地球温暖化の対策としては 地球規模での炭酸ガスの増加を食い止め、総量を削減する道を毎年加速する道をきりひらかねばならぬのに……。

何としても 炭酸ガス総量を減少させる炭酸ガス固定化の大規模技術開発なくしては もうこの環境変化は食い止められないだろう。極端なことを言えば ここ10年で 世界一斉にガソリン自動車が電気自動主もしくはほかの手段に切り替える自動車革命や地球環境にある炭酸ガスの固定化の技術革命がどうしても必要になる。

「こんな技術もある こんな事もできる」ではなくて、待ったなしで 具体的なロードマップに乗せた技術展開が必要な時に来ているのではないかと……。

そんなことを 最近の過酷な気象変化は示している。まあ こんな気象変化は日本だけ???と言う人もいるが、形は変わるが、地球規模いたるところで こんな変化が起こっている。

北極海では海水面が急激に広がりつつあり、氷河は急速に減少 世界の屋根ヒマラヤの氷も……

これらが加速度的に進んでいる状況の中で、それを食い止める技術の展開はどう見てもそのスピードには追いつけない。元に戻せない。

具体的なロードマップを持った炭酸ガス固定化プロジェクトの展開が一日も早くの 때가迫っている。

- ◆ 広大な森林創生・回復のプロジェクト ◆ 化石燃料の削減を目指すエネルギー・自動車革命
- ◆ 積極的な炭酸ガス固定化プロジェクトの推進 等々

ターゲット目標は明快であるにもかかわらず、ロードマップのある具体的展開にはいったものはまだないのである。

いずれも国家プロジェクトでなければならぬが、一向にステップアップできない。

政治家や企業家に頼っていてよいのだろうか……

それこそ 地方創生 在野的展開の中からしか この道が辿れないのではないかと

そうでなければ アメリカ ヨーロッパからの技術展開を頼みにせねばならぬのか

地球温暖化 気象の激変をセンセーショナルにとらえる報道や情報は多いが、そのもとになる技術展開やタイムリミットを伝える情報はほとんどない。 そんなところが この不安感を益々増大させていると。 来年はもっと厳しい。 歯止めへの展望はいつに・・・ 自分では何もできない年寄にとっては そんな不思議な気持ちにさせるこの秋です。

◎ そんな折 以前にも取り上げたTV番組『夢の扉』の番組をみて、びっくり。

「夢の扉+海流発電・黒潮発電プロジェクト」沖縄科学技術大学院大学OIST新竹積教授

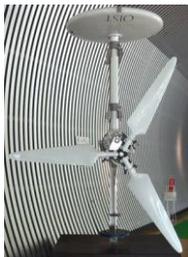
「黒潮から電気をつくる世界的物理学者 新竹 積氏

前人未踏の黒潮発電プロジェクト

～海に眠る巨大なエネルギーを発掘する“オリジナル技術”～

日本近海にある海流「黒潮」 原子炉200基分の潜在エネルギー

→ 海流でプロペラを回す



<http://www.tbs.co.jp/yumetobi-plus/archives/20150906.html>

アイデア技術の段階から 基礎技術を経て具体的な実用技術へ 一步一步実現への道が始まり、それはさらに裾野の広い展開も視野に。 あえて 研究と言わずにすごい研究開発だと。

政争の具に飲み込まれぬ沖縄での開発展開なのもうれしい。

竹中先生のIPS細胞のようなプロジェクト展開へさらに発展してゆくことを期待。

水産・運輸・交通でしか手が付けられてこなかった広い海 地球温暖化対応の切り札になってほしいなあ・・・と。

それこそ 日本の産業再生のみちにも・・・と。

◎ 鉄にも 同じような広大な地球規模の夢の技術がある。 いまはどうなっているのだろうか・・・

新しい実用化技術としての展開はまだ始まっているとは聞かないが・・・

2011年9月に取り上げたことがある文をご紹介 誰か取り上げてほしいなあ……と。

【2011年9月 from kobe 鉄の歴史に 今の生き方を考える】 2011.9.1.

「鉄学137億年の宇宙誌」を読み返してみても頭によぎったことを書きとめました

地球に鉄がなければ人類はいきてゆけず、なにより地球さえも存在しなかったとさえ言われている。

本来 鉄は水に溶けないが、本当に極々少量の鉄が海にとける。このごく微量 水に溶ける鉄がこの地球の歴史ドラマを作ってきたと聞く。この話はほんとうなのだろうか……

森が沿岸の海・魚を育むとよく言われますが、これは土中の鉄分と腐葉由来の酸が結びついた有機鉄が水に溶け出した効果だろう。シベリアの大河からの流氷が、豊かな恵みを与えるのはそのためだと理解される。また、日本沿岸海域において、海藻群落が消滅する磯焼けと呼ばれる現象が生じている。これも溶存鉄の不足などの要因によると考えられている。

自然界においては森林の腐植土中に含まれる腐植物質(フルボ酸、フミン酸)が鉄イオンと結びつき、溶存状態で川から海へと運ばれ、植物性プランクトンはそれを吸収することができ、増殖する。

海水中の鉄濃度の低下は、このフルボ酸鉄・フミン酸鉄の供給量が、護岸工事やダム建設といった人為的な原因で減少することによって生じ、これが海藻群落の消失へとつながると考えられている。

このような 豊かな海の形成に陸上で育まれた「鉄分」が重要な影響をもたらす一方で、最近、海の生態系を研究する専門家の間で「鉄と温暖化」の関係が俄かに注目を浴びている。

- ① 世界の海には植物性プランクトンの栄養分を大量に含みながら、植物性プランクトンの生息が非常に少ない海域がある。
- ② 植物性プランクトンの光合成には鉄分が必須。
- ③ 鉄分の少ない海域に砂鉄などを加えることで、植物性プランクトンが増加。
- ④ 増えた植物性プランクトンがCO₂を消費吸収。
- ⑤ 大気中のCO₂濃度が下がり、気温も下がる。

一説によると、鉄分が不足している海域をうまく活用できれば、年間17億トンものCO₂吸収が期待でき、人類が年間に発生させている全CO₂の約2割が削減できるとしています。

また、約20年前のアメリカの海洋学者ジョン・マーチン博士の研究によると30万トンの鉄を植物性プランクトンの増殖に100%利用できたら毎年蓄積される二酸化炭素の半分以上に相当する約65億トンを有機物や酸素に変換できる[21t(co₂.t/Fe.kg)]という試算を出している。

ややもすると地球上の生態系の頂点に立つとして 横暴な振る舞いをやってきた我々。

「今 原子力・原発をどうするか……」が大きな課題に

「今 人が制御できない技術である」ということが判った以上 これを使い続けることは許されない。

同時に何度も聞かされてきた体制維持の決まり文句

「電力がたらない。経済が破壊される。今の生活が守れない」との声が渦巻いているが、本当だろうか…

人の知恵・歴史がこの「体制維持のむなしさ」と「自分にとってはどうも 別物」であることをことごとく覆してきた。運命論は好きではありませんが、地球の流れにさおはさせぬ。

さおさすことなく 前を向いて 今の生き方を決めねばならない。

「鉄が大きく育んだ地球 この鉄の恩恵にあづかって

我々は 地球上に住むあらゆる生物との共生の中で生きている。」

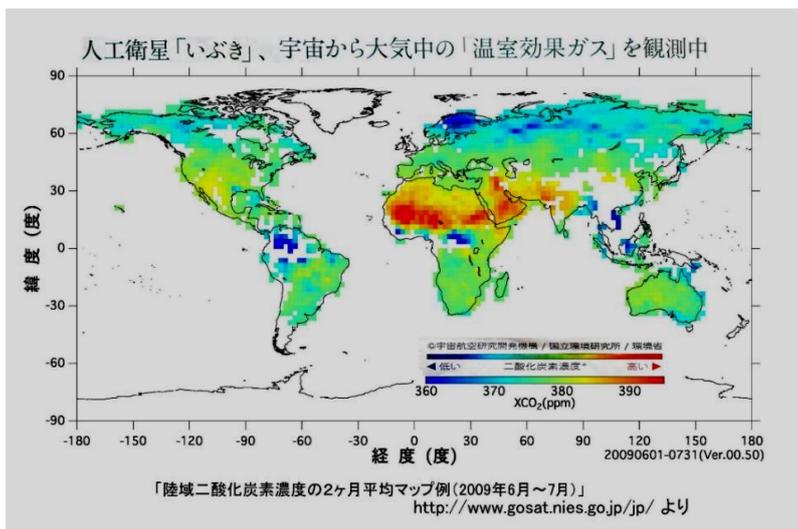
このことを忘れることなく 現代を生きることが今 求められている。

関東大震災の復興・原発事故の収束の試行錯誤が続く中世界を覆う不景気 政治はあいもかわらぬ荒廃 そんな中で ふっと頭に浮かんで 読み返してみた 鉄のはなし

参考 岩波科学ライブラリー「鉄学 137 億年の宇宙誌」

【2011年9月 from kobe 鉄の歴史に 今の生き方を考える】

by Mutsu Nakanishi 2011. 8. 28.



夏 植物の光合成の盛んな北半球の高緯度側の二酸化炭素濃度が南半球より低い。

また、アフリカアフリカ大陸やアラビア半島に見られる高濃度には砂漠の砂塵などの影響。

アフリカ、スカンジナビア、アマゾン周辺の低濃度には薄い雲などの影響により、

系統的な誤差が含まれている可能性もあります。

<http://gosat.nies.go.jp> より

【From Kobe 2015年10月】 《 10月 実りの秋を迎えて 秋晴れの空 戸外へ 》

10月 実りの秋を迎えて 一機に気持ちにも変化が……

From Kobe2015
10.

- 1. 10月 実りの秋に 秋晴れの空 戸外へ
- 2. ワールドカップ2015 【日本34—32南アフリカ】 世界ランキング3位の南ア破る快挙 凄い
- 3. 神戸新聞「随想」欄に掲載された 金野幸雄氏の意見「この国の未来」 ご紹介

1. 10月 実りの秋を迎えて 秋晴れの空 戸外へ飛び出して



東播磨・の風物詩 黄金色に色好き始めた山田錦の里では灘の酒蔵の旗が翻り、畔には彼岸花 三木市吉川で



東播磨多可町 彼岸花の里で 2015.9.23.

2. ワールドカップ2015 【日本34—32南アフリカ】 世界ランキング3位の南ア破る快挙 凄い 積極的に前向いて立ち向かう 勇気とパワーを貰った一戦に釘づけ



2015.9.19.深夜 ワールドカップ2015 【日本 34—32 南アフリカ】 逆転のトライ

「イギリスで開催中のラグビーワールドカップで、日本代表が20日午前1時キックオフの南アフリカとの試合で日本 34 - 32 南アフリカ と世界3位の南アフリカを破る快挙を成し遂げた」

あまり明るい話題が少ない昨今ですが、深夜のTVにかじりついて ゲームの信仰を興奮冷めやらずで見っていました。

「今回の代表 今までにない強さ タックルは強いし、スクラムもすごい 見違えるような日本代表チームに期待」と思っていました。まさかランキング世界3位の南アフリカを破るとは夢のよう。

ゲームの開始からすごかった。低いタックルで一発で倒し、立ち向かう集散の速さに スクラムの速い球出しと連続攻撃。これらがミスなく 流れるように連携してつながってゆく。南アに自陣に押し込められながらも、素早い攻撃を展開して、一歩も引けを取らず。「これが日本なのか いつの間にかこんな力付けたのか……」と。すごかったです。

南アのすごい突破カドライブイングモールとでトライした南アフリカを見た時にはもう力つきるのかと思いましたが、良くぞ持ちこたえて、守り抜き、攻め返し、試合終了まで良くぞ持ちこたえた。

また、終了間際 ゴール前とはいえ、PG やめてスクラム選択など、今までの日本の戦いからは考えられぬ選択。このすごいパワーとテクニックそれに持久力と連携 日本にこんな力があつたとは正直思いもよらず。

凄い。久しぶりに見る爽快感。眠い目をこすりながら見た甲斐がありました。

戦い抜いた選手たちに万歳。また、今まで出来なかったこんなチームを作り上げた指導者たちにも万歳。

うれしくなって、何はともあれ 一緒にラグビー観戦に行く仲間にメール。

仲間からのメールにも うれしさがあふれている。

「メールするだけで涙が出ます。すごいドラマを作りよった！」

限界まで耐えに耐える精神力と体力そしてチームワークにキャプテンシー……

後のゲームも南ア戦の再現を期待して、睡眠不足に耐えましょう！

改めてラグビーは「楽苦美」。



この10数年 その都度いろんな代表チームが作られながら、「もう海外の強豪には勝てぬ」と思い込んでいましたが、この快挙を成し遂げたこの日本代表チーム。マスコミや政治家がまた 手のひら返したようにチャホヤ自分勝手に取り組もうとするだろうが、それは何の力にもならぬ。精神論やトップの英才だけではどうにもならなかったに違いない。このパワー・持続力そして スピードそしてミスのない連携。何がどう変わったのか また、どんな強化が取り組まれたのか 指導者は何をどうして このチームが出来上がってきたのか さぞかし チーム一丸となった極限的なすごいトレーニング・強化があつたのだろう。

指導者側のアプローチ そして選手の選抜強化の取り組みについても是非知りたい……

それが今直面する日本の諸課題にも 勇気と力を与えるに違いない。

積極的に前向いて立ち向かう 勇気とパワーを貰った一戦 凄いとしか言いようがない。

とにかく ラグビーファンには うれしい1勝 いまだに興奮冷めやらず。

2015.9.20. 朝 目覚めて by Mutsu Nakanishi

参考 **ワールドカップ 2015 【日本 34—32 南アフリカ】 感激を今一度**

- ◆ internet 動画 **日本対南アフリカ 逆転トライまでの繋ぎ** <https://www.youtube.com/watch?v=-OC6jCtuDBs>
- ◆ internet 動画 **日本 × 南ア ラスト10分** <https://www.youtube.com/watch?v=HNTaHzJvOXY>

3. 神戸新聞「随想」欄に掲載された 金野幸雄氏の意見「この国の未来」ご紹介

——「地方に暮らす人たちが見据える中央への視点」——

9月19日未明 安保関連法案が参議院で可決成立した。

日本人の好きな言葉「あなただけ特別に & ***の特権」と表裏一体をなす「仲間内 選ばれしものの横暴」
経済評論家 内橋克人氏は「国民蔑視の横暴」と言い放つ。

平和 そして日本の最近の世相について最近ずっと 疑問視した年寄のぶつぶつをつぶやいてきましたが、
先行き本当にどうなるのか……。 「自分なりの意見を持とう 見直してがんばらねば…」

なかなか 自分では 思うことをすっきり 簡潔によう表現しないのですが、へそまがりと言われながらも なんとなく ずっと私の頭
にある不安感や不満みたいなものについて、金野幸雄氏が「この国の未来」と題して 実に完結明快に 神戸新聞 コラム「随想」に
記されている。「地方に暮らす人たちから見る中央への視点」についての意見読みびっくりしました。

「私だけやないんや 実に近いなあ 年寄でもええのや」と元気づけられた次第。

神戸新聞 コラム「随想」に掲載された金野幸雄氏「この国の未来」の意見をご紹介します。

正解はなく 人それぞれなのですが、皆さんにはどう映るでしょうか…

現在 緊急課題になっている諸件 マスコミにあおられるのでなく ちょっと立ち止まって 考えてみては…と。

美しい田園風景の中に
も、荒廃した空き家が、
あるいは自然に還ろうと
する農地が散見されて、
ああ、この国は遠からず
滅びてしまうのだなあ
という諦念と、少し風変わり
だけれど生きのよい若
者たちが地域を歩き交っ
ていて、あるいは住み着
いていて、おお、ここか
ら新しい日本が生まれる
かもしれないという希望
を、いま同時に抱いてい
る。

この国の未来

金野 幸雄

再生するのである。
都市を飾り立てる代わ
りに山河は荒らしてもよ
ろしいと思わず、それ
が健康な考え方とは思え
ないけれど、実際にその
ような国土が実現しよう
としている。都市とは国
土面積のたかだか5%に
すぎないのだが、そこに
人口の7割が住んでい
て、この国のあり方や制
度を決めている。この国
の価値観を形成してい
る。95%を占める農山漁
村は、都市が経済合理的
に利用する対象となつて
いる、あるいは経済合理
的に廃棄すべき対象とな
っている。

けれども地方に来て、
都市の狂騒を眺めてみる
とよい。そして土地の精

霊と過ごしてみればよ
い。土間に差す光、稲田
を渡る風、鳥のさえずり。
秋まつり、コミュニティ
。戦後70年、日本社会
が競って捨ててきたもの
がここにはまだ残ってい
て、もしそれが貴重な資
産であるのだとしたら、
新しい時代の価値観は農
山漁村が創るのである。
このコラムでは希望につ
いて書いてみたい。



きんの・ゆきお 一般社
団法人ノオ
ト代表理
事。195
5年徳島県

出身。東京大学工学部土木
工学科卒。82年、兵庫県庁入
り。2007～11年、篠山
市副市長。11年～14年、流
通科学大学特任教授。09年
にノオトを設立。代表理事
に就任し篠山や豊岡、朝来
市などで古民家の再生やま
ちづくりなどに取り組む。

随想

【 From Kobe 2015年11月 】 2015年秋便り

1. 2015年秋便り
2. 久しぶりに海外 台北の街へ
3. 山口県西長門 懐かしい 特牛の港のこと
4. またぞろ起きたモノづくり現場の偽装問題 この中に潜む日本の体質

1. 2015年秋便り



2015.10.15. 夕暮れ 日没直前 志方田園地の東端から志方の田園を眺める



2015.10.30. 横尾山山腹 横尾道で



2015.10.30. 横尾山山腹 横尾道で



日暮れの明石海峡 2015.10.30. 御狩り山より

2015年の深まりゆく秋 真っ青な空に野山も里も紅葉が始まり、秋真っ只中
スポーツに また 自然を訪ねて 戸外に遊ぶのもよし
秋の日暮れは つるべ落とし 自室にこもり 秋の夜長をゆっくりと過ごすのもよし



加古川の土手 狂神に上がって 夕陽と日没 川面に雲がキラキラ輝いていました
横尾道で 2015.10.15. 日没



帰路を急ぐ道 西神戸神出で 2015.10.15. 日没

2. 久しぶりに海外 台北の街へ 大学同窓仲間と



久しぶりに海外へ 台北にいる仲間が招いてくれて 同窓の仲間 15 人ほどで台北へ 飛行機の切符も通関もそして飛行機も見るもの間くものみんな新しく 完全なお上りさん状態で行ってきました。台北は高層ビルが立ち並ぶ大都会 かつての日本統治時代の建物も緑の中に点在する美しい街。街の標識はみな漢字だし、みんな本当に親切で、神戸の街を歩いているのと変わらず。自動車社会になったとはいえ、通勤ラッシュのバイクの列は かつて 東南アジアの街で見たのと同じ。 活気あるアジアの大都会でした。一番びっくりしたのは 大都会にありがちなスラムが全く見られず、食事の安さにも。台湾ビールに紹興酒を飲んで 台湾料理も口に合って 念願の故宮博物院にも行ってきました。



台北の街歩き 2015. 10. 19. & 10. 20.

台湾が取り巻く環境は複雑 国民党政権化で戒厳令の下大陸と対峙した時代を経て、大陸との交流が蜜月の時代にはいり、経済ばかりでなく、人的交流も盛んで 数多くの大陸の人達が今 台湾に押し寄せている。一方 街には 蒋介石・国民党の功績をたたえる巨大モニュメントもあり、香港のように大陸の一部に組み込まれてゆくのか それとも大陸から独立独自路線を維持するのか 来年 1 月に総統選挙 台湾の人達の思いは複雑と。今のところ 大陸との融和路線をとってきた国民党政権に代わって、現状維持独自路線の新民党が優勢と聞く。戦後 国民党とともに大陸からやってきた人たち そして国民党政権化で戒厳令で抗日・抗大陸を経験し、厳しくも清廉な日本統治時代を懐かしむ高齢層 そして戦争を知らず台湾の繁栄をまのあたりしてきた若者たち



それぞれの思いを込めた総統選挙。そんな 台湾の人達の思いも垣間見てく来ました。でも 本当に日本人には親切。情報社会の真っただ中の日本にいますが、やっぱり 想像をめぐらすだけではだめだと。

《台湾・台北の印象》

- ◆ 台北市街地が本当に美しく整備され、大都市にありがちな貧民街が見られなかったことに台湾の今の裕福を感じました。また、一戸建ての住宅がほとんど見当たらず、新旧取り混ぜた高層住宅群であることや、台湾も日本度同じく高齢化が進んでいると思っていましたが、巷に高齢者が少なく、若者が多いのにもびっくり。
- ◆ 地下鉄網・台鉄・台高鉄が集約され、地下に収まる路線網 そして大規模な地下街や基盤の目の広い道路・交通網をした精もあるが、インフラ整備・IT化が日本以上に進んでいるとの印象。ここでも日本優位はすでに崩れていると。
- ◆ 知っているようで知らなかった故宮博物院の宝物。ガイドさんが「豚の角煮と白菜」というのを一体なんや??? と思っていましたが、メノウ・翡翠原石から切り出された宝物。本当にみためにもそっくり。これは宝物や……と。
- ◆ 台湾料理に紹興酒・ビールも楽しみでしたが、本当においしかった。どちらかという中華料理はこってり系と思っていましたが、あっさり系で実においしかった。紹興酒に台湾ビールも
- ◆ 台北市内名所ツアーはよく知らなかった台湾の現実を知る本当に良い機会でした。
 - 大陸からあんなに沢山の観光客が台湾に押し寄せているとは全く知らず、意外。台湾と大陸の共存融和路線のすごい進展にびっくり。知りませんでした
 - 蒋介石の記念堂 中正記念堂と台北228記念館 で知った台湾の今の現実
 - 街の随所に残る旧日本統治時代を今に残すレンガ色の建築物群と旧日本統治時代に愛着を寄せる親日の人達とその高齢化 そして街角で接した本当に親切な台湾の人達 大陸の人達のイメージとの落差
 - 台湾の夜市は初めて 東南アジアの夜市を思い出しながら久しぶりの感覚を楽しみました。夜の街も地下鉄も全く気にせず歩ける台北の街
- ◆ 徴兵制が時代とともに大きく変化し、若者の意識も大きく変化する今、大国主義を掲げ、世界経済をも左右する伸展を遂げた大国中国とどう向き合ってゆくのか??? 大きな岐路にある台湾 現実と向き合わねばならぬそれぞれの世代も複雑な思いの中にあること理解 本当にむづかしいと...台湾にきて 初めて知った現実です。

台湾 2.28事件と228記念館(旧台湾放送協会本部)

展示写真など撮らなかったので記述のみ
 インターネット 台北二二八記念館 <http://www.taipeinavi.com/miru/34/> に
 展示詳細が記述されているのでそちらをご覧ください。
 二二八事件とは、蒋介石・国民党政府が40年にもわたる戒厳令を敷くことになっ
 たきっかけであり、内省人(戦前から台湾にいた人)を虐殺した事件である。



二・二八事件(にいにはちげん)は、1947年2月28日に台湾の台北市で発生し、その後台湾全土に広がった。当時はまだ日本国籍を有していた本省人(台湾人)と外省人(在台中国人)との大規模な抗争。1947年2月27日、台北市で闇菸草を販売していた本省人女性に対し、取締の役人が暴行を加える事件が起きた。これが発端となって、翌2月28日には本省人による市庁舎への抗議デモが行われた。しかし、憲兵隊がこれに発砲、抗争はたちまち台湾全土に広がることとなった。本省人は多くの地域で一時実権を掌握したが、国民党政府は大陸から援軍を派遣し、武力によりこれを徹底的に鎮圧した。1945年に日本が敗戦した後の台湾には、連合国軍の委託を受けて、日本軍の武装解除を行うために大陸から蒋介石率いる中国国民党政府の官僚や軍人が進駐し行政を引き継いだ。当初、少なからぬ本省人が台湾の「祖国復帰」を喜び、中国大陸から来た国民党政府の官僚や軍人らを港で歓迎したが、やがて彼らの腐敗の凄まじさに驚き、失望した。大陸から来た軍人・官僚は国共内戦の影響で(精鋭と呼べる人材は大陸の前線に送られており)質が悪く、強姦・強盗・殺人を犯す者も多かったが、犯人が罰せられぬことがしばしばあり、もし罰せられる場合でも、犯人の省籍をマスコミ等で報じることは厳しく禁じられた。また、台湾の資材が中国人官僚らによって接収・横領され、上海の国際市場で競売にかけられるに到り、台湾の物価は高騰、インフレによって企業の倒産が相次ぎ、失業も深刻化した。不正の少なかった日本の統治を体験した台湾人にとって、治安の悪化や役人の著しい腐敗は到底受け入れがたいものであった。人々の不満は、いやが上にも高まっていった。当時の台湾人たちは、「犬去りて、豚来たる(中国語:狗去猪来)」と揶揄した。(意味:犬(日本人)はうるさくても役に立つが、豚(国民党)はただ貪り食うのみ)

インターネット ウィキペディアより
 ガイドさんの話や展示で受けた私の印象とほぼ同じ記述だったので、転載させていただきました

複雑な政治情勢下に置かれる台湾 本省人とと言われる人の中にも強く複雑な思いがあることを知りました。また 今の経済情勢そして、あの数多くの大陸からの観光団 そして戦争を知らぬ若者層と高齢者との間隔のずれ等々。今台湾の方向が強く意識されている時代に、台湾の中も本当に複雑なんだと初めて知りました。



2015.10.19&20 台北で撮ったスナップ

3. 特牛イカの水揚げ港 山口県西長門海岸「特牛」の港

NHK「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」を見て 2015. 10. 23.



「特牛」と書いて、「こっとい」と読む。「特牛港」に「特牛イカ」って ご存じでしょうか??

山口県の日本海側 西長門の美しい海岸沿いにあり、すぐ東の油谷半島は阿部総理の故郷でもある。

JR 山陰線の「特牛駅」は日本一難解の駅としても有名。

その「特牛漁港」が、NHKの定点観察ドキュメント番組「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」として放映された。

イカの大漁場 響灘に日本各地から集まるイカ釣り船が、鮮度が命のイカを特牛漁港に急行してセリにかける。そんな特牛漁港に入るイカ釣り船の漁師さんたちを 72 時間を追う番組だった。



私が約 10 数年前 山口県的美祢で仕事をしていた時、美しい夕日と海流が流れるのが見られる美しい海岸として、何度も通った港で、この港にスポットが当たるなんて・・・とびっくり。

今はもう美しいコンクリートのアーチ型の橋が架かったが、当時は向かいの角島への連絡船があり、イカ釣り船の漁港としてもちょっとは知られた小さな漁港でしたが、その後、角島に橋が架かり、神戸に帰ったこともあり、特牛の港も忘れかけていたところでした。でも、特牛港というと今もイカ釣り船がすぐ頭に。この山口美祢時代の生きた剣先イカは本当に美味で、今やイカの刺身は私の大好物。 家内は美祢の時代に街の魚屋さんに教えてもらって この生きた剣先イカやスルメイカの表面の皮をはいで、くるくると身を丸めて冷凍保存。好きなときに解凍してイカのサシミを食べる技も身に着け、いまでも冷蔵庫にはそんなイカが入っている。そんな 街でいつでも手に入った西長門のイカが、今や「剣先イカの王様 特牛イカ」としてブランド化され、東京や大阪などで、ひっぱりれだこの高級イカ。 高値を狙う日本各地の漁船が先を争って、この特牛の港で水揚げし、またすぐ漁場にもとってゆくという。ここに上がったイカだけが「特牛イカ」と名乗れるビックリのビジネスモデルが構築されていると聞く。

最近山口へ行く機会もなくなって、ちょっぴり寂しくなっていた時のうれしいニュースに目を凝らしてみました。

夜 コウコウと明かりをつけ操業するイカ釣り船が夜の海に点々とともす漁火もまた、懐かしい。

久しぶりに よく通った西長門の海岸 特牛港の賑わいを聞いて、うれしくなって 11 月の便りに。

この西長門海岸 今は角島大橋と角島海岸が美しいスカイラインとして 若者たちに人気になりましたが、日本海に沈む夕日とともに 美しい海岸線を眺めながら、すぐ北にある角島との間をゆったり海流が流れてゆく様を眺め、ゆったりと長門の温泉につかる一日も忘れられぬ山口・美祢の時代の思い出。 機会があれば、ぜひ一度どうぞ

2015. 10. 23. NHK「ドキュメント 72 時間 - 旅漁師イカ釣り人生 -」を見て

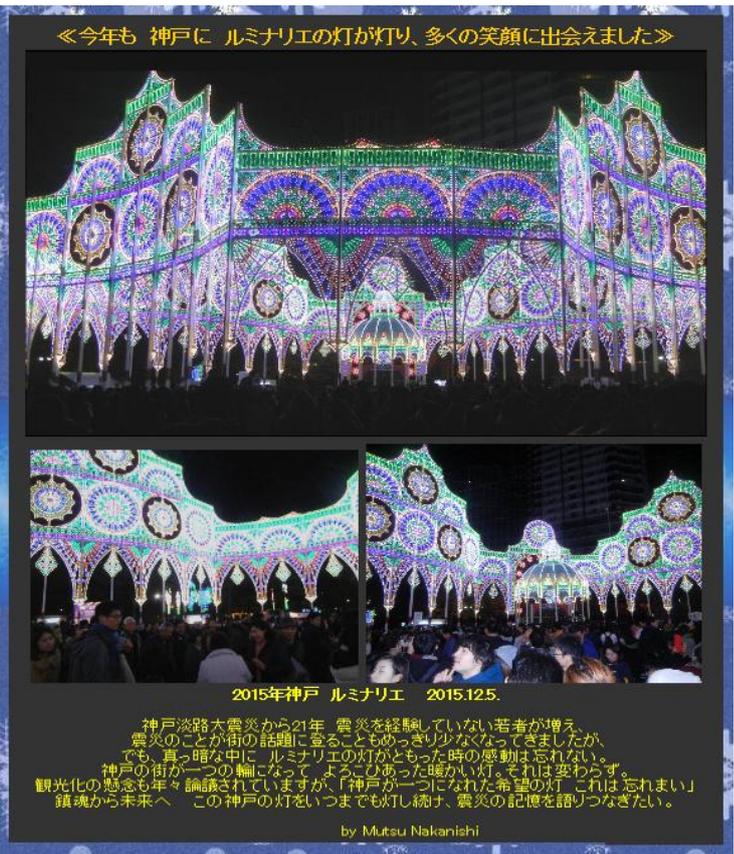
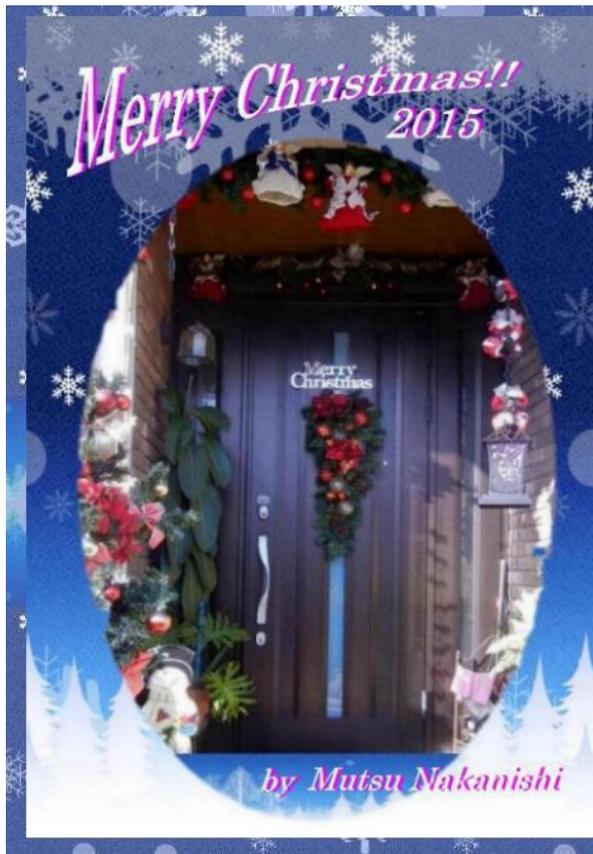
【 From Kobe 2015年12月 】

2015年 師走の便り 《格差を縮める社会の実現を》

From Kobe2015

12.

1. 2015年 師走の便り クリスマス & ルミナリエに思う
2. 沖縄の思いに耳を傾けよう 東京・一極集中の弊害が露骨に
沖縄普天間基地移設工事に関する沖縄県と国との法廷闘争
3. シリコンバレーに見るすさまじい格差社会の現実



《1. 2015年 師走の便り クリスマス & ルミナリエに思う》

毎年 12月になると 今年一年をあれこれ思い浮かべながら 「仲間の元気を活力に!!」とクリスマスカードを作ります。グローバル・高度情報化社会と日本の成長繁栄が声高に叫ばれる今、なにか 満たされぬ閉塞感から脱する新しい道を今踏み出さねば・・・と。

人間の人間たる所以は「他人を思いやる心」。人は心を許す仲間なくして生き延びてはこれなかった。

それを「愛」という人もいる。今 厳しい競争社会の中で それが大きく揺らぎ、忘れ去られてきた。

グローバル・高度情報化社会繁栄の流れの中で、地球温暖化はもう抜き差しならぬ状況になり、極端な格差社会が新興国のみならず、先進国でも軒並み 貧困差別と争いを引き起こしている。これが人類が追い続ける未来繁栄の道なのだろうか???

日本では 東京一極集中が抜き差しならぬ状況の中 いまだにそれを追い続ける日本。

「一億総活躍社会」の掛け声にも首をかきげたくなる未来不安の世相が蔓延する。

今 出口を見出す転換をしないと人類・地球滅亡への道の縁にいる。

「他人を思いやる心」を新しい価値観と考える人も増えつつある。これを次の世代へ伝えねば。。。。。。
人類の歴史の中で 他に類を見ない1万年という長きにわたる争いのない平和な継続社会「縄文」を築いた日本。
今こそ 「日本人のルーツ 心優しき縄文人」の心と知恵を取り戻そう。

神戸では 今年も 未曾有の震災の中で培われた人と人とのつながりの証し「ルミナリエの灯」が灯りました。
心を許す仲間なくして生き延びてはこれなかった人類。 その繁栄の道はただ一つ「他人を思いやる心」。

今一度 家族・仲間を そして世界平和の道を思い浮かべながら、今を生きたいと願っています。

そんな思いを含めた2015年クリスマス

知人の家のクリスマス飾りが素晴らしく、今年はそれをカードに使わせていただきました。

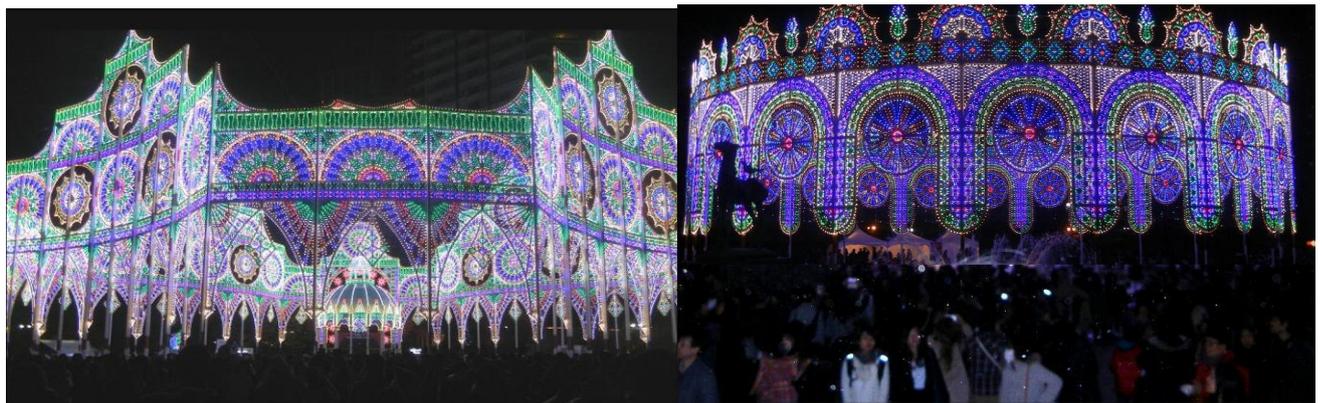
ルミナリエも 例年とは違ったLEDの光の色合に 20年を超えた時代の流れを感じています。

お互い 無理せず 元気に 前向いてと。

2015.12.10. Mutsu Nakanishi from Kobe



神戸ルミナリエの光の環の中で 縄文の心の環を見る
絶やすまい忘れまい希望の灯 神戸ルミナリエ



世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」
そのエンジンは「他人を思いやる心」

北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に

今年もルミナリエの灯が神戸に灯った。震災から2つてています。1年 鎮魂から未来希望の光の環へ
ルミナリエの光の環の中に入って、この環は縄文のストーンサークルの現代版だと。

世界に類のない一万年も長きに平和で豊かな生活を継続させた縄文 その原動力は「他人を思いやる心」。

今 世界でも、日本の縄文時代の再評価が始まっている。神戸 ルミナリエのテーマも同じではないか。。。。。

欲望・競争の渦から抜け出し、希望の未来へ

「他人を思いやる心」 「日本人のルーツ 心優しき縄文人」の心を今取り戻そう。

神戸新聞の社説に沖縄普天間基地移設工事に関する沖縄県と国との法廷闘争に関して 翁長沖縄県知事の意見陳述の内容についてのコメントが掲載されていた。

国と地方の関係について、これほど地方を無視した対応はかつてなく、「中央のおごり」とでもいうべき態度と対応に中央の「村社会」復活 村八分的な格差社会がますます露骨になっている一番の例のように見える。
すぐに民意・多数決の原則を振りかざす中央の民主主義が本物なのかどうか・・・一度 よく考えねば・・・

一方 国際・グローバルの最先端を行くアメリカ シリコンバレーでは
目を覆うばかりの格差社会が出現すると同時にグローバル企業の横暴が目にとり、
「グローバル企業の論理は決して住民を幸福にはしない」との現実と直面しているとのニュースを見た。
あの IT 先端産業が国の繁栄を引っ張ったシリコンバレーでは 今グローバル化・国際化し、繁栄を謳歌する大企業群によって街は著しい格差・村社会の現実とさらされ、大多数の住民が取り残され、幸福を享受できない状況が現実に見えだしている
と・・・。大きな格差社会を生み出したグローバル化・国際化が、本当に人々を幸福に導くのか？
今アメリカ社会は 危機に直面していると・・・。
これは さらに アメリカ一辺倒の日本の未来をこのシリコンバレーの現実が示唆しているように見える。
年寄りのたわごとかもしれませんが、今は 本当に数にものをいわした薄っぺらなご都合主義的判断が、主流に見えて仕方がない。日本でも 一度立ち止まって じっくり考えることが必要ではないかと

by Mutsu Nakanishi

神戸新聞の社説岸記事 翁長知事陳述／国民全てへの問い掛けだ

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設計画をめぐる、国と県による異例の法廷闘争が始まった。移設先の名護市辺野古の埋め立て承認を取り消した翁長（おなが）雄志知事による処分について、国が撤回を求めた代執行訴訟の第1回口頭弁論が、福岡高裁那覇支部で開かれた。訴訟で争われるのは知事による取り消し処分の是非である。安全保障や外交分野で、知事に判断権があるのかどうか争点だ。

だが、法廷で意見陳述した知事が重きを置いたのは、国が掲げる法律論ではなく、「魂の飢餓感」と表現する沖縄の心情だった。国土のわずか0・6%に73・8%の米軍専用施設が集中している。過重な基地負担を強いられてきた歴史をたどりながら、地元民意に反して進められようとする辺野古移設の不条理を訴えた。裁判の原告である国だけに向けられたものではない。国民全てに対する問い掛けと受け止めるべきだ。私たち一人一人が、沖縄の声にしっかりと耳を傾け、解決への道筋を考えることが重要だ。

訴訟で県側は移設を憲法違反と位置付ける新たな論点も持ち出した。移設先周辺の住民の自治権が大幅に制約されるにもかかわらず、地元の承認も国会審議もなしに計画を進めるのは、憲法が定める地方自治の原則に反するとの主張だ。

複数の選挙で反対の民意が示されたにもかかわらず、国が強硬に進める辺野古移設を、翁長知事は地方自治の危機と訴えてきた。沖縄だけの問題ではないと他の自治体の理解を求めてきた。しかし、わがこととして考えた自治体はどれほどあったか。国が進める事業を止められるわけがない、という姿勢では、自治権が揺らぐのを傍観することになる。

1999年の地方自治法改正で、国と地方の関係は「上下・主従」から「対等・協力」へと変わった。「日本に地方自治や民主主義は存在するのか」という知事の問い掛けを、正面から受け止める必要がある。菅義偉官房長官は「対話の余地がなかった」とし、やむを得ず訴訟に踏み切ったと強調する。しかし、県との接点を見いだせず、解決を図れなかった責任は重い。

国は対話による解決を望む世論に応え、事態を打開する努力を続けるべきだ。

格差対立、第2 機械時代の痛みに直面するシリコンバレー インターネットの記事より

1. シリコンバレーの現実 彼らが日本で豪遊できるワケ「1900 円のランチ?安いね」の現実

最近、シリコンバレーからの人と会うことが多い。彼らは、日本はお気に入り、大満足して帰っていく。というのも、安いからだ。

先日は、ランチミーティングをした。丸の内のいわゆるちょっと高級ランチゾーンのお店にいった。最低の値段が1500円、といった感じのレストランだ。日本は、だいたい「半額」。もうすぐランチタイム。彼はメニューを見るなり、とても安いといって、1900円のセットを頼んだ。我々にとっては、それなりに高いランチだ。

「日本は、素晴らしい。この内装、雰囲気、ちゃんとしたサービスがついていて、チップもないし、それでいて、15ドルちょっと（1900円のこと）だし」シリコンバレーでこんな感じだといくらするの?と聞き返してみた。「そうだな、30ドルは最低でもかかるな。ドリンクやチップは別だし」だという。

ドリンクと、20%のチップ、8%前後の消費税をくわえると、4500円くらいになると思う。ランチに4500円である。「もちろん、物価の高さはクレージーだけれどもね。ミーティングのために入ったホテルのスムージーが、なんと23ドルだったんだ」（同様にチップ税金をいれたら3500円くらいになると思う）シリコンバレーの物価のあまりの高さには、彼も辟易としているようではあったが、実際そうなのだからしょうがない。そして、日本は、だいたい「半額」という感じの捉え方ようだ。日本が半額、これは衝撃的だ。



こんなことが 一般住民から切り離されたシリコンバレーの村社会の中では普通なのだ。村から締め出された大多数の人たちの現実 「明日は我が身」がふと頭をよぎる。。。。。

2. 格差対立、第2 機械時代の痛みに直面するシリコンバレー インターネットの記事より

下の写真は、シリコンバレーのマウンテンビュー駅(カリフォルニア州)の裏側にある建物だ。

2月にWhatsAppのJan Koum氏(CEO)がFacebookへの売却(190億ドル)に合意した際、契約書にサインした場所である。

母親と共にウクライナから移住してきたKoum氏は、生活保護のフードスタンプを受給できるほど苦しい生活を送っていた。床掃除の仕事などをしながら、独学でコンピュータネットワークを習得し、そしてアルバイトのセキュリティ検査でYahoo!を訪れた時に知り合ったBrian Acton氏とWhatsAppを作り上げた。

契約書にサインするために選んだ建物は、かつてフードスタンプを受け取るために通った社会福祉事務所だった。

契約の様子を伝えたBusiness Insiderは「WhatsAppのCEOが19億ドルのFacebookとの契約に署名した場所が示す到達点の高さ」という見出しを付けた。

この記事を読んだ人は、シリコンバレーにアメリカンドリームの可能性を感じるかもしれない。

でも、地元の人たちはこのエピソードからアメリカンドリームが難しくなった“今”を思わずにはいられない。

Koum氏がティーンエイジャーだった頃のマウンテンビューはパロアルトやスタンフォード、サンノゼの間にあるシリコンバレーのすき間の街で、アイデアで勝負するスタートアップが最初のオフィスを構えるのに適した街だった。

ところがGoogle本社の城下町として発展し始めてから庶民色は霧散し、今では平均的なアパートの家賃が2000ドルを超える。空き物件に入居するのはGoogleやMicrosoft、SymantecなどIT大手の社員ばかり。



【 2016 年年賀 From Kobe 】 2016 年 年の初めに



生命をつかさどる元素・文明を支える元素として「鉄」がなければ人類は生きてゆけない

溶鉄の輝き「閃光」と鉄の黒光り「肌光」

その輝きの中に燦然と輝く人類の知恵の数々

《 縄文の心 》

世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」

そのエンジンは「他人を思いやる心」 人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道でもある

北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に



<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

ほかの動物に狩猟・採取の生活を見ると「乳離れするまでは 面倒を見るにしる、狩猟・採取の移動の中で 群れについて行けなくなると置いてきぼり」それが狩猟・採取の生活の厳しさ。

そんな縄文の狩猟・採取の時代に 幼くして小児麻痺の少女が成年期を経て、一生 多くの人達に見守られ、縄文の村で暮らしていた。

また、縄文の村猟犬として飼われていた犬たちが、家族同様 大切に暮らしていた証拠もある。

今こそ 「日本人のルーツ 心優しき縄文人」 の心を今取り戻そう。

グローバル・高度情報化社会と日本の成長繁栄が声高に叫ばれる現代社会のほころびが見えだし、
気候温暖化の激変・環境変化・格差と貧困の急激な進行そして戦さなど数々の災いが日常的に脅威として降りかかる。

世界が今 新しいスタンダードを探し求めている。

地球温暖化はもう抜き差しならぬ状況になり、 極端な格差社会が新興国のみならず、先進国でも軒並み 貧困差別と争いを
引き起こしている。 この激変の時代の真ただ中で、ただひたすら、東京一極集中を追い続ける日本。

さらに 抜き差しならぬ状況の中 老齢化成熟社会の厳しさが追い打ちをかけ、「一億総活躍社会」の掛け声にも 首をかし
げたくなる未来不安の世相が蔓延する。

「昔はよかった」と振り返っても なんの役にも立たないが、他人事だった現実が我が身にふりかかる日々にハッと気が付く。
これが人類が追い続ける未来繁栄の道なのだろうか??? 出口を見出す転換をしないと人類・地球滅亡への道の縁にいる。
今一度立ち止まってグローバル・高度情報化社会の現実を直視せねば・・・。

なにか 満たされぬ閉塞感から脱する新しい道を 今踏み出さねば・・・

「どう 生きればよいのか」 あれこれ思いめぐらす中での 新しい年の始まりです。

人間の人間たる所以は「他人を思いやる心」。人は心を許す仲間なくして生き延びてはこれなかった。

それを「愛」という人もいる。今 厳しい競争社会の中で それが大きく揺らぎ、忘れ去られてきた。

「甘っちょろい」との声もあるが、「他人を思いやる心」なくして 人類は生き延びてこれなかった現実を先端の科学そ
して歴史が証明している。

現代社会が忘れたものを 今の現代社会に取り戻すことが、閉塞した現実を
突破する糸口になるだろう。

神戸には 手にしていたすべてが一瞬にして消え去り、立ちすくんで
途方に暮れた中で 神戸の街が一つの輪になって 立ち向かった21年前
の神戸淡路大震災の記憶がある。

グローバル・効率化と激烈な競争の中で、現代人・社会が忘れ去ってし
まったものを思い起こさせてくれたルミナリエの光の環

また、今 世界が「日本の縄文」に着目し、現代社会を見直そうとして
いる。かつて 世界に類のない 「1万年もの長きに渡る平和で豊か
な永続社会築いた日本の縄文」

そんな「日本の縄文」にも 現代を見直す知恵がある。



◆ **競争社会から成熟社会へ移行する日本に必要なのは「縄文かえり・心の優しさ」では・・・**
朝日新聞天声人語にこんな記事が・・・

ヒューマンを特徴づける「利他的精神」がこんなところにも

2014.5.6 朝日新聞「天声人語」より

天声人語

おもしろい実験をネットで見
た。2本の高速道路が合流する
場合、どうすればすんなりと車
線変更できるかを探っている。
「渋滞学」の生みの親として知
られる東大の西成浩裕教授が説
明役だ▼車の代わりに人間が二つの道を
歩く。合流する直前まで互いが見えない
状況で、すぐに車線変更しようとする
と、ぶつかりそうになったり、詰まったりす
る。危ない。そこで合流地点から一定の
距離を車線変更禁止とする。するとその
間、互いを見合い、譲り合いながら車線
を変えられるようになる▼われ先に走る
よりは、まわりとコミュニケーションを
取りながら運転するほうが、結果的に速
くなる。車間距離を十分に取ることも
とともに、道路の流れをよくするための
知恵である▼この実験は「利他的精神実
験」と銘打たれている。西成教授が強調
するのは、他のドライバーへの思いやり
だ。目先のプラスばかりを追わず、長期
的視野を持つ。情けは人のためならず。
損して得とれ、とも。頭ではわかってい
ても、なかなか実行できないところが凡
夫の悲しさか▼きのう、Uターンラッ
シュに巻き込まれた方も多いに違いない。
きょうも混雑が続くだろう。渋滞のスト
レスを長時間受け続けるつらさはいかば
かりか。どこにも出かけずじっとして
いた身には、お気持ちを拝察することしか
できない▼大型連休が終わる。朝の駅の
雑踏が戻ってくる。遅い流れにいら立
つて、ともすると前に出たがるのを自
戒することにする。急がば回れ、だ。

2014・5・6

人間が人間たる由縁は「他を思いやる心」を持っていること。 現生人類が現代にまで、幾多の苦難を乗り越え、
文明を発展させて 今まで生き延びることが出来たのは、この「他を思いやる心・利他的精神」を持ち合せていたからだという。
そんな「心やさしき」縄文人は 世界3大文明に先駆け、縄文文化を花開かせ、日本人の心のふるさととなった。
激しい競争社会が展開させる現在 今一度 この人類史の 現実をみつめ直す必要がある。

ややもすれば 自己責任を強要する現代社会への警鐘 こんな身近な例からも社会を考えるヒントがある。

2014.5.6. from Kobe Mutsu Nakanishi

今こそ「日本人のルーツ 心優しき縄文人」の心を今取り戻そう。
 心を許す仲間なくして生き延びてはこれなかった人類。その繁栄の道はただ一つ「他人を思いやる心」。
 人類の歴史の中で 他に類を見ない1万年という長きにわたり、平和な継続社会を築いた「縄文」
 欲望・競争のスピードの渦から抜け出して 今一歩立ち止まって「他人を思いやる心」を眺めよう。
 そこから 生まれる新しい価値観を次の世代へ伝えねばと。

世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」
そのエンジンは「他人を思いやる心」 人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道でもある
北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に



<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

縄文がえりの勧め 心優しき縄文の村

幼くしてポリオにかかった少女が 縄文の村で みんなに守られ ずっと暮らしていた

「景色のいい素晴らしい高台に暮らす心優しき縄文人」「縄文のこころを映すストーンサークル」と
 縄文に魅せられて縄文の遺跡を訪ねはじめて、もう10数年になる。

■ **入江・高砂貝塚縄文遺跡**

「狩猟・採取 自分の食糧確保に精一杯であった縄文時代に
 4000年前の北海道の縄文の村で 幼くして小児麻痺にかかった少女が
 成年期を経て一生みんなに 見守られて その村で暮らしていた。
 その痕跡を示す骨が北海道洞爺湖の近く噴火湾や有珠山を望む入江貝塚
 縄文遺跡でみついている」と。

北海道洞爺湖の近く噴火湾や有珠山を望む海岸の高台にある縄文時代前期
 から後期(約5000～3500年前)にかけて形成された大規模な集落。



北海道・北東北縄文遺跡群 入江・高砂貝塚遺跡 http://jomon-net.xsrv.jp/jomon_kairou/iseki/irrie-takasago.html

北の縄文文化を発信する会 | 縄文のこころ <http://jomon-heritage.org/jomonheart/>



年齢70を越え、無理は効かぬし力もなし。
 でも まだまだ 好奇心は旺盛 元気はある
 今一度 家族・仲間を頼りに 前向いて元気にと。

右の「三猿」は 「お互い元気に」と義姉が送ってくれた「三猿」
 なるほど 今年はこれでと
 本年もよろしくお祈りします。

2015.1.1. Mutsu Nakanishi From Kobe



【 From Kobe 2016年2月 】

《1.》 1995.1.17. 阪神淡路大震災 21年目の記念日の翌日 神戸の街の空に架かった虹におもう
「風化させてはいけない記憶とはなんなのだろうか？」



21年目の阪神淡路大震災 1995.1.17. 記念日の翌日 神戸新聞2016.1.19.より
神戸の街に美しい虹がかかりました

1月17日 神戸では阪神淡路大震災 21年目の記念日。数多くの行事が行われ、数多くの神戸市民がそれぞれの思いの中でこの日を迎えた。しかし、震災後20年を超えて 行事を担ってきた人たちも高齢化し、年々行事がむつかしくなってきた。また、21年を経て 阪神淡路大震災を経験しない若者が多くなり、震災体験者と未体験の椀物とのギャップが埋められず、行事の中でも 世代間の断絶が懸念される事態も起きているという。

そして 行事に参加する人たちも、行動を共にする人たちも年々減少し、「記念日をどう守るか」「記念日を風化させてはならない」との声がたくさん聴かれるようになった。

「風化させてはならないものは何なのでしょう？」 私自身よくわからず、心情はあっても 行動への確信がない。

神戸の巷でも かつては 人が集まると震災の話で 見ず知らずの人も含め、盛り上がったものですが、実感として 今では ほとんどそんな光景を目にすることもない。

風化させてはならぬことの中身についての議論はほとんどないのが現実で、だれも その中身に意識がゆかない。

「風化」を声高に言っても 「行事」そのものが「風化させてはならぬもの」になってはいないだろうか…

また、未体験の次世代を担う若者にも「行事は行事」との受け止めしかない現実が広がっているのではないだろうか……

これではいくら記念行事をやっても 継承者も育たず、改善の糸口さえないのではないか……と。

数多くの情報が飛び交う情報社会の真ただ中 大事な情報が多くの情報の中に埋没してしまっている。

阪神淡路大震災の翌日 神戸の街の空に美しい希望の虹が現れた。

ますます 高齢化が進む中で 阪神淡路大震災の教訓 そして防災 地域コミュニティの育成等々

それぞれがそれぞれの意識を変えて 取り組まねばならぬこと多し。 がんばろう神戸 そんな虹に見えました。

今一番 大切なものは何か 大切なことは何か 自分にとるべき行動はなにか

そんなことをみんながみんな それぞれの地域一体となって考えねば、震災の教訓の風化は避けられない。

これは 日本人にとって 一番苦手な事かもしれないなあ……と。

ルミノリエの灯 絶やすまい 忘れまい 1995.1.17の記憶

私もそうなのですが、神戸の人達にとって、震災後に ルミノリエの灯が灯った時の感動は忘れられない。
震災直後 真っ暗な公園の火を囲んで 顔を合わせ、暖を取り、語りあい、誰もが お互いを頼りにしあった毎日を
ルミノリエの灯に重ね合わせ、ルミノリエの灯が灯ると自然とあの光の輪の中に行きたくなる。

そんな中で 生まれた知恵・意識・行動が数多くあり、それを次世代の若者たちと共有・共働して、継承ゆくことが、
風化させないこと一番大事なことはないか・・・と。

「自分の命 人の命も大切に」 「利他を思いやる」 それを「絆」・「縁」という人もいるが、
これから生まれる行動連鎖が地域コミュニティとして 日常的に常態化されてゆけば・・・と。



2015年神戸 ルミノリエ 光の環に飛び込んで「神戸が一つになれた希望の灯 忘れまい」 2015.12.5.
鎮魂から未来へ この神戸の灯をいつまでも灯し続け、震災の記憶を語りつなぎたい

神戸淡路大震災から21年 震災を経験していない若者が増え、街の話題に登ることもめっきり少なくなった
でも、真っ暗な中に ルミノリエの灯がともった時の感動は忘れない。

神戸の街が一つの輪になって よろこびあった暖かい灯。それは変わらず。

観光化の懸念も年々論議されていますが、「神戸が一つになれた希望の灯 これは忘れまい」

鎮魂から未来へ この神戸の灯をいつまでも灯し続け、震災の記憶を語りつなぎたい。

2016.31.19.朝 神戸新聞の 神戸の街の空に架かる虹を眺めながら

by Mutsu Nakanishi



 日々新た 今できることを 精一杯 無理せずゆっくりと

困難の中に居られる方々にエールを!!
いつも 思いをさせています。
「忘れまい 忘れないで 仲間がいる
暖かい希望の輪がつながっていることを」

かみ ともに 生きて
得られるものを変える「勇氣」
変えられないものを受け容れる「心の静けさ」
両者を見分ける「叡智」を
ニーバーの祈り より

「まあええか 元気だして行こう」と
心は行ったり来たりですが
好奇心さえあれば・・・と前向いて
お互い笑顔で 前向き思考 元気で乗り切って行きましょう



【 From Kobe 2016年3月 どこかで 春が生まれてる 】 2016.3.5. by Mutsu Nakanishi



我が家の角先にも春の草花が花をつけだしました 2016.3.1.

1. 弥生3月 どこかで 春が生まれてる 春はもう そこまで
2. 原発再稼働トラブルに見る日本人気質
3. 播磨地域に広がる溜池群を利用したメガソーラー発電所の建設

《1.》 弥生3月 どこかで 春が生まれてる 春はもう そこまで



高浜原子力発電所4号機が2月26日 原子炉を起動する操作が行われ再稼働した。これで原子力規制委員会の新規制基準の下で再稼働したのは2つの原発の4基になりました。



朝日新聞 DIGITAL 高浜原発4号機が緊急停止 再稼働直後、変圧器で異常か



高浜原発4号機の送電開始作業中に警報が鳴り、計器類を確認する運転員ら=29日午後2時3分、福井県高浜町、代表撮影

関西電力は29日、高浜原発4号機（福井県高浜町、出力87万キロワット）で発電と送電を始めた直後に変圧器周辺でトラブルが起き、原子炉が自動で止まったと発表した。高浜4号機は20日に原子炉補助建屋で放射性物質を含む水漏れが見つかり、点検して26日に再稼働したばかりだった。3月下旬の営業運転開始をめざしていたが、遅れる可能性が出てきた。

2016.3.1.

26日朝から再稼働前の最後となる原子炉の核分裂反応を抑える制御棒の検査が完了し、中央制御室で関西電力の副社長や、原子力規制庁の検査官などが見守るなか、運転員が制御棒を核燃料の間から引き抜くレバーを操作して原子炉を起動し、再稼働。そして、原子炉は13時間後の27日午前6時頃 核分裂反応が連続する「臨界」の状態になり、29日には発電と送電を始め、その後徐々に原子炉の出力を高め、3月下旬に営業運転に入る計画だったという。

29日午後 多くの関係者 報道陣が中止する中 送電開始のレバーが ひねられた瞬間、「ファンファンファン」という甲高い警報音が鳴り響き、警報盤のランプが点滅し、原子炉は自動的に緊急停止した。

この場に招待されていた報道陣のカメラが切迫した状況の一部始終をとらえていたが、考えさせられる場面ばかり。

運転員らは原子炉の状態を示す計器の確認作業などに追われ、「トリップ（自動停止）確認して」「異常なし」などの声が制御室に交錯。緊迫した雰囲気にも包まれた。そんな切迫した状況の中で 報道陣など関係者を招待していた 関電広報担当者は「通常通り 通常通り ここから出しましょうか」とのんきな声を上げている姿も映し出されていた。この緊急事態の現場の姿を見て 関電の安全視点は少しも変わってないなあ……と。

もう何十年も前になるのですが、 製造現場で非常ベルが鳴り響いた時に、同じ建屋の中で会議をしていたグループから、「非常ベルがうるさい。早く止めろ!!」と。現場の仲間が「異常時 退避の安全処置を取るのが先だろう!!」と怒鳴り返していたのを思い出していました。

映像に映し出された中央制御室 現場担当者が緊急安全処置・異常発生場所の確認に走り回中 ほかの関係者はいたって暢気。警報が鳴っても まったく暢気なもの。しかもそこには 全くわからぬ多くの部外者がいるのにと。これが 再稼働の確認を得た会社の現場の姿。安全審査って なんやねん……と思う。

異常・緊急時 その場に居合わせた関係者それぞれの行動意識など みじんも見られぬ現場。

現場と会社幹部 現場と管理部門の意識の乖離が、福島原発事故でも大きな問題になったが、全くそれが改善されず、安全基準 新規制値の値だけにすぎている姿が浮き彫りに……。これが日本の通常姿なのだろう。

ここにもデジタル値・マニュアルのみに縋りつき、運用・ソフト技術・ノウハウ技術軽視の日本の工場現場 並びに完全基準審査の課題が浮き彫り。よくも悪くも日本人の気質が現れている。

そもそも 操業寿命40年と決められ、稼働してきた原発がさらに20年再稼働できるとする内容がほとんど明らかにされず。報道等知る限り、新基準そのものも原発暴走の原因となった電源喪失をカバーすることのみに集中されているように見える。再稼働となると取り換えの出来なかったコンクリートで固められた原子炉容器など原子炉心臓部の鋼材の劣化・疲労 それを覆うコンクリートの劣化等はどう論ぜられたのだろうか……

また、いったん事故が発生した時の災害の大きさを考えると 電源喪失そして計器・装置破損などによる放射能汚染や水素発生の問題に対する2重・3重の対策はとれているのだろうか…。また、機械・装置を取り換えた時の初期トラブルは重要な課題。今回も長期に停止後、数々の新しい装置が持ち込まれたと推察するのですが、その初期トラブル対処はどうなっているのか……。まだまだ 今回のような再稼働初期トラブルは出てくるのだろうか。

昔 稼働ノウハウとして Copy Exactly を徹底的にたたきこまれたが、再稼働には新しさを求めるよりこの厳密さがなければと。日本人の一番不得手な部分であるが、もう一度 何が再稼働前と何がどう変わっているのか 厳密な視点も必要と思う。

注 原発の建設・補修等に長年携わってきた友人が 中性子照射・疲労など鋼材の劣化 原子炉周辺の水素発生防止などのデータ収集と解析 原子炉の常時監視の状況など丁寧に教えてくれ、材料面での再稼働の安全は確保されていると。

《3》 播磨地域に広がる溜池群を利用したメガソーラー発電所の建設



西神戸神出 合ノ池に建設中のソーラパネルの浮き架台 20106.2.25.

西神戸神出の雌岡山の山頂から周囲の景色を見ていて、雌岡山周辺に広がる溜池群を見ていて、その一つ神出合ノ池の水面全面に架台を並べて、太陽電池パネルを並べたソーラー発電所建設が進んでいるのを知りました。

瀬戸内気候で雨が少なく、しかも大きな川のない西神戸から東播磨の田園地には数多くの溜池が広がっている。この溜池群の水面を利用したクリーンエネルギーソーラー発電所の建設には最適な場所だと。

インターネットで東播磨の溜池群を調べるとすでにほかにもメガソーラー発電所が建設されているのを知りました。身近な場所で大きなクリーンエネルギーを得るビジネスがすでに進んでいるのを知りました。



水面上に設置した太陽光パネルと架台例
兵庫・加東市西平池 高岡西水上メガソーラー発電所

インターネットで調べた溜池に架台をつないで並べた白い浮き筏に設置された太陽電池パネル例
そっくりで 日照り続きの日照時間が長い播磨平野の溜池群は格好の太陽電池パネル設置場所。
これから 次々と溜池にパネルが設置されるのだろう



「兵庫・高岡西水上メガソーラー発電所」
加東市高岡 西平・東平池



google earth で見つけた加東市の
ソーラー設置池例

加東市東実周辺のソーラーパネル

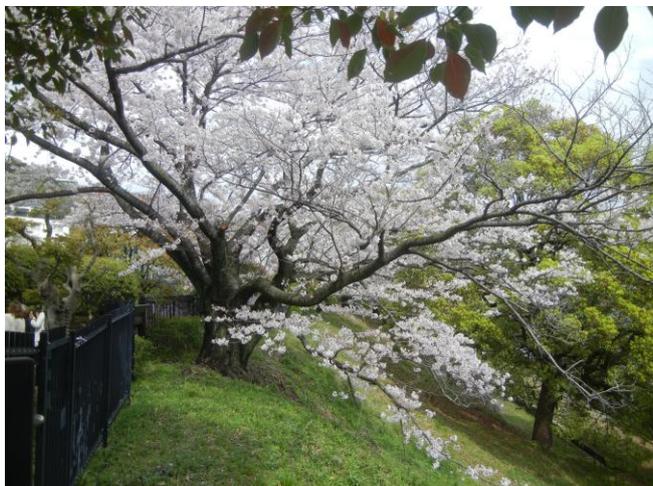
【 From Kobe 2016年4月 】

春爛漫 新しい出会いと出発へ 日々あらた 元気に今を

満開の花をつけた枝を 精一杯広げる桜に 人それぞれ 思い出がある

神戸の市街地 再度山山裾の高台 水の科学館(奥平野貯水池)

樹齢約70年の大きな一本桜「舞桜」が、今年も満開の花をつけました 2016.4.4.



花の香りが漂う春に胸膨らませ、仲間元気を活力に!!
時には助けてもらいながら わが道を前向いて

3月27日はイースター・復活日

毎年、復活日があるとキリストの受難に思いをはせ、自らをふりかえり、わが身に感謝し、家族・仲間 そして地球の人たちへと思いをはせる

希望の明日して世界平和を春の花に込めて
「神とともにいます」との思いもあらた
新しい出発を誓う



2016.3.27.

Mutsu Nakanishi from Kobe



「希望」「愛」「優しさ」
アーモンドの花の香りが漂う春

春の妖精 カタクリの花 2016

花言葉は「初恋」・「耐える」

地球氷河期の生き残り
8年かけて地表に顔を出し
山腹の斜面で冷たい風に身を打ち震わせ
立ち向かう姿に心を揺さぶられる

今年も元気な姿に出会えました

桜の便りが届きだすと毎年会いに行く
佐用たたらの里のカタクリの花

春一番の楽しみ カタクリの花との出会い
その愛らしい姿にじつと目を凝らす



千種川が流れ下る西播磨佐用町 三日月町「弦谷」& 東徳久 殿崎 カタクリの群生地 2016.4.5.

春爛漫 新しい出会いと出発へ 日々 あらた

「老いてはいられない 前向いて 歩を踏み出して」と気を引き締める

2016.4.10. by Mutsu Nakanishi

< ぶつぶつ from Kobe 2016.. 4.1. Mutsu Nakanishi >

1. 神戸の春 海からの毎春の恵み イカナゴ漁と牡蠣の水揚げ
また「イカナゴが夏眠する」すごい生き残りの知恵 知りませんでした
2. わが町 妙法寺「車」集落周辺の谷筋は 幕末期神戸開港を支えた神戸石炭の大生産地
3. この四月 TV ニュース番組の芸能番組化急速に
また おかしかった朝日新聞の紙面構成がおおきくかわってきている

< ぽつぽつ from Kobe より >

1. 神戸の春の海からの毎春の恵み イカナゴ漁と牡蠣の水揚げ また「イカナゴが夏眠する」すごい生き残りの知恵 知りませんでした



神戸の春 イカナゴ漁と牡蠣の水揚げ

神戸の春の風物詩「イカナゴ」今年は暖冬がたたって 大阪湾の水温が高く、大阪湾を回遊するイカナゴの稚魚が極端に少なく不漁に。解禁も遅れに遅れて3月7日解禁に。高値を呼んで 毎年 店先のイカナゴを求める行列も 例年ほどにはならず イカナゴの釘煮の話題で盛り上がるの街の輪も、今年是不発に。

それでも 春を感じたく 家内は「くぎ煮」を炊き、こちららは「新子のかまあげ」「くぎ煮」で一杯。うれしい神戸の春の訪れです。

「イカナゴ」とともに この時期 忘れてはならぬ味覚に 西播磨相生・室津の牡蠣がある。 店先には殻付き・剥き身などにして その日水揚げされたたくさんの大粒の牡蠣が店頭に並び並び。

一杯やりながら仲間が「兵庫の春はイカナゴというが、室津や日生海岸の牡蠣を焼いて食べるのが一番」という。

私の高校時代の友人もいつも「日生の牡蠣食べに行こう」といってたなあ・・・と記憶が蘇ってくる。

今年も家内の友達から水揚げすぐの室津殻付き牡蠣を沢山送ってもらって、うれしい焼き牡蠣が食卓にのぼり、舌鼓。

イカナゴのくぎ煮と室津の牡蠣 神戸の春を彩る毎春の恵みです。

ところで、「イカナゴ」のこと。

「イカナゴが海底の砂の中にもぐって夏眠する」って 知っていますか

私は全く知らずで、 そのすごい生き残りの知恵にびっくり。 地球上の動植物みんな すごい知恵で生きている。

「イカナゴは1年の半分近くを寝て過ごす夏眠する修正を持つ珍しい魚いだ」と砂の中から頭を出す写真入りで新聞に掲載されて、初めて この「イカナゴの夏眠」を知りました。

イカナゴは、もともと寒い北の海の魚で、お正月前後が産卵期 卵は明石海峡や紀淡海峡近くの海底の砂つらに産み付け、10日ほどでふ化。

海の流れに乗って大阪湾内に広がり、海中のプランクトンを食べながらぐんぐん大きくなり、2月下旬から3月初めになると、体長3cm程に成長。

それを待って 春の風物詩イカナゴ漁が始まるのだそうだ。一方、漁を免れ、生き残ったイカナゴは 水温が高くなる6~7月頃になると、イカナゴは体力の消耗を避けるため、海底の砂の中に潜って活動を停止する。これを「夏眠」と呼ぶのだと。イカナゴはそれ以後 餌も食べず、12月まで砂の中でじっとしている。

この習性は、彼らが北の海から南へ分布を広げるために身につけた、暑い夏を 乗り切るすばらしい戦略的生活の知恵。

12月頃になって水温が下がってくると、イカナゴは砂の中から出てきて、産卵をおこない、満1才で親になるという。



海底の砂浜に頭だけ出して 仮眠するイカナゴ

今年は 一説によると今年は大阪湾の海水温が高いために、大阪湾に入る イカナゴが極端に少なくなったのだと。無数のイカナゴが砂から頭を出している写真を見ながら 「イカナゴは生き延びるため すごい戦略を持っているのだ」といままさらながらびっくり。 大阪湾のイカナゴ漁にとって、暖冬や寒さは漁期を変えるだけなんだと思っていましたが、敵なんだと初めて 知りました。

高山植物やカタクリなどの植物の生き残り戦略の話はよく聞かいて知っていましたが、魚にも こんな生き残り戦略がある。初めて知るイカナゴの体得したすごい生活の知恵なんだと。

2 わが町 妙法寺「車」集落周辺の谷筋は 幕末期神戸開港を支えた神戸石炭の大生産地

びっくりついでにもう一つ 新聞記事から。

長年住んできましたが、住民ほとんどが、見たことも聞いたこともない石炭産出の新聞報道にびっくり。

「神戸石炭」といい、鎖国が解かれ、日本開国で、開港された神戸港に入港する蒸気船の燃料として、この神戸石炭が港を支えたという。

この妙法寺川が流れ下る車地区やすぐ北の白川峠は植物化石が今も出る場所として、神戸ではよく知られた場所。また モータリゼーション華やかな頃「車大道」のバス停・地名がよく紹介されましたが、まさかそのすぐ横から、石炭が出ていたなんて…。

早速 地図を片手に谷筋を歩きましたが、石炭など見つけれずでした。



(この神戸石炭は石炭になりきらぬ亜炭で、品質の良い他の産地の石炭に次第に置き換えられていったようだ。)

3. この四月 TV ニュース番組の芸能番組化がさらに急速に 公正なニュース報道はどこに・・・ また おかしかった朝日新聞の紙面構成がおおきくかわってきている

◎ 安倍政権のしめつけが、もうここまで と思えるような4月からのNHKのニュース番組構成。

公正な事実を冷静正確に伝えようとするニュース姿勢が全く影を潜め、アナウサーの役割はそっちのけで、判断力を持たぬ内輪の軽薄なコメンテーターの役割に。

また、「東京がなんでも・・・。」の目線はもう限界である TVも若者だけでなく 年寄りにまでもが食傷気味。 やってる方も嫌でないのだろうか…と不思議になる。

「仲間内でなかったら よしたらへんよ」それが 今の日本の正常な感覚???? なのか

今の世を見ていると 大人から子供まで 全くまったく そんな世

かつて結われた 名前をこ変えた 「島国根性」「仲間内」の進行はすさまじい。

変革はそこにあるように思うのですが、今のところそっちへ向く兆しは全くなし。

◎ 一方 朝日新聞の新聞紙面構成がすごいこと変更されている。

「1週間 新聞入れますので、 もう一度 購読検討してください」とこの1週間 ポストに朝日新聞が入る。

紙面を開いてびっくり。 依然とお菊紙面構成が変化している。

あの広告の中に 記事を探さねばならぬ紙面や 報道が広告か意見かわからぬ記事が影を潜め、落ち着いた紙面に朝日の中央意識も変化した。 この紙面造りは 今読む地方紙の紙面に近い。

◎ 次のような話を聞いた。今の世 この話には 説得力あるなあ……と。

「票に支配された政治家に 中立や 金の節約などという方がおかしい。 本来 政治家はお金のバラマキが基本。 権力欲のない公正な政治家など 今の時代にいないだから 憲法などで政治家や権力・中央を縛らねばいけない」という

勝手な年寄りのたわごとですが、でも 今の世に ちょっとでも かかわらねば…………と。

2016.4.10. by Mutsu Nakanishi

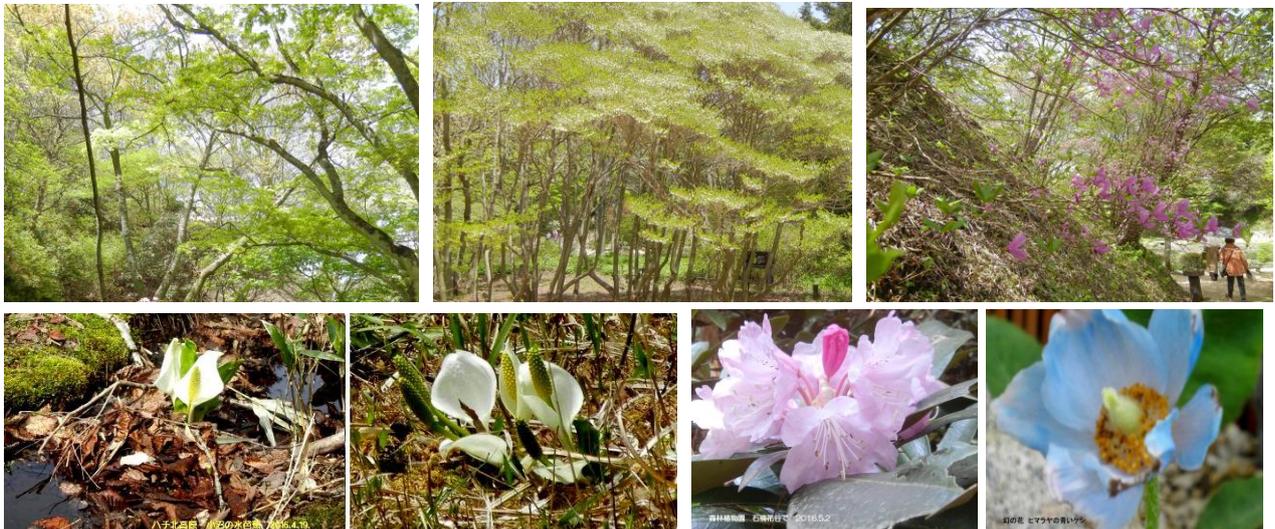
【2016年5月 From Kobe】

新緑の五月 緑は気持ちをゆったりとしてくれる
野も山も里も草木燃え 輝きの一瞬戸外へ出て 元気に

1. 緑色にはどれほど種類があるのだろうか 知らなかった緑色にびっくり
新緑・芽吹き 毎日眺める山の緑のグラデーション この「緑色」をどう呼ばいいのかわからない
2. 神戸 三宮・元町「高架下」商店街が 高架の耐震補強で存続の危機に!!
またひとつ 普段着の街 昭和の匂いがする商店街がなくなりそう なんと寂しい。



新緑の五月 野も山も里も草木燃え 移り変わる春景色 最も美しい輝きの一瞬です
野山を楽しむのもよし、スポーツや街歩きもまた楽し。 戸外へ出て 元気に



但馬氷ノ山麓では南西限の水芭蕉 六甲では新緑の森にツツジ・シャクナゲ そしてヒマラヤの青いケシも



2016.5.8. 新開地 ジャズ ストリートで

5.8. は新開地ジャズストリート 5.15. は神戸まつり 神戸の街に心地よいストリートジャズの音が響き、
多くの人が街に出て楽しむ。 こちからは久しぶりのジャズの音に気分爽快 缶ビール片手にストリートジャズのはしご。
うれしい春の行事が次々と。 真っ青な空に手を広げ 自然を胸いっぱい吸い込んで 今を元気にと。

でも 忘れてはいけない熊本の大地震。 まだ余震が続く中での生活の厳しさを察しながら 早く余震が収まり
一日も早く 生活再建への見通しが立つよう祈っています。 次々と起こる自然災害の怖さがまざまざと。

「自分の身は自分で守る」と意識を高めねばと思うのですが、自分にいったい何ができるのだろうか・・・
 アメリカ・フィリピン そして北朝鮮と 強権をもつ強いリーダー志向がますます広がりそうですが、
 自分がその輪に入れる保証もなく 今の世相を考えると 年寄りも切れ捨てられるだろうなあ。
 災害一つとっても お互いがスクラム組める社会に 平和はそんな礎。 この方向に自分はかけたいと。
 まず 健康に感謝と思いつつ、ますます厳しくなる世相の中で
 輝く自然の英気をもらいつつ がんばらねばと

2016.5.10. Mutsu Nakanishi

1. 緑色にはどれほど種類があるのだろうか 知らなかった緑色にびっくり

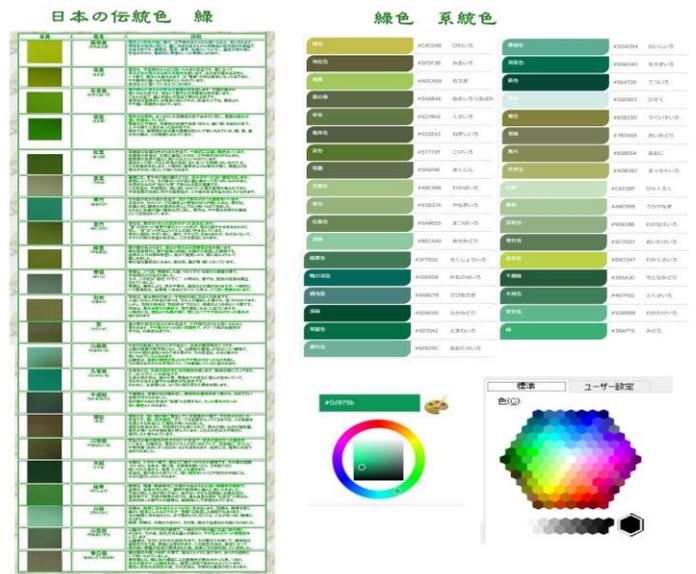
新緑・芽吹き 毎日眺める山の緑のグラデーション この「緑色」をどう呼べばいいのかわ

「芽吹き・新緑」とひとことと言ってしまおうのですが、日に日に変化してゆく4月・5月の山肌の緑の色の変化の表現。
 自分の言葉の少なさになすすべもなし。あの芽吹き山のグラデーションの色表現ができない。

開き直って「緑色にはどれほどの数の名前がついた色があるのだろうか?」とインターネット検索で調べてみました。
 なんともまあ 暇人だといわれそうですが・・・

インターネットでちょっと調べただけでも 右記の通り。
 考えてみれば PCで色を選択する場合を考えれば 色はデジタルの世界の中 絶対値のカラーコード【R値 G値 B値】で 16進数 10進数で表すことで、色を絶対値で統一的に管理されている。

W3C標準 基本16色			10進数 例: rgb(255,0,0)		
カラー名	16進数	短縮系	R値	G値	B値
black	#000000	#000	0	0	0



このカラーコードで表すそれぞれの色ではないが、日本の伝統色 現代の系統色それぞれには 古くから名前がついている。ちょっと調べた右表だけでもこれだけ多くついている。昔から すごい形で色が管理されてきたのだ。芽吹きの色合いもちゃんと名前の付いた色で表現できるのだと。

また、自分が緑色に持っているイメージとはずいぶん違色も緑色なんだとびっくり。私にはお手上げ。やっぱりせいぜい 緑 薄緑 黄緑 青緑 新緑 芽吹き そして 海の・・・程度でしか表現できず。洋名も マラカイトグリーン程度 かしららないなあ・・・と。

《調べていて 見つけた緑色の名前に 興味を持って》

◎ 青丹 あおに

添付した図表には「青丹」の名前はないのですが、『万葉集』にも「青丹よし 寧楽ならの京師みやこ……」はと詠われた奈良にかかる枕詞「青丹よしの『青丹』」は後ろに「丹」があるので、朱系統の色かと思っていましたが、間違いだった。

青丹(あおに)とは、昔、顔料や化粧料の黛に使われた青粘土のような暗く鈍い黄緑色のこと。青は緑のこと。丹は土を意味し、緑みのある土の色を指す。もともとは青土とかいて「あおに」と読んでいたと。青丹は、顔料となる岩緑青(いわろくしょう)を表わす古名であり、奈良が産地として有名だそうだ。

◎ 若草色

奈良の若草山そして私の住む住宅地も「若草」。何とはなしに山の芽吹き時の薄緑とイメージするが、正確には知らない。若草色は正確には春の野山に見られる草木の若葉の色を指すという。万葉の昔から用いられた色で、明るくて鮮やかな黄緑色の色。感覚的には萌黄と同じですが、色名の上では、萌黄よりやや濃い黄緑色とされている。当たらずとも遠からずでしたが、むつかしい。

◎ 松葉 柳葉 裏葉 青竹 老竹 よく聞く「鶯色」

うぐいすの色だとはわかっているが、はてどう作るのか？ それに 信号の色も「青」か「緑」か・・・
緑色はかつて 青色の系統だったというから、その混用なのでしょうか？

日本の歴史における緑色は、古くは「青」のカテゴリに属しているものが多く、「青白椽（あおしろつるばみ）」や、「青丹（あおこ）」「青竹色（あおたけいろ）」など色の名前にも「青」の文字が垣間見れるという。

◎ もう一つ 緑色系統に鉄色というのがある ほんとなあとびっくりして チェックしてみました。
鉄色と書いて 鉄色・くろがね と読む。黒金のことだという。

「ごく暗い青緑」。一般に、濃い緑色をさし、深緑よりも濃い。光沢が出るほど磨かれた色ではなく、「黒金くろがね」と呼ばれるような黒っぽい状態の鉄の色を表す。染色の色に用いられるが、顔料の色とする説もある。

今まで 鉄の色を緑系統などと思ったことはありませんが、日本の伝統色では 緑系統なのだといびっくりしました。

ふっと思いついて 頭に浮かんだことなども調べてみようと思い、ちょっと調べただけですが、びっくりしました。
色は奥が確かに深い。デジタル値で混合すれば ブルンションとっていましたが、びっくり。

そういえば、自動車のカラーも自分で調合はできぬ色。同じ系統でも各社それぞれ。 はげ落ちた色から車を割り出せると聞く。

まあ 私の緑のボキャブラリーの中にあるのは 若草色 鶯色 それに緑青 マラカイトグリーン程度かな。
機会があれば「青」も検索してみたい。「青」は「緑」よりもっと複雑だろう。

2. 神戸 三宮・元町「高架下」三宮商店街 & モトコーが 高架の耐震補強で存続の危機に!!
またひとつ 普段着の街 昭和の匂いがする商店街がなくなりそう なんと寂しい。



JR三宮駅から神戸駅まで約2キロ JR高架下の商店街 通称「高架下」【1】

2016年5月5日の 神戸新聞朝刊1面コラム「正平調」に 神戸三宮・元町の「高架下」立ち退きの危機に
「高架下」への強い愛着がにじみ出た下記のコラムが掲載された。

調平正

すいぶん前に、取材で同僚と2人、高架下の商店街を毎日歩いた。JR三ノ宮駅から神戸駅までざっと2キロ、狭い道でこんな話を見聞きしながら◆中古電器店で外国人がステレオを指して言う。「オト、デナイ」。店主は傍らのアンプ、スピーカーを示し「これとこれ、セット。そしたら音、ポーン」。これで十分伝わる◆途上国の衣類を売る店主は段ボールを積んで客を待つ。「外見なんて、どないでもええ。見て、触って、気に入って、こうてくれたらええねん。こんな吉、高架下やからできる」◆アメ横と高架下は戦後の残り香が鼻先をかすめる東西の横綱だ。その高架下の西半分、元町―神戸駅間が

だ。その高架下の西半分、元町―神戸駅間が存続危うしという。耐震補強で退去を求められるが、工事が終わった後どうなるのか。店主らの不安はそこにある◆昔々、「雑」は衣偏に集とも書いた。さまざまな色合いの布を集めた衣服の意味だそう。とすれば神戸は「雑の街」だ。歴史の浅い港町は、いろんな個性のこった煮で大きくなった。高架下はその神戸物語に欠かせぬ一章◆冒頭の話が続ける。開店準備の若者が壁板を外したら「第六組」の字がある。闇市の表示と教わり、彼は「古いもんやし、大事にしよう」。で、字はそのまま店に残した。歩みを語るもの、何とかして守りたいと若者に教わる。 2016.5.5



JR三宮駅から神戸駅まで約2キロ JR高架下の商店街 通称「高架下」【2】

神戸・阪神間では高齢者から若者まで知らぬものがない「高架下」。 タイガースや神戸大震災の話と同じく、

「高架下」の話になるとひとつやふたつ 誰しものが とっておきの話を持っていて、ワイワイガヤガヤ 誰もが寄ってくる。

JR三宮駅から神戸駅まで東から西へ約2キロ 天井上の高架を JR の電車が走り、狭い道の両側に種々雑多な店がひしめき合って続く 昭和の香りがする雑な街「高架下」。

三宮高架下「ピアザKobe」 & 元町高架下「モトコー」の正式名はあるのですが、「モトコー」とは言うが「ピ



神戸三宮・元町高架下商店街
三ノ宮のシャレタ店から若者の店 そしてマニアックな店へ
若者から年寄りまで 世代を超えた多くの人が行きかう街

アザKobe」では通じない。みんな「高架下」で通じるそんな街。元町商店街が神戸の表の顔に対して 裏通りの存在である。

かつての闇市から発展した安いものが何でもそろう街から、若者が種々のアイデアグッズ・衣装・ファッションの店を並べた明るい最先端の一角があり、また、年寄りが幅をきかず暗い通りに 中古・レトロ・マニアックな店を出す不思議な区画まで 高級品から中古品 バッタ商品。そして古いからうまい店も。一本の高架下通りですが、中は複雑 不思議な魅力。店主とも顔をつきあわせてあれこれ。一度行けば 次からはもう友達の間になる。

若者も年寄りもそれぞれがこの街歩きを楽しむ。地元では 気の合うもの同士 また、ひとりそっと出かける場所である。それこそ 昭和レトロ・先端の若者の街など 映画の世界かテーマパークの中に迷い込んだ感覚。休日ともなれば 若者から高齢者まで 多くの人が行きかう神戸や阪神間では誰もが知る商店街。そんな 誰にも愛された「高架下」。上を電車が走る高架の耐震補強で立ち退きを迫られている。

街がよそ向きのきれいな顔にどんどんってゆく一方。 そんな中で ふらっと普段着で行ける街である。

神戸のホッと空間が消えてゆくのがなんとも寂しい。なんか ならぬのかと。。。。。

5月8日 新開地のジャズストリートへ出かけたら、あるストリート stage で 自作の歌「モトコーを歩こう」を歌うグループに聞いている人がみんな手拍子で答えて 盛り上がっていました。

みんな 『高架下は好きなんや』『高架下』残ってほしいなあ。。。。と。

そんな思いも込めて、先日 新開地ジャズストリートで聞いた『モトコーを歩こう』のメロディーを添付

© 2016. 5. 8. 新開地ジャズ ストリート ライブで聞いた『モトコーを歩こう』

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/2016mutsu/fkobe1605motokowoaruko.mp3>

2016. 5. 8. Mutsu Nakanishi

【 From Kobe 2016年7月】

梅雨明けが待ち遠しい 7月初旬

神戸 そぼ降る雨の 街明かり Happy Rainy Days!!

6月23日 沖縄慰霊の日

「命は宝」

平和な日々の実現に

《ぶつぶつ from Kobe 》

1) 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論から見えてくるもの

NHK BS 英雄たちの選択 「衝突!その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26. より

2) 「合成の誤謬」と今の世相 インターネットで見つけた「合成の誤謬」の評論を見つけて



2016.6.1. 田圃に水が入り、一機に田園風景が初夏モードに 2016.6.1. 東播磨加東市で



刻々と色を変えてゆく庭の紫陽花 雨上がりの朝は一層鮮やかに

ゴールデンウィークが過ぎて 田圃に水が入ると 野山も里も一機に景色が初夏モードへ

ふっと気が付くと この時期 街で過ごすことが目白押し。

例年の中間の会に 「今この年やから 同窓会やろう」との誘いに
うれしくて出かけてゆく。

この梅雨は「年寄りのゴールデンウィークだ」とハッと気が付く
Happy Rainy Days !!

日頃 近くにいながら なかなか出会えぬ仲間たち また 50年ぶりの
仲間にも出会え、久しくご無沙汰している山口美弥の田中さんご
夫妻そして「ペナン島で私のかつての仕事仲間に随分世話になった」と
古い大学仲間 仲間も神戸を訪ねてくれた。

また 季節の便りを添えて【サクランボ】が届いた。



夏の朝顔ほか苗の準備を家内がせっせと進めている

孫たちも梅雨をものともせず、元気に頑張っている。「教えてくれた ジョージ カーリンの言葉 みんなにも配ったよ」とカントリーライブに誘ってくれた仲間が言う。「そや 100になったら赤ちゃんや 一度 私もみなければ」と年寄りの二人暮らし「うれしいねえ」と多くの仲間と健康に感謝としつつ、Happy Rainy Days!!
次は高校野球の予選 母校の応援に。これが始まると梅雨明けと暑い夏の到来
無理せず 元気に今を過ごしたい。

2016.6.20. 神戸にて Mutsu Nakanishi



2016.5.21. 西六甲縦走路 梅尾山から眺める明石海峡 遠望



《 いつまでも若くいるコツ 》 by ジョージ カーリン

1. 年齢、体重、身長など、どうでもいい数字は気にしないこと こんな事は医者任せましょう。そのために医療費を払っているのですから。
2. 元気な友達とだけ付き合うこと 愚痴しか言わない人といると、こちらの気持ちも暗くなります。
3. 生涯学習あるのみ コンピュータ、工芸、ガーデニング、ハム無線、なんでもよいので学ぶ姿勢を持ちましょう。脳を怠けさせない事。怠けた心には、衰えという悪が宿ります。
4. 単純な事を楽しみましょう
5. 沢山、長く、大きな声で、お腹が痛くなるくらい笑いましょう
6. 悲しみ、耐えて、そしてまた進む 涙も出るでしょう。しかし一生付き合い合ってくれるのは、自分自身です。命ある限り、自分の人生を歩みましょう。
7. 好きなものに囲まれて暮らしましょう 家族、ペット、思い出の品、音楽、植物、趣味、何でもいいですから好きなものに囲まれて暮らしましょう。家は自分の居心地の良い場所なのでから。
8. 体を大切に！ 今健康ならそれを維持し、悪いなら、改善に努めそれが無理なら、助けを求めましょう。
9. 後悔しないこと ショッピング、隣町、外国、とにかく後悔する気持ちを忘れさせてくれる場所に出かけましょう。
10. どんな時でも、大切な人に「愛している」と伝えましょう

そして忘れてはいけない事: 人生とは、自分が息を吸う数ではなく息を吐く瞬間で測定するものです。充実した毎日を生きましょう!!

でも ひとりより仲間。年々出会うのが難しくなってきましたが、仲間の笑顔はみんなの応援歌と。みんなまだまだ元気。好奇心もある 仲間が頼りですが、時には 助けてもらいながら 無理せず 前向いて
『From Kobe 梅雨明けが待ち遠しい 7月初旬 』 Happy Rainy Days!!

2016.6.20. 神戸にて Mutsu Nakanishi

《ぶつぶつ from Kobe 》

1] 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論から見えてくるもの

NHK BS 英雄たちの選択 「衝突!その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26. より

2] 「合成の誤謬」と今の世相 インターネットで見つけた「合成の誤謬」の評論を見つけて

【1】 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論から見えてくるもの

NHK BS 英雄たちの選択 「衝突!その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26. より

出演：磯田道史、赤坂憲雄、里中満智子、宮崎哲弥、鈴木拓也



坂上田村麻呂



古代の城柵「志波城」を復元した歴史公園



時は平安遷都を行った桓武天皇の時代。遷都と並ぶ国家プロジェクトが東北の蝦夷の制圧だった。大きな期待を背負い戦った坂上田村麻呂は、蝦夷のリーダー・アテルイを降伏させることに成功する。しかし田村麻呂はアテルイから助命を要請される。

朝廷の大反発が予想される中 命を救う行動にできるか、それとも 敵将処刑やむなしと突き放すのか？

国家の方針で蝦夷と衝突し、そして蝦夷の実像を知っていた田村麻呂の苦悩に迫る。

インターネット NHK オンデマンド PR コピーより

アテルイは東北では英雄であるが、他では「鬼」・「悪路王」・「逆賊のリーダー」であり、坂上田村麻呂は逆賊を制圧した英雄である。

敵のリーダーアテルイとモシの度量と人柄を評価していた田村麻呂は まだ帰順せぬ蝦夷たちへの説得工作も視野にあったと推察されるが、助命を嘆願するも、彼らの謀反を恐れる貴族たちの反対もあり、2人は処刑された。この場面で、坂上田村麻呂の選択を支持するのか、それとも反対するのか？

4人のコメンテーターがどちらの選択をするのか？ コメンテーターの意見・討論で番組が進む。

「多分 東京や都市圏で仕事をする2人は処刑を選択し、地方で仕事する2人は助命を選択するだろう」と

家内と話をしながら見ていたのですが、ドンピシャ。興味深々で4人の評価討論を見ていました。

帰属意識を捨てて、一般常識的に考えると

「平和な暮らしが続いている蝦夷の人たちにとっては、突如 仰天の未知なる新しい社会秩序への選択を迫られたわけである。怒るのもあたりまえであろう」。

でも 大和の中央集権政権側からの勝手な都合からいうと喉から手が出るほど新秩序に組み込みたい。

「小を殺して大をとる」と。

この構図は沖縄問題・東京と地方・アフガニスタン&中東紛争 そして 最近の政権の政策運営・自民党議員の言動・もっと直近では東京都知事問題等々にあまりにも極似していることに驚く。特に最近の安倍政権の「課題を2/1化して、敵か味方かを迫るかやり方」は目に余る。

「右か左」「2/1の選択」は どちらかしか解がないように誘導した幻想土俵を作り上げ、ややもすると帰属意識のぶつかり合いで、決着をつけようとする。それは必ずしも「真ならず」と思うのですが……………。

もっとおだやかな時間をかけた解決策があるはずだと……………。

いいかえれば、性急なスピードオンリーの今の価値判断がどれほど間違いだらけであったかは今の社会情勢を見れば、明らか。相手の暮らしを考えず、自分の暮らす社会の常識だけを判断根拠とするいわば 島国根性的発想になりやすい「2/1の判断」は本当に正しいのだろうか……………。 そんなことが 垣間見える番組でした。

最後に東北学を提唱推進されてきた赤坂憲雄氏は

「いずれにせよ 坂上田村麻呂・アテルイは 二人して 次の時代を切り開いた英雄に違いない。

中央政権はこれ以後 秋田城・志波城を築き、さらに北進してゆくが、武力での制圧を捨て、同化政策を採っていく。

この政策転換にも 大きな影響を与えたに違いない。現代社会も彼らに学ぶことが多い」

と結ばれた言葉が強く心に響いてくる。解はなく人それぞれ。でも 私には考えさせられた有意義な討論でした。



須磨アルプから眺める北の横尾団地から 妙法寺・鶴越方面 2016.5.21.

2016.6.1. from Kobe Mutsu Nakanishi

2. 「合成の誤謬」と今の世相 インターネットで見つけた「合成の誤謬」の評論を見つけて

「合成の誤謬」という言葉をインターネットのビジネス評論の中で見つけた。ぼんやりとは知っていましたが、評論を眺めていて、この言葉は「日本人の気質・知恵」を言い表すのに大事な言葉だと。

部分の最適化が全体最適と相容れないケースの話を指す言葉である。

例えば、映画館で火事が起きたとしよう。個人の生存を考えればできるだけ早く逃げ出すことが正しい。

最初に脱出するのと、最後に脱出するのではリスクが違う。

だから個人の最良の選択肢は「誰よりも先に逃げ出す」ことになる。

しかし、全員が同じことを考えれば、狭い出口に人が殺到し、将棋倒しになって誰一人助からないということも起きかねない。こうした場合に全体最適化をするためには退出順序を決め、全体の効率を上げて

「最後の人を最も早く脱出させる」方法を考えることが一番だ。

以前 紹介した高速道路の合流の話 また電車バスの整列乗車等々

「譲り合い」「やさしさ」などとも紹介されてきた日本人は比較的得意な分野で、日本人が長年にわたる経験から体得してきた技でもある。

この話をよくよく考えてみると 今の時代 外国人たちが表向きは「日本の美徳・おもてなし」どの言葉で評価している事柄の中に この「日本人の知恵」と呼ばれる分野の行動がたくさんあると はたと気が付く。

また、逆に グローバリゼーション・アメリカ至上主義の名のもとに「デジタル・スピード・効率」を錦の御旗のごとくはやし立て、自らの経験の中で体得してきたこの「合成の誤謬」を避ける知恵を今 日本人は去ろうとしているのではないか?。厳しい競争社会の中で生きること晒されてきた諸外国の人たちには 体得しえなかった知恵であろう。

明日は我が身 気が付いた時には すでに時は遅しである。

これらの行動は日本人の中で 表向きどう語られているのだろうか?

本音と建前。 正当な評価を与えず、「日本人の美徳」 また 正反対に「茶化した行動」としてしか 語られない向きも多いが、今の時代だからこそ この「合成の誤謬」の視点で これを避ける知恵をもう一度見直すことが本当は極めて重要。

日本人に根差したやさしさ 白黒をつけるでなし 周りを眺め、ゆっくりと流れてゆく道を探す

縄文の時代から日本人が心の奥底ですっと育ててきた気質・知恵に 諸外国の人たちがあこがれを持って見つめていることを日本人はもっと知るべきではないでしょうか・・・・・・。

2016.6.1. from kobe Mutsu Nakanishi

参 考

インターネットのビジネス評論の中に「中古車で十分」の先に起こる日本の不幸化と題して この「合成の誤謬」について「週刊モータージャーナル」に書かれた池田直渡氏の評論がある。

ぼんやりとした 知らなかった「合成の誤謬」の言葉を見直し、考えてみるきっかけになった評論。

私とは立場も意見も異なり、 結論が書かれているわけでもないが、今の時代の世相や疑問を直視し、

「合成の誤謬」の視点から日本の経済環境をやさしく書き表した評論と思え、随分参考になりましたのでご紹介。



2016年05月30日 08時00分 更新

池田直渡「週刊モータージャーナル」：

「中古車で十分」の先に起こる日本の不幸化

「新車なんて買えない。中古車で十分だ」。これが今の日本の消費者のリアルな声だ。

そこには日本経済の停滞が大いに関係するのは言うまでもない。

この連載の重要なテーマは日本の自動車産業のゆくえである。クルマが売れる、売れないの話は、日本経済がもっと強くなるためにはどうしたらいいのかという視点で書いているつもりだ。

当然それは企業だけが儲かればいいという話ではなく、国民全体が豊かで幸せになることへとつながっている。

もちろん読者の個人個人に同じ視点の持ち方を強要するつもりはないから、そこは自由に読んでいただいて構わない。

ただ新車の売れ行きの話をするると非常に多く目にするコメントがあり、ちょっと気になっているのだ。

1. 低所得時代のクルマ選び 「新車なんて買えない。中古車で十分だ」

それは、日々生きていく中で、高いリアリティを持つ言葉だと思う。正直な話、筆者も個人的に同感なのだ。中古車で十分。というより、それがベターな選択肢だと思う。何よりもない袖は振れない。選択肢がないのだから仕方がない。

会社員として生きていくとしたら、毎年のベースアップが当たり前という時代はもう失われて久しいし、むしろ会社の業績いかによっては給料が下がる心配をしなければならぬ。転職しようにも、給料が上がるのはどんどん限られた層のものになっている。今や給料が増えるどころか、何かあって会社を辞めざるを得ないとき、経験を生かした転職ができるだけでも恵まれた人だと言える。未来に対する安心材料はいっこうに増えていく気配がない。

「閉塞した状況を打破するためには起業しかない。アニマルスピリットを持ってチャンスをつかめ」という声は常にある。

日本という国の活力や競争力を考えたとき、この国には起業家がまったく足りてないというのも事実である。

だから起業して成功した人はヒーローのようにもてはやされていたりする。

しかし、実態としてその成功率がどんなものかと言えば、起業1年後の生存率が40%。5年後は15%。10年後は6%。20年後になるとわずか0.3%に過ぎないと言われている。

実はこの数字、国税庁の2005年調査だということであちこちで引用されているが、元ソースがどうやっても見つからない。筆者も散々探したが、同じように困っている人が見つかるのみだ。

しかしながら、税理士などの現場を見ている人たちの実感として概ね正しそうだという声もあるので、一応信用することになると、起業した1年後には半分は敗者になっているし、10年後の生存率は1割を割り込む。

この数字を見て起業に挑もうとするのは酔狂だ。

つまり、収入増をアテにした作戦はどうやっても立てられない。となれば、現実的な対応策は出費を減らす以外にない。

企業経営でもそれは同じだ。売り上げアップや高付加価値化は常にミズモノで、成果が出るかどうかはやってみるまで分からない。やれば必ず成果が上がるのはコストダウン、つまり出費の抑制だ。

企業も人も、お金を使わないことこそが最も確実な「負けない方法」なのである。

だから出費を抑えるという意味で「中古を買うのは正しい」のだ。

ギャンブル的要素もあるので、一概には言えないケースもあるが、それはまた別のテーマとして書くことにする。

2. キーワードは合成の誤謬

さて、節約は堅実な戦法であるとして、皆でやるとどうなるだろうか？

経済の世界には「合成の誤謬（ごうせいのごびゅう）」という言葉がある。

部分の最適化が全体最適と相容れないケースの話だ。

例えば、映画館で火事が起きたとしよう。個人の生存を考えればできるだけ早く逃げ出すことが正しい。最初に脱出すると、最後に脱出するのではリスクが違ふ。だから個人の最良の選択肢は「誰よりも先に逃げ出す」ことになる。しかし、全員が同じことを考えれば、狭い出口に人が殺到し、将棋倒しになって誰一人助からないということも起きかねない。こうした場合に全体最適化をするためには退出順序を決め、全体の効率を上げて「最後の人を最も早く脱出させる」方法を考えることだ。

日本人はこういうことが比較的得意である。

例えば、電車の乗り降りの際、降りる人を優先して左右に分かれて出口を広く開け、降りる人の退出を最速化することが、結局は乗り込む人が最も早く乗れる方法だということをほとんど誰もが知っていて、駅員が整理を行わなくても自然にフォーメーションが実行されている。世界的にも恐らくは希なことだと思う。

仮に単語としては知らなくても、日本人は合成の誤謬を実践レベルで知っているのだ。

こうした合成の誤謬の観点から冒頭に記した中古車購入の話を見たらどうなるか？

それはもう言うまでもないだろう。新車が売れなくなってメーカーの業績が下がる。業績が下がるからサプライヤーを含めた自動車産業従事者の給料が下がる。労働人口の10%を占めると言われる自動車産業従事者の所得低下は消費を押し下げてほかの産業の業績も下げることになる。

こうして国民大部分の給料が下落すれば、より中古車指向が強まっていき、そのスパイラルは再度日本を深いデフレの淵へ飲み込んでいく可能性があるのだ。個人の判断としては正しい「消費の抑制」が、合成の誤謬によってさらなる個人経済の悪化に循環的につながってしまうのである。

ここで「だから個人がお金を使わなくてはいけない。新車を買え」という結論を出すのは短絡的に過ぎる。

全員がそうすれば確実に状況は変わるが、気の早い人だけが尻張って新車を買ったとしても、多数派が追随しない限り結果は変わらない。結果として全体最適化につながらなければ、個人的判断の間違いになるだけのことだ。

3. 出口はあるのか？

こういう状況だから出口は簡単ではない。ほかの指標を見ても分かるのだ。

これだけ税収が足りないといいつつ、なぜ国の借金が増え続けていくのか納付がいかない人は多いだろう。

それはこういうことだ。

個人が消費を抑制し、企業がコストダウンをして内部留保を貯める。それは金融機関にどんどん貯め込まれる。

貯め込まれたお金には当然金利が発生するので、銀行は何か運用しないわけにはいかない。

個人も企業もお金を使う気はないので、国に使ってもらうしかない。

もし誰も使う人がいなければ預金金利を払えず銀行が潰れるのだ。

それは銀行という企業の問題ではなく金融システムの崩壊だ。

となれば国が国債を発行するしかない。そして国債を発行して財源を用意してしまった以上何かに予算を付ける。

そうやって「国民の借金」が増えていく。

生活者としての実感と正反対の話だが、今世界中で起きている現象は「金余り」だ。

だから日本は国債残高がどんどん増えていくし、余ったお金の運用先を求めているから、常に世界のどこかでバブルが発生することになる。という遠回りをして、ようやくクルマの話に戻る。

「新車が売れないと言ったって、それは中古車が使い物になる間だけでしょ？」という人もいる。それはその通り。

機械である以上寿命があるので、中古車はやがて淘汰される。その間新車が売れなければ、未来の中古車の供給は減り、中古の競争率が高くなる。新車と違って相場商品である中古車の受給が引き締まれば、中古車がどんどん値上がりすることになり、

価格差がなくなって新車の売れ行きが戻るのだ。だから一時的なものに過ぎないという見方は正しい。
しかし、企業経営というのはそういう波に弱い。「要らない」と言われて新車生産を調整してきたところで、突然新車が売れるようになっても生産量には限界がある。ましてや「要らない」と言われている間に生産設備自体を処分してしまう場合だってある。そうなればもう簡単には元に戻れない。
財の生産装置としての自動車メーカーを健全に維持していくためにはコンスタントな需要があることが理想なのだ。働いている人だって「来年給料を倍払うから今年は無給で働いてくれ」と言われたら干上がってしまう。
企業も同じだ。

4. 問題に直面するロードスター

「中古車で十分」という言葉の向こうにはこういう問題が横たわっているのだ。
マツダ・ロードスターなどはこの問題に直面していると言っても良い。
初代NA型以来、最新のND型まで、クルマとしての本質的価値は変わらない。
変わらないということは素晴らしいことだが、ユーザー側に見れば どうしても新型を新車で買わなければならない理由は乏しい。ロードスターの最大の敵は旧型ロードスターなのだ。
価格も程度も幅広く、選り取り見取りだ。しかし、あまりにも多くの人がそういう合理的な判断をすると、25年続いたロードスターの歴史が途絶えてしまう。中古のロードスターを合理的に選択しておいて、いざ「NE型は出ませんでした」となったとき、「あんな名車の生産を止めてしまうなんておかしい」と叫んでも後の祭りである。

さてこの話、処方せんは何もない。こうすればそうならないという方法があるわけではないのだ。
個人としての合理的選択を否定したら自由経済が立ちいかない。
だからただ1つ、合理的選択をするときに合成の誤謬という視点を思い出してほしい。
そういう考え方があるということを知った人が多ければ、消費の仕方が変わるかもしれない。
なぜなら電車の乗り降りだって同じだからだ。
誰か一人だけ脇に避けても、効率は改善せず、その人の乗り込む順番が遅くなるだけだったはずなのだ。
しかし、日本人は多くの人のマナー向上という方法で、全体最適を実現して見せているのである。
救いがあるとしたらそれは知恵だけなのだ。

2016.5.30. 池田直渡「週刊モータージャーナル」：「中古車で十分」の先に起こる日本の不幸化 より転記



須磨アルプから眺める北の横尾団地から 妙法寺・鷗越方面 2016.5.21.



【 From Kobe 8月 ひまわりの夏 2016 の 便り 2016.8.5 .】

2016年 ひまわりの夏到来 お変わりありませんか
暑い酷暑 熱中症にかからぬようご注意ください

「蝸牛 角ふりわけよ 須磨明石」 梅雨明けを待ちかねたように一斉にセミが鳴きだし、
久しぶりに登った山からは須磨の海が遠くまで見渡せる 気持ちも晴れ晴れですが、酷暑が定番となった暑い夏



今年も奥播磨に原チャリを走らせ、
元気なひまわりに出会ってきました。
黄色のまん丸の顔・顔・顔
一斉にこちらを向いて「よう!!」と
この姿に出会いたくて 通いだしてもう何年になるで
しょうか? 緑の山里を駆け抜ける爽快感と明るいひ
まわり 私の夏迎え
みんなにも ひまわりの元気な姿を届けたい。

「2016 ひまわりの夏

2016.8.5. from Kobe

Mutsu Nakanishi



東播磨 小野のひまわりの丘で ひまわり畑を埋め尽くす 元気な顔に出会えました 2016.7.11.



2016.7.20. 奥播磨 奥播磨佐用 林崎 & 宝蔵寺の郷で

◆ 8月 自らと向き合って 平和の危機「憲法九条を守ろう」

法政大学田中優子氏の憲法論議についての視点のご紹介

2016.8.1. From Kobe by Mutsu Nakanishi

8月1日の神戸新聞の朝刊の「月曜オピニオン 識者の視点」の欄に掲載されていた

法政大学田中優子総長の意見文「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」との記事に目が留まった。今の政治を「理想や理念の創造力よりも 政治の技術を重視し、誇り、それに頼ってことを進めているように見える」と述べられている。

いろんなことが去来する8月 仲間・家族 そして社会のこと等々。でも 毎日がなんとわなしに過ぎてゆく。そのありがたさを感じつつも、見聞する社会の激しさ・異常さ・地球環境変化の おそろしさなど先行きへの不安感は増大の一途を。そして「国際・グローバル化」の衣に包んで ひたひたと進む戦争への踏み込みが急速に進む勢い。刹那的な今の利しか追わない政治が多数派を占め、平和主義憲法の岩「憲法九条」の危機が現実のものに。

いつも 選挙のたびに 感じていましたが、今度ばかりはついに少数派 ほんとなんか… こんなに多数派の人たち婆多いのか…とそのギャップの大きさに意気消失。

最近 は 多数派ではないなあ…と感じることの多いシルバー世代 自分の身の置き所のなさに無力感ただよ。若者が老練な政治に翻弄されているように見えて仕方がないのですが、どうせ 年寄りのボヤキ 口はだすまいと。

そんな8月の初め 心と見た新聞に法政大学田中優子総長の意見文

「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」の記事が目にとまり、勇気づけられました。

(今の政治)は「理想や理念の創造力よりも政治の技術を重視し、誇り、それに頼ってことを進めているように見える」 「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」と。

神戸新聞 2016. 8. 1. 朝刊 「識者の視点」欄 法政大学総長田中優子氏の視点より

田中優子氏の視点の私の理解は次の通り。

今まさに政治・憲法論議の転換点にあるこの時にも

「今の政治家たちは創造力・知恵のなさをひた隠し 政治の職人たちの政治手法に多数の人たちがたぶらかされてしまっている」との視点と読みました。

今の政治家が一番隠したいことに、ズバーと切り込む鋭い視点である。

「平和憲法を守る」というと まるで骨董品のように、そんなことで平和が守れるか?と門切り型の攻撃が来る。

でも 日本が戦後著しい復興を遂げ、繁栄を謳歌できるまでに成長できたのも 戦争に巻き込まれなかったことによることが大きい。昨今の周辺諸国を見るだけでも 明らかですが、多数派はこれを評価しない。

またそろ「そんなことで 国を守れるか…」とほかのことでは「個人・個人という」連中が 異口同音 国を持ち出す。何か信用ならぬ裏があると感じるのは 私だけか……。

また、縄文人は厳しい生活の中で 世界に類を見ない1万年を超える永続社会を維持し続けたことが明らかになっている。ここにもまた、平和を愛する日本人の心・知恵が生きていることに世界が注目する。

「日本の縄文ぐらい 勉強すればいいのに」と思うのですが……

今は受け継ぐ政党もなくなった革新少数派。多数派の思うがままに 少数派の力がますます封じ込められている、そんな 少数派の意見の中にこそ、しっかりと時代を見つめる視点・正論がうずもれている。

今 声をあげねば……。

少数派・多数派どちらにもくみせず、冷静に今も分析するに憲法論議のスタート論・視点是非 憲法論議 平和を考える視点として 一読・一考をとご紹介。

次ページに 神戸新聞に掲載された田中優子氏の視点を転記させていただきました。

◆ 神戸新聞 2016.8.1. 朝刊記事「識者の視点」の記事 転記

法政大学総長田中優子氏の意見文 「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」

参考になればと記事を転載させていただきました。

米大統領選でのトランプ氏人
気過激派組織「イスラム国」(I
S)が絡むテロの拡散、英国の欧
州連合(EU)離脱方針など、世
界は共存から対立へ大きく動いて
いる。その中で日本では先の参院
選の結果、自民、公明の与党に
一部野党を加えた「改憲勢力」が
非改選を合わせて全議席の三分
二を超えた。

憲法96条は改正について「各議
院の総議員の三分の二以上の賛成
で、国会が、これを発議し、国民
に提案してその承認を経なければ
ならず、国民投票で「過半数の
賛成を必要とする」と定める。改
憲の意志と草案を明確に持つ自民
党が、他党との調整は残るものの、
その発議権を手にしたというのが
今回の参院選の意味である。自民
党がこの好機を逃すはずがない。
国会発議と国民投票はおこなわれ
るだろう。

政治の職人

EU離脱を決めた英国の国民投
票を思い出す。離脱が国民経済に
どんな結果をもたらす、何が起

識者の視点

るのか、よみ分らないまま、あ
るいは間違った情報(おまじ)に
て投票し、「後悔」した人々が少
なくなつたという。改憲勢力
に投票した日本の方々は、然
自民党の改憲案を読んでいただろ
う。だが一方で、無作為に聞いた
人々の半分以上が「三分の二」と
いうキーワードを知らなかったと
の報道もあった。背筋が寒くなる
話。

自民党の改憲案では、天皇を
象徴から元首に変え、国防軍を創
設し、家族を尊厳とする国づくり
を打ち出している。公明党は、改
憲ではないかのように「加憲と
いう表現を使うが、自民党草案も
9条の部分は「条」項「国防軍」、
9条3項「領土等の保全」などの
「加筆」が大半である。公明党の
「加憲」はこう導くのか。

法政大総長

田中優子氏

改憲論議 事実知る努力を

国民投票に備える



たなか・ゆうこ 1952年横浜市
生まれ。法政大大学院修了。2014
年4月から現職。専攻は近世文学、
アジア比較文化。著書に「自由とい
う広場」「江戸百夢」など。05年紫綬
褒章。

改憲と経済が別々の争点である
かのように受け取る人もいる。両
者を無関係に見せかけているの
は、政治手法だ。どうやら今の自
民党には政治の「職人」がいる。
理想や理念の創造力よりも政治の

技術を重視し、誇り、それに頼
てことを進めているように見え
る。
むしろ、アベノミシスの経済効
果を期待して投票した方々は、そ
の経済成長路線が、改憲草案の国
家像を前提にしたものであること
なく、とくにどこに存在するのであ
ろう。

連携の象徴

共存から対立へ、世界が動く背
景には権力構図の変化がある。米
国は世界の方角を決める力を失
つつある。実際、イラク戦争以降
問題を広げるばかりで制御できて
いない。そこで、だいた前から米
国は「連携強化」という名の「困
い込み」を強めている気がする。
その象徴が沖縄だ。日米両政府
の沖縄への執着は、そこに暮らす
人々の協力を得られるのか、とい
う大きな問題を含めて、基地とし
ての適否を現実的に検討するだけ
の冷静さを欠いている。そしてそ
の背後には多くの日本人の無関心
があり、世界の米軍基地の現状や
周辺の暮らしに対する多くの米国
人の無関心がある。

連携強化の象徴が沖縄だとすれ
ば、その要は改憲にある。「日本
独自の憲法に」と言う政治家がい
るが、本気だろうか。日本にし
かない、新しい世界の方角を示す
憲法とは、今の憲法のことである。
自民党が目指している憲法とは、
米国の求める連携強化の中で生

れた、君主と軍隊を持つ「普通」
の憲法である。
政治家だけが国や社会をつくる
わけではない。いま必要なのは
政治家や官僚に丸投げ、おまかせ
にしない姿勢である。外国人の差
別や排斥、好戦的な首相が今後も
強まっていくようなら、それは政
治の技術に私たちが乗せられてい
るからだ。政治の現場では、国内
の格差問題を他国に責任転嫁し、
国民の排外感情をあおるといふこ
とが平然とおこなわれる。意図的
に戦争準備に入ること、大企業
による「戦争経済」を活性化しよ
うとする。
スペインに「反りわざ戦略」と
いう運動があった。移民の
せいで医療費がぐらんでい
なく、多様な問題の責任を移民に
転嫁しようとする言説を集めて、
一々で検証し、事実を国民に知ら
せる。いま私たちに必要なのは
こうした姿勢ではないか。事実を
知る努力を続け、事実を周知する
ことにより、事実無根のうわさ
と責任転嫁を排除する。そして、
国民投票に備えるのである。

月曜日(2016.8.1)

【From Kobe 9月 初秋の便り 青空を吹きわたる爽やかな風に気分も新た .】

◆ From Kobe 地球の気象異変をわが身のものとして 考えよう!!

2016.9.5 by Mutsu Nakanishi



西神戸の田園地帯も黄金色に色好きはじめ、果樹園では秋の収穫が始まりました 北神戸 淡河の里で



西神戸の初秋の味覚 イチジク・葡萄・梨 朝採りの出荷がたけなわ 西神戸性海寺で

さすがの酷暑も朝晩はめっきり涼しくなってきました。

真っ青に澄み渡る大空を わやかな秋の風が吹き渡り、蝶やアキアカネが山を渡ってゆく
里の田園は黄金色に色づき、傾斜地の果樹園には ブドウ・イチジク・なしなどの果実がいっぱい
また、新学期が始まった街の通りを 子供たちがかけてゆく

夏の喧騒から ゆったりとした秋の訪れに「気分も新た」新しい風にもふれたいなっあと

◆ 地球の気象異変をわが身のものとして 考えよう!!

2016.9.5. by Mutsu Nakanishi

オリンピックに沸いた8月でしたが、やっと終わって静かになったというのが本音。

終わってみれば、芸能化した有名スポーツ選手の顔しか浮かばない。

高い放送権料を払っての「金や銀や銅やと」そればっかしのオリンピック放送はやめてもらいたいが、次の東京はもっとエスカレートするのだろう。この現状路線のパターンは 東京への一極集中をさらに進め、次世代を担う日本先進化の取組をさらに遅らすことになるだろう。

「今のままのオリンピックは もう役割を終えた」と感じるのは 私だけだろうか・・・

政治も経済も 早く東京一極集中から脱して先進方向に舵を切ってほしいもの。

今月はぶつぶつというまいとと思っていましたが、8月の報道「オリンピックそして東京都知事選・参議院選挙」などを聞くとやっぱり気になる。

おりしも8月 日本各地では地球温暖化による台風・ゲリラ豪雨に雷など経験したことのない気象異変の猛威災害に日本各地が襲われ、平穏な日常が一瞬にして危機へと変わった。

流される映像と各地で日々頻発される集中豪雨の警報にその猛威のすごさは 他人ごとではない。

都市洪水のすごさ 雷の猛威は年ごとにエスカレート。

今までの防災設備と意識では守れない限界に近づいている。

今もてはやされ始めている「物のインターネット (Internet of Things : IoT)」などは 雷や都市洪水の前にはひとたまりもない。

落雷による都市圏交通網の混乱と同じことが、都市社会全般にさらに拡大してゆく。

「地球規模の巨大災害が ますます拡大してゆく時代に入った」と専門家は指摘する。

経験したことのない環境変化が進む中で、「ストップ ザ 温暖化」はもう無理。でも軽減・防備への対策行動は今 スタートしないとますます厳しくなる。

「限られた資源をどこに投入すべきか」は政治・国の大きな方向性「理念と資質」にかかわっている。

今 世界も大きく舵を切り始めたこの問題に「無作為な言葉の連呼」だけでは何も変わらないのである。

原因はもう後戻りできない毎年の海水温の上昇。

スピードを加速しつつ、今世紀末には気温が4℃も上昇するといひ、専門家たちはもう現実として、もとに戻すことはできぬという。

100mm/hr を越える局地的集中豪雨 猛烈な突風 そして すさまじい落雷などが引き起こすすさまじい脅威が 日本のおいたるところで その激しさを増しつつ、突然に何度も人それぞれに襲いかかる。

差し迫った危機がもう始まっている。そして 今ひとり一人の生き方に直接かかわっている。

オリンピックに名を借りた東京投資など 目先と仲間内ばかりに うつつを抜かす場合ではないのである。

年寄りといえども 厳しい時代がすでに始まっていることを認識して 前向いて生き抜かねばと。

次世代を担う若者たちにも時代に迎合することなく 未来をみつめ 自分の立ち位置をしっかりと。

この脅威の中で すでに被災された皆様に一日も早く救援の手が差し伸べられ、

立ち直られますよう。また、新しい方向転換が一日も早く始まるよう声をあげねば・・・と。

おぼろげですが、何か不安をいだきつつ、もやもやしていた中身を知って

頭をガツンと打たれた思いでいます。

今 世界で起こっていることに自ら向き合おう。

先月 掲載した平和憲法擁護の立場から、「自らと向き合って 事実を知る努力を」と説く 法政大学田中優子総長の意見とも その根のところで 相通すると思える。

何もできなかった今年の8月でしたが、夜静かに ネットサーフィンしながら 考えさせられてしまいました。

2016.9月 暮らしに思いをはせて by Mutsu Nakanishi

◆ 再集録 「自らと向き合って 事実を知る努力を」

法政大学田中優子総長の意見 「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」より

**「理想や理念の創造力よりも 政治の技術を重視し、誇り、
それに頼ってことを進めているように見える 」**

神戸新聞 2016.8.1. 朝刊「識者の視点」 法政大学総長田中優子氏の意見文より

2016. 8月掲載分の再録 「自らと向き合って 事実を知る努力を」

8月 自らと向き合って 平和の危機「憲法九条を守ろう」より

法政大学田中優子氏の憲法論議についての視点のご紹介

2016.8.1. From Kobe by Mutsu Nakanishi

8月1日の神戸新聞の朝刊の「月曜オピニオン 識者の視点」の欄に掲載されていた

法政大学田中優子総長の意見文 「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」との記事に目が留まった。今の政治を「理想や理念の創造力よりも 政治の技術を重視し、誇り、それに頼ってことを進めているように見える」と述べられている。

いろいろなことが去来する8月 仲間・家族 そして社会のこと等々。でも 毎日がなんとわなしに過ぎてゆく。そのありがたさを感じつつも、見聞する社会の激しさ・異常さ・地球環境変化の おそろしさなど先行きへの不安感は増大の一途を。そして「国際・グローバル化」の衣に包んで ひたひたと進む戦争への踏み込みが急速に進む勢い。刹那的な今の利しか追わない政治が多数派を占め、平和主義憲法の砦「憲法九条」の危機が現実のものに。

いつも 選挙のたびに 感じていましたが、 今度ばかりはついに少数派 ほんとなんか… こんなに多数派の人たち婆多いのか…とそのギャップの大きさに意気消失。

最近では 多数派ではないなあ…と感じることの多いシルバー世代 自分の身の置き所のなさに無力感ただよ。若者が老練な政治に翻弄されているように見えて仕方がないのですが、 どうせ 年寄りのボヤキ 口はだすまいと。

そんな8月の初め 心と見た新聞に法政大学田中優子総長の意見文

「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」の記事が目にとまり、勇気づけられました。

(今の政治)は「理想や理念の創造力よりも政治の技術を重視し、誇り、それに頼ってことを進めているように見える」と
「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」と。

神戸新聞 2016. 8. 1. 朝刊 「識者の視点」欄 法政大学総長田中優子氏の視点より

田中優子氏の視点の私の理解は次の通り。

今まさに政治・憲法論議の転換点にあるこの時にも

「今の政治家たちは創造力・知恵のなさをひた隠し 政治の職人たちの政治手法に多数の人たちがたぶらかされてしまっている」との視点と読みました。今の政治家が一番隠したいことに、ズバーと切り込む鋭い視点である。

「平和憲法を守る」というと まるで骨董品のように、そんなことで平和が守れるか?と門切り型の攻撃が来る。

でも 日本が戦後著しい復興を遂げ、繁栄を謳歌できるまでに成長できたのも 戦争に巻き込まれなかったことによることが大きい。昨今の周辺諸国を見るだけでも 明らかですが、多数派はこれを評価しない。

またそろ「そんなことで 国を守れるか…」とほかのことでは「個人・個人という」連中が 異口同音 国を持ち出す。何か信用ならぬ裏があると感じるのは 私だけか……………。

また、縄文人は厳しい生活の中で 世界に類を見ない1万年を超える永続社会を維持し続けたことが明らかになっている。ここにもまた、平和を愛する日本人の心・知恵が生きていることに世界が注目する。

「日本の縄文ぐらい 勉強すればいいのに」と思うのですが…

今は受け継ぐ政党もなくなった革新少数派。多数派の思うがままに 少数派の力がますます封じ込められている。そんな 少数派の意見の中にこそ、しっかりとした時代を見つめる視点・正論がうずもれている。

今 声をあげねば……………。

少数派・多数派どちらにもくみせず、冷静に今も分析するに憲法論議のスタート論・視点

是非 憲法論議 平和を考える視点として 一読・一考をとご紹介。

次ページに 神戸新聞に掲載された田中優子氏の視点を転記させていただきました。

法政大学総長田中優子氏の意見文 「国民投票に備える 改憲論議 事実知る努力を」
参考になればと記事を転載させていただきました。

米大統領選でのトランプ氏人
気過激派組織「イスラム国」(I
S)が絡むテロの拡散、英国の欧
州連合(EU)離脱方針など、世
界は共存から対立へ大きく動いて
いる。その中で日本では先の参院
選の結果、自、公明の与党に
一部野党を加えた「改憲勢力」が
非改選を合わせて全議席の三分
二を超えた。

憲法96条は改正について「各議
院の総議員の三分の二以上の賛成
で、国会が、これを発議し、国民
に提案してその承認を経なければ
ならず、国民投票で「過半数の
賛成を必要とする」と定める。改
憲の意志と草案を明確に持つ自
民党が他党との調整は残るものの、
その発議権を手にしたというのが
今回の参院選の意味である。自
民党がこの好機を逃すはずがない。
国会発議と国民投票はおこなわれ
るだろう。

政治の職人

EU離脱を決めた英国の国民投
票を思い出す。離脱が国民経済に
どんな結果をもたらす、何が起

識者の視点

るのか、よみ分らないまま、あ
るいは間違った情報に頼るのみ
に投票し、「後悔」した人が少
ななかつたという。改憲勢力
に投票した日本人は依然、自
民党の改憲案を読んでいただろ
う。だが一方で、無作為に聞いた
人々の半分以上が「三分の二」と
いうキーワードを知らなかつた
の報道もあった。背筋が寒くなる
話。

自民党の改憲草案では、天皇を
象徴から元首に変え、国防軍を創
設し、家族を基礎とする国づくり
を打ち出している。公明党は、改
憲ではないかのように「加憲」と
いう表現を使うが、自民党草案も
9条の部分は9条3項「国防軍」、
9条3項「領土等の保全」などの
「加筆」が大半である。公明党の
「加憲」はこう導くのか。

法政大総長

田中優子氏

改憲論議 事実知る努力を



たなか・ゆうこ 1952年横浜市
生まれ。法政大大学院修了。2014
年4月から現職。専攻は近世文学、
アジア比較文化。著書に「自由とい
う広場」「江戸百夢」など。05年紫綬
褒章。

国民投票に備える

改憲と経済が別々の争点である
かのように受け取る人もいる。両
者を無関係に見せかけているの
は、政治手法だ。どちらか今の自
民党には政治の「職人」がいる。
理想や理念の創造力よりも政治の

技術を重視し、誇り、それに頼
てことを進めているように見え
る。
むしろ、アベノミラスの経済効
果を期待して投票した方々は、そ
の経済成長路線が、改憲草案の国
家像を前提にしたものであること
なく、とくに「存心」なのであ
う。

月曜日(2016)

連携の象徴

共存から対立へ、世界が動く背
景には権力構図の変化がある。米
国は世界の方角を決める力を失
つつある。実際、イラク戦争以降
問題をひけるばかりで制御でき
ない。そこで、だいぶ前から米
国は「連携強化」という名の「囲
い込み」を強めている気がする。
その象徴が沖縄だ。日米両政府
の沖縄への執着は、そこに暮らす
人々の協力を得られるのか、とい
う大きな問題を含めて、基地とし
ての適否を現実的に検討するだけ
の冷静さを欠いている。そしてそ
の背後には多くの日本人の無関心
があり、世界の米軍基地の現状や
周辺の暮らしに対する多くの米国
人の無関心がある。

連携強化の象徴が沖縄だとすれ
ば、その要は改憲にある。「日本
独自の憲法」と言う政治家がい
るが、本気だろうか。日本にし
かない、新しい世界の方角を示す
憲法とは今の憲法のことである。
自民党が目指している憲法とは、
米国の求める連携強化の中で生ま
れた、君主と軍隊を持つ「普通」
の憲法である。

政治家だけが国や社会をつくる
わけではない。いま必要なのは
政治家や官僚に丸投げ、おまかせ
にしない姿勢である。外国人の差
別や排斥、好戦的な世相が今後も
強まっていくなら、それは政
治の技術に私たちが乗せられて
いるからだ。政治の現場では、国内
の格差問題を他国に責任転嫁し、
国民の排外感情をおおるといっ
とが平然とおこなわれる。意図的
に戦争準備に入ることで、大企業
による「戦争経済」を活性化しよ
うとする。
スペインに「反りわざ戦略」と
いう運動があるそうだ。「移民の
せいで医療費がぐらんでいる」
など、多様な問題の責任を移民に
転嫁しようとする言説を集め、デ
ータで検証し、事実を国民に知ら
せる。いま私たちに必要なのは
こうした姿勢ではないか。事実を
知る努力を続け、事実を周知する
ことにより、事実無根のうわさ
と責任転嫁を排除する。そして、
国民投票に備えるのである。

【From Kobe 10月 秋便り .】.

みのりの田を飾る彼岸花

身も心も弾む里の秋 秋到来に期待を膨らませています



10月 街の木々も色づき始め、市場には秋の味覚が勢ぞろい

刈り入れの始まった田の畦には彼岸花 里の秋 いよいよ 秋本番

西神戸・播磨の郷では 実りの田の畔を彼岸花が飾り、郷の入口には祭りの飾りつけ

そして 実りの田の収穫も始まり、元気にこの秋を楽しみたいと 毎秋のスケジュールが頭を巡る

秋の風物詩を訪ねて 戸外に出て遊ぶのも 共に酒を酌み交わすもよし 夜長静かに家で過ごすのも

また、運動会で孫たちの成長を眺めるのもうれしい。10月の便りをお届けします。

一日中 スカッとほれた秋晴れの天気がまちどおしい毎日 いかがでしょうか

どこにいても すぐ答えてくれるWi-Fiスマホに毒されている精なのか 老化なのか 頭が回らなくなっているなあと感じることが多く、文章がなかなか書けず、悪戦苦闘。また おなじこといってるなあ……と。

もう 今月はやめました。 スッキリした話題もよう見つけませんでしたので、今月は 里の秋の写真のみに。

「いろんなこと思い浮かべて あれやこれややるより、どっしり集中するのが、ボケ防止に一番 精神統一して 瞑想にふけるべし」と聞きました。 そんな境地になれるか……と。

でも それなら 山登るのも パソコンに打ち込むのも みなおなじではないか……と。

「そんなこと言ってるから ボケてくるんや」と笑われました。

先日 この一年 病気と闘っている仲間が、今日は散歩に出かけてきたと我が家を訪ねてくれました。

嬉しかった。 仲間の元気が一番。 また 一緒に いろんな事やりたいなあ……と。

なにはともあれ、好奇心を失わず 元気で 前むいてと……。

深刻な異常気象が引き起こす巨大災害 専門家はさらに地球規模でエスカレート もとに戻ることはないというもうこちらにも抜かりなきよう

仲間・家族がいる。 お互いの笑顔が 元気の源 引き続き よろしく願います。

2016.10.5 From Kobe by Mutsu Nakanishi

【1】酒蔵の旗が畦に立つ 東播磨の山田錦の郷を飾る彼岸花



酒米の郷 播州加東市木梨 幻の酒米「愛山」栽培地で
2016.9.24

酒蔵の旗が畦に立つ 東播磨 山田錦の郷 毎年の秋景色 今年は彼岸花が畦を飾って一層華やかに
昨年知った幻の酒米「愛山」 その栽培地 加東町にも行ってきました。



「山田錦」の栽培地で

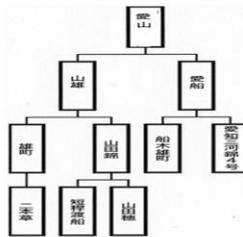
「愛山」の栽培地で

兵庫県産の「山田錦」と「愛山」。どちらも酒米（酒造り専用のお米）の最高峰であると同時に、栽培が非常に難しい品種でもある

昨年この加東市木梨の「愛山」栽培地に行って、「愛山」の歴史を知り、「山田錦」とともに「愛山」も兵庫県が誇る酒米と知りました。

◆【Iron Road】Country Walk
東播磨の田園に初秋を訪ねる 2015.9.11.
酒米「山田錦」の里 加東・三木吉川 & 多可
<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/walk12/1510kakogawa00.htm>

今年も 秋の訪れとともに すぐ頭に浮かんで、酒米「愛山」の栽培地 加東市旧社町木梨を訪れました。
昨年はあまり印象のなかったヒガンバナが畦を美しく飾って、畦ではためく酒蔵の旗とともに 播州秋の風物詩 酒米の郷の美しい秋景色。



西神戸 白川の郷で こんなきれいな彼岸花の秋風景が撮れました



【2】西神戸 実りの秋の郷景色



2016.9.24. 東播磨 加東町で



西神戸 伊川谷で 2016.9.23.



2016.9.23. 西神戸 布施畑の郷で



2016.9.23. 西神戸 白川の郷で

【3】秋の雲がある景色

今秋はよく空をみあげました



小野アルプスの北山郷 来住野・さすみのでは、そばの花が満開 2016.9.23.



2016.9.24. 小野市鴨池



2016.9.25. 京都 永観堂で



2016.9.24. 加古川市上荘町で



身も心も弾む里の秋 秋到来に期待を膨らませています

2016.10.5. From Kobe by Mutsu Nakanishi

【From Kobe 11月 秋桜の便り】.2016.11.5.

11月 秋桜便り 道端のコスモスに ふっと顔を寄せる by Mutsu Nakanishi

● 神戸港で一般公開 母船「横須賀」と深海調査船「しんかい6500」



天候もやっと落ち着き、街路の樹々も色づきはじめました

見上げる青空に 気持ちも晴れやか 飛び出して Good Luck!!

道端のコスモスに ふっと顔を寄せる

街にはジャズが流れ、数々のイベントに ぶらぶらの街歩きが楽しい

酒蔵・利き酒のイベントも 何とはなしに人恋しい秋です

力の衰えを感じながらも、空元気半分 好奇心はまだある。

ぶつぶつは言うまいと奮い立たせています。

なんやかや 勝手ごちゃまぜの神戸からの2016秋桜便り

爽やかな秋のコスモスの姿 お届け。毎度同じ秋風景ですが、あたらしい発見も……

毎度気持ちをすっきりさせてくれる志方の郷の秋桜の秋景色 今年もどっぴりと。

また、 昨今 日本の造船業の衰退が著しく、神戸での大型船建造も撤退のうわさ。

そんな中で、20年前 先端技術の粋を集めて、深海資源の探査の目的で建造された「しんかい6500」が神戸の港に入港し、公開された。

深海資源探査・海洋調査の分野の先頭に立って活躍中と聞く。

公開されたしんかい6500の見学会に参加できましたので、その様子をご紹介します。



東播磨の田園 里の秋 2016.10.15.
 2016 秋桜 東播磨 志方の郷のコスモス畑
 今年も加古川中流西岸の志方を訪ねました



有人潜水調査船「しんかい6500」 & 無人探査機「うらしま」
 支援母船「よこすか」に搭載されて 神戸に入港
 10月8日 神戸港 中突堤で一般公開されました 2016.10.8.



10月8日 神戸港中突堤で 有人潜水調査船「しんかい6500」 & 無人探査機「うらしま」と
 その支援母船「よこすか」が一般公開された。 神戸港開港 150 年に合わせて 神戸で開催された国内唯一
 の海洋関連の国際コンベンション「テクノオーシャン2016」が6~8日、開かれ、その関連イベントと
 しての神戸一般公開である。

「現在も活躍中のしんかい6500の生の姿を見るまたとないチャンス。 また「しんかい12000」について
 も知りたいし、母船と調査船の関係も……。 こんな機会は またとない」。興味津々で「しんかい6500」
 & 「うらしま」そして その支援母船「よこすか」の見学会に行ってきました。

「しんかい6500」が建造が進められた約20年前。直接携わったわけではありませんが、鉄鋼会社で厚鋼板
 材料とその溶接の仕事をしていた私には 思い出深い「しんかい6500」である。

6500mの深海に潜り、強烈な水圧に耐えうる真球殻構造を持つ船の建造が不可欠で、鋼に替わる強くて軽く
 しかも、真球殻構造の加工がしやすい厚板材料の開発とこれを歪が少なく組立溶接できる品質の良い接合技術
 が不可欠でした。

選択された6AL-4V-Tiの均質なチタン合金厚板の実用化製造技術とこのTi合金厚板を歪ませることなくつなぐ
 溶接技術として選択された電子ビーム溶接技術の完成。この技術が時代を先取りする先端技術として、当時材料技
 術の関係者の中では大きな話題であり、かつビジネスでもあり、何度か造船所を訪れたことがありました。

この20年の数々の成果・新発見を得て、海洋・海底資源探査とその開発競争が激化する一方、激変活発化する地
 球地殻変動や気象変動に対する海洋・海底変化の重要性が認識されるに至り、今 海洋・深海底探査の重要性が日
 増しに高まりつつある。しんかい6500などの深海探査の成果や後継調査船「しんかい12000」の話もを耳に
 することも多くなりました。

今回の一般公開で戴いた資料を今後の深海探査を理解してゆくベース資料として収録しましたので ご参考まで。

神戸市中央区の中突を調べられる有人調査艇では、世界最高水準 船「しんかい6500」の水深6500mで、など、神戸で建造された海底のプレートや資源 た特殊船や探査機がー

調査船に歓声 家族連れら列

■「しんかい」など公開

神戸市中央区の中突を調べられる有人調査艇では、世界最高水準 船「しんかい6500」の水深6500mで、など、神戸で建造された海底のプレートや資源 た特殊船や探査機がー

般公開された。神戸に里帰りの船を一目見ようと、家族連れや船舶愛好家らが行列をつくった。

ほかに公開されたのは無人の深海探査機「うらしま」と、両艇の運搬や整備を担う支援母船「よこすか」。

いずれも、三菱重工神戸造船所や川崎重工神戸工場で造られた。

「よこすか」の格納庫に「しんかい」「うらしま」を収容し、同時に公開するのは初めて。見学者は「しんかい」に搭載された海底の岩石を採取するアームや、深海の様子を目視できるのぞき窓などに見入っていた。

同区の会社員門脇正一さん(53)は「神戸で造られた船が世界の海で活躍するのは誇りを感じる」と目を輝かせていた。

(田中宏樹)

NEXTに動画

2016.10.8. 神戸新聞夕刊より



10月8日見学会は9時スタートでしたが、長蛇の列 約2時間弱かかって「よこすか」船内に有人潜水調査船「しんかい6500」、深海巡航探査機「うらしま」、支援母船「よこすか」。

3隻はいずれも神戸市で建造された最先端の技術を持った調査船舶。

「しんかい6500」「うらしま」は三菱重工神戸造船所、「よこすか」は川崎重工神戸工場で建造。

◎ 1989年完成の「しんかい6500」は1989年完成で全長9.7メートル、重さ26.7トン 専用に開発された2台の油漬均圧型リチウムイオン電池によって電力を賄い、通常潜航時間8時間(6500mの潜航にはそれぞれ2.5時間かかるので 実際の調査は約3時間)

地震を引き起こすプレートや海底資源・生物を調査し、有人で潜れる深さは世界最高水準。今年4月には小笠原諸島・南鳥島沖の深海底でレアメタル(希少金属)が含まれる球状の岩石「マンガンジュール」が密集しているのを発見した。

◎ 2000年完成の「うらしま」は全長10メートル、重さ約7トン。電池で航行。コンピューター制御で巡航しながら海底の地形データなどを集め、連続航走距離と観測した深さで世界記録を更新した。

◎ 一方、海上での両艇の整備などを担うのが支援母船「よこすか」 全長約105メートル、4439トン。しんかいやうらしまを搭載できる格納庫があり、2隻の活動をバックアップする。

1990年、しんかい6500の支援母船として建造された。

実は数多く写真を撮ったのですが、そのSDファイルを紛失もしくは消去して それらを整理できず、見学会の様子を示す神戸新聞Nextの写真をインターネットから取込ませていただきました。

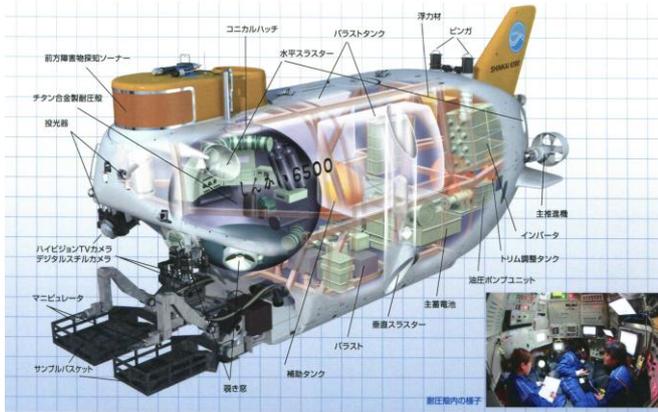


10月8日朝 ちょっと出遅れたかなあ…と思いつつ、「しんかい6500」を搭載した母船「よこすか」が停泊している神戸港の中突堤に到着したのが9時30分前。岸壁の中ほどに「よこすか」の後部が見え、船体後甲板に備え付けられた門型の起重機の奥に柿色の無人潜水探査船「うらしま」と白い有人潜水調査船「しんかい6500」の姿が見え、見学に行く人たちの長い行列ができていました。約1時間半ほど待って「よこすか」の船主側のブリッジを登ることができました。私の少し前で見学者1000人目の記念品をもらった人そして並び始めた時よりも長い行列ができていたので、この日の見学者は3000人をこえているのかも……。

深海潜水調査船「しんかい6500」そして日本を取り巻く海洋・深海の探査への関心の高さがよくわかる。上甲板の最上部の操舵室から船内に入り、研究者の部屋や会議室・食堂などを見学しながら「しんかい6500」・「うらしま」の格納庫がある船尾側の後甲板へ。多くの見学者でいっぱいであるが、よく管理された見学会スムーズに後甲板へ。「よこすか」の船内の要所要所には若い乗組員やJAMSTECの研究者が立っていて、きびきびと順路応対してくれるのが、清々しい。

しんかい6500が格納展示されている後甲板はさすがに満員でごった返しているが、すぐ目の前に「しんかい6500」がある船首部正面に立つ。船主の両側から1つつつ、突き出た2つのマニピレータのアーム。その向こう船体から弧状に張り出した丸い覗き窓のついた耐圧殻(人が入る調査室)がみえる。しかも厚いチタン合金を加工して作られた真球の耐圧殻がむき出しのままである。その脇には「しんかい6500」の紹介パネルが置かれ、また深海熱水鉱床から採取されたのサンプルが並べられている。私の一番見たかったところである。





◎ 20年を経ても 海水にさらされながら 無塗装で まったく傷もさびなど付着物もなく、無垢のままの姿に驚く。鋼では全く及ばぬ海水に強いチタン合金のすごさである。

また、船体は薄い化粧鋼板パネルがはりつけられていて、その側面部のパネルが一部外されていて中の機械装置がのぞけるように展示されている。外された外板の中に見える装置もチタン合金製なのでしょう。まったく無垢のまま。 海水に何度もつかりながら、20年を経ても、錆一つなく、びっくりしました。ふと 船体の外板が外せるのか……????。

考えてみれば「しんかい6500」は潜水船。船体外板の中にも海水が入らないと潜水ができず、深海の水圧にも持たないと気が付いて、にやりと……。

かつて 鋼板とともに開発対象として扱ったことがある6Al-4V-Ti合金厚板 やっぱり すごい。

◎ この「しんかい6500」の人が入る耐圧殻は直径2mの真球。ここにパイロットを含め、3人がはいるという。中に入れないのでよくわからぬが、調査・通信・運航装置のモニターも全部この中と想像すると本当に狭そう。高圧下の深海では僅かなゆがみも許されず、この球の真球度は1.004、外径は僅か±2mm以下の製作精度で製造され、覗き窓が3か所ついているとのことでした。

◎ 「しんかい6500」をただ単に海に入れても絶対に沈まず、浮く構造だという。

深海の高圧環境に耐える強度と浮力を持ったこの浮力材が、潜水船の隙間という隙間にぎっしり組み込まれ、浮くように造られた潜水船に「おもり（バラスト）」を積むことで潜航すると聞きました。

◎ 超深海の資源探査に挑む

「海洋研究開発機構は2023年ごろの運用開始を目指して、世界最深の1万2000メートルまで潜航できる次世代の有人潜水船「しんかい12000」の開発構想がすでに本格的に動き出している」と「しんかい6500」のそばにいた若い研究者が教えてくれた。

「研究生生活を続ける間に「しんかい12000」が完成したら、一番にパイロットになって「12000」を操縦して、深海に行きたい」と 眼をキラキラ輝かせて、話してくれました。

最近 なかなか出会えなかったこんな若い研究者に こつちの気持ちもうれしくなる。

是非 次の時代を切り開いてほしいと。

是非 見学したかった「しんかい6500」の姿。そして 次の時代を担うはつらつとした若者たちの群像にも出会え、気持ちも爽快。 かつて仕事をしていた時代を思い浮かべながら、晴れ晴れと港を離れました。

2016.10.8 午後 Mutsu Nakanishi

この「しんかい6500」の見学記を バシバシ撮ったデジカメ写真と一緒に記そうとしたのですが、紛失したのか 消してしまったのか どうしてもSDメモリーが見つからず。

インターネットから 神戸新聞Next が伝える一般公開の動画から、写真を一部収録させてもらって掲載しました。SDが出てきたら、また きっちり写真を差し替えながら、追加記載させていただきます。

なお 写真採取は下記から採取させていただきました。。

■ 2016/10/8 11:48 神戸新聞NEXT 山はスイング 海には探査船里帰り 神戸の3連休

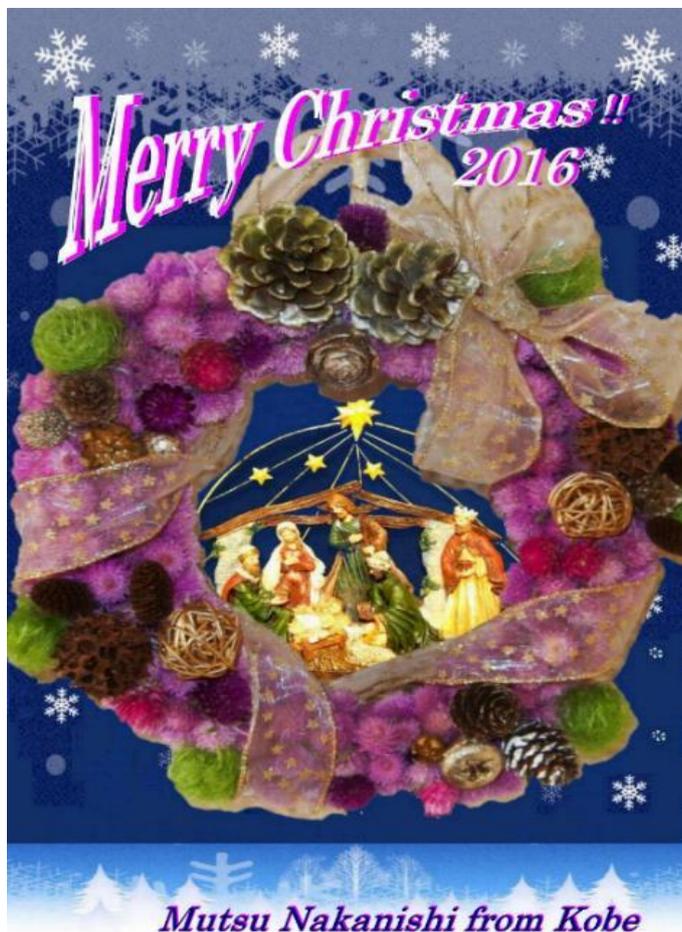
<http://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/201610/0009564111.shtml>

【From Kobe 12月の便り】

.2016.12.10.

Merry Christmas!! 2016 年師走 本年最後のHP 更新の便り

● この世界の片隅で 久しぶりに映画「この世界の片隅に」を見て
「縄文の心」の小文ではじまつた1年でしたが、しめくりの12月にもまた「縄文の心」で
幸福感よりも不安感が増す激変・変革の時代の今 今一度立ち止まって「地球環境」「平和」「暮らし」を考えたい
by Mutsu Nakanishi



11月の寒波襲来が嘘のような師走の温かさ 異常気象が続く中 神戸ではルミナリエも始まり、
クリスマスの装いをした街に 華やいだ声があふれ、神戸の街も師走のムードに
振り返ってみると あっという間の1年 色々気にかけていただき ありがとうございます。
この1年 格差の増大と幸福感が日に日に遠のいてゆく現実がひたひたと弱者切り捨て
問答無用の封建時代に戻ってゆくような現実が ひたひたと。そんな不安感が頭をよぎる昨今
われわれも 勝ち組の仲間の中に入れてほしいなあと でも 愚痴は言うまい 前向いて
歳をとるとともに スピードについてゆけず、
あっという間 色々あった1年だったですが、
おかげ様で孫たちもすくすく家族ともども元気に暮らしています
まだまだ 元気 好奇心もある
新長田の「鉄人28号」 原色に近い色に塗りなおされ、
こぶしを空高く高く 振り上げる
これからも 仲間の元気を活力に 前向いてと
お互い無理せず元気に よろしくお祈りします

2016年クリスマス

Mutsu Nakanishi From Kobe



● **この世界の片隅で** 久しぶりに映画「この世界の片隅に」を見て
「**縄文の心**」の小文ではじまつた1年でしたが、しめくりの12月にもまた「**縄文の心**」で
幸福感よりも不安感が増す**激変・変革の時代**の今 今一度立ち止まって「**地球環境**」「**平和**」「**暮らし**」を考えたい

久しぶりにアニメ映画「この世界の片隅に」を見た。
戦時下 空襲にさらされ、逃げまどい そして原爆投下の厳しい現実。
そんな呉・広島^の街で暮らす若夫婦の生活・絆を淡々と描かれる。
年寄世代にはちよつと物足りぬ面もあるのですが、
こんなに淡々と戦争悪を描けるのかと。
ちょっとすがすがしさを感じながら 映画館をでてきました。

知らなかったのですが、今この映画に多くの若者たちが共感して
続々上映館が増えてヒット中と聞く。
これはうれしい若者の変化の兆しか……
機会があれば ぜひ一度どうぞ



一年の終わりに また今一度 「鉄」と「縄文の心」に思いを

生命をつかさどる**元素**・文明を支える**元素**として「**鉄**」がなければ人類は生きてゆけない
溶鉄の輝き「**閃光**」と鉄の黒光り「**肌光**」その輝きの中に燦然と輝く「**鉄**」と人類の知恵の数々
人類が**激変**する地球を生き抜いてきた**唯一の道**・知恵が「**他人を思いやる心**」
かつて日本には 1万年の長きにわたって**平和な社会**を持続した**形成**してきた時代があった
日本人の心のふるさとといわれる「**縄文**」 その**エンジン**は「**縄文の心**・他人を思いやる心」だった
「**鉄**」と「**縄文の心**」 **激変** の今 時代を生き抜く**唯一のエンジン**である
現代社会においてはしばしば「**なまっちょろい**」と呼ばれ、切り捨てられてきた「**心**」
でも 一旦**危機**・災害に直面した時には 誰しもがその**力強さ**に心打たれる「**心**」
「**鉄**」も今 **激変**する時代の中で、**新しい姿**を見せ、**新しい指針**を示し始めた。
「**鉄は国家なり**」の「**鉄**」から「**豊かな海を育てる優しい鉄**」・「**地球温暖化を軽減するかもしれない鉄**」へ

世界の先陣を走っているといいつつも、厳しい競争にさらされ、幸福感が味わえぬ高度情報社会のギャップの大きさ。
今 世界でそのほころびが目立ち、戦争の危機・貧困・格差の克服の道さえ見えず、軽薄な**アジテーション**。
自分さえよければの**独裁**・**保護主義**の道への入口にいる。日本でも例外でない。今 一度考えよう。

世相は混沌 世界の情勢も 既存勢力が次々とどんでん返し。こんなはずではなかったとの声も。
グローバル化・効率・大量消費を追い求めた**国際金融中心**の情報化社会のほころびがあちこちに。
過度の**グローバル化**・**金融主義**がもたらす過度の競争と格差の急拡大が抜き差しならぬものとなり、**大国主義**の増長
と**スピード**と数の力に頼った薄っぺらな**東京一極集中** 情報社会の弊害もますます拡大しつつある。
自己責任と想定外を声高に叫び、自分さえよければ…の**保護**ご都合主義の声も日増しに拡大している。
貧困・核の脅威・戦争の拡大が我が身にも 現実のものとなって迫ってくる。
この1年 格差の増大と幸福感が日に日に遠のいてゆく現実がひたひたと
弱者切り捨て、問答無用の**強権** なにか**封建時代**に戻ってゆくような**錯覚**さえ漂う現実が ひたひたと。
そんな不安感が頭をよぎる**昨今** 何の反省もなく、何か日本だけが**旧態依然**の中央一極集中を**猛スピード**で

ひた走り、いまだに金遣いの荒い箱もの政治で悦に入っている政治家たち。
国際化を口を開けば標榜しながらも、世界の孤児に、薄っぺらな仲間政治に気がつかぬのか……

ごく普通の庶民に見える国際色豊かな外人たちが闊歩する日本の街を見れば、一目瞭然。日頃 マスコミが言うのとは違う現実が目の前に。日本は彼らにも負け、置いてきぼりになった実感がふつつと。

でも 突破口はどこにあるのだろうか……

内橋克人氏が警鐘を鳴らし続ける「頂点迎合主義」は もうまっぴら。

人に任せず、惑わされず、自分の感性をみがかねば……と

トランプに期待したって所詮自分の仲間にしかな興味がない人物。

彼に希望を託した人たちが報われれば、新たな希望が生まれるのですが、さあ どうでしょうか……

日本も東京以外に希望はないのか でも東京からはよせてもらえぬだろうなあ。

東京化をいくら主張したって、所詮 先は知れている。暗いなあ……と。

若者に静かなブームだという映画「この世界の片隅に」で聞く若者の変化の兆し……

現実をしっかりと見つめる若者が時代の先端を担ってほしいと

「縄文の心」の小文ではじまった1年でしたが、師走の12月にも また「縄文の心」を訴える
地球環境変化による異常気象や地球の活動活発化による巨大災害が降りかかる時代
誰もが、大災害に巻き込まれかねぬ時代 危険予知をしっかりと、少しでも災害の軽減に 抜かりなきよう。

暖冬が続いていますが、気象激変がわが身に迫る時代まもなく「北風小僧がやってくる」

インフルエンザの季節 体調管理でにご留意ください。

私も長びく風邪 早く治したいと。

2016.12.10. From Kobe Mutsu Nakanishi

参考1 和鉄の道・Iron Road 【縄文の心・他人を思いやる心】 縄文帰りのの勧め

世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」

そのエンジンは「他人を思いやる心」 人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道でもある

- ◆ 2016年1月 2016年年初めに <<縄文の心>> 2016.1.1.

世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」

そのエンジンは「他人を思いやる心」 人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道でもある

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/2016mutsu/fkobe1601.pdf>

- ◆ 「利他的精神」について 朝日新聞天声人語より

競争社会から成熟社会へ 日本に必要なのは「心の優しさ」では 2014.6月

<http://www.infokkna.com/ironroad/2014htm/2014mutsu/fkobe1406B.pdf>

北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に



<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

参考2 和鉄の道・Iron Road 「鉄」は豊かな海の源

- ◆ 畠山重篤 山と海の出逢い -つながりと恵みを巡る旅- 第18回「鉄の誘い」

「鉄」は豊かな海の源 雑誌「岳人」2016年2月号掲載雑誌

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1604tetsuenosasoieb.pdf>